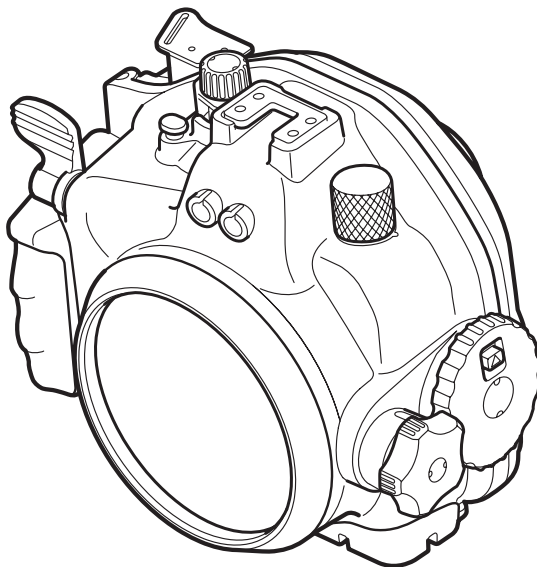


OLYMPUS®

PT-E06



Jp

取扱説明書

デジタルカメラ **€-620** 用防水プロテクター

En

Instruction Manual

Underwater Case for digital camera **€-620**

Fr

Mode d'emploi

Caisson étanche pour l'appareil photo numérique **€-620**

De

Bedienungsanleitung

Unterwassergehäuse für Digitalkamera **€-620**

Sp

Manual de instrucciones

Caja estanca para la cámara digital **€-620**

Cs

使用说明书

数码照相机 **€-620** 专用防水机壳

Kr

사용설명서

디지털 카메라 **€-620** 용 방수 케이스



- このたびは、防水プロテクター PT-E06（以下プロテクター）をお買い上げいただき、ありがとうございます。
- この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、この説明書はお読みになった後、必ず保管してください。
- 誤った使い方をされると水漏れにより中のカメラが破損し、修理不能になる場合があります。
- ご使用前には、この説明書にしたがい、必ず事前チェックを実施してください。

はじめに

- 本書の内容の一部または全部を無断で複製することは、個人としてご利用になる場合を除き禁止されています。また、無断転載は固くお断りいたします。
- 本製品の不適切な使用により、万が一、損害が発生した場合、逸失利益に関し、または、第三者からのいかなる請求に対し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

ご使用の前に必ずお読みください

- このプロテクターは、水深40m以内の水中で使用するよう設計された精密機械です。取り扱いには十分ご注意ください。
- プロテクターのご使用前の取り扱い方法と事前チェック、メンテナンス、ご使用後の保管方法はこの取扱説明書の内容をよくご理解のうえ、正しくご利用ください。
- プロテクターご使用の際は、必ず別売の防水ポートと組み合わせてご使用いただく必要があります。ご注意ください。
- デジタルカメラの水没事故は、当社では一切その責任を負いかねます。また、水没による内部機材の損傷、記録内容や撮影に要した諸費用などの保証はいたしかねます。
- 使用時の事故（人身・物損）の補償はいたしかねます。

Jp

安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

⚠ 警告

- ① 本製品を乳児、幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生の可能性があります。
 - ・高いところから身体の上に落下し、けがをする。
 - ・開閉部に身体の一部をはさみけがをする。
 - ・小さな部品、Ｏリング、シリコングリス、シリカゲルを飲み込む。万が一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
- ② 本製品に装填されるデジタルカメラに電池を入れたまま保管しないでください。電池を入れたまま保管すると、液漏れや火災の原因となることがあります。
- ③ 本製品をご使用の際は、必ず別売の防水ポートを組み合わせてご使用ください。本製品単独ではご使用できません。
- ④ 万が一、本製品にカメラを装填した状態で水漏れがあった場合は、カメラに装填された電池を速やかに抜いてください。水素ガスの発生による燃焼・爆発の可能性があります。
- ⑤ 本製品は樹脂製です。岩などの固いものに強くぶつけると破損し、けがをする可能性があります。取り扱いには十分ご注意ください。

⚠ 注意

- ① 本製品の分解、改造はしないでください。水漏れや不具合発生の原因となることがあります。当社指定者以外の者による修理、分解、改造その他の理由により生じた画像データの消失による損害及び逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねます。
- ② 以下のような場所で本製品を使用または保管した場合、動作不良や故障、破損、火災、内部の曇り、水漏れの原因となります。絶対に避けてください。
 - ・直射日光下や自動車の中など高温になるような場所
 - ・火気のある場所
 - ・水深４０ｍより深い水中
 - ・振動のある場所
 - ・高温多湿や温度変化の激しい場所
 - ・揮発性物質のある場所
- ③ 砂、ほこり、塵の多いところで開閉すると防水性能が損なわれ水漏れの原因となることがあります。絶対に避けてください。
- ④ 本製品は装填されたカメラへの衝撃をやわらげるケースではありません。本製品にデジタルカメラを装填した状態で衝撃を与えたり、重いものを載せたりするとデジタルカメラが故障する場合があります。取り扱いには十分ご注意ください。
- ⑤ 洗浄・防錆・防曇・補修等の目的で、下記の薬品類を使わないでください。プロテクターに直接、あるいは、間接的（薬剤が気化した状態）に使用した場合、高圧下でのひび割れなどの原因となります。

使用できない薬品類	説 明
揮発性の有機溶剤、化学洗剤	プロテクターをアルコール・ガソリン・シンナーなどの揮発性有機溶剤、または化学洗剤等で洗浄しないでください。洗浄は真水、または、ぬるま湯で十分です。
防錆剤	防錆剤を使用しないでください。金属部分はステンレスおよび真鍮を使用しており、真水による洗浄で十分です。
市販防曇剤	市販の防曇剤を使用しないでください。必ず指定の防曇剤シリカゲルを使用してください。
指定外のシリコングリス	シリコンＯリングに指定品以外のシリコングリスを使用しないでください。Ｏリングの表面が変質して、水漏れの原因となります。
接着剤	補修などの目的で接着剤を使用しないでください。補修が必要な場合は販売店または弊社サービスステーションにご相談ください。

- ⑥ プロテクターをポケットに入れたまま、あるいは、持ったまま水中に勢よく飛び込んだ場合や船上から海へ放り投げる等、乱暴に扱うと水漏れする場合があります。手渡しをする等、取り扱いには十分ご注意ください。

- 
- ⑦ 万が一、水漏れ等で内部のカメラが濡れた場合は直ちにカメラの水分を拭き取り乾いてから、動作確認をしてください。
 - ⑧ ポート取り付け部、TTL ケーブルコネクタ部、ズームダイヤル部、三脚座等には過大な力をかけないでください。
 - ⑨ ガス抜き弁を内側から押さないでください。
 - ⑩ 飛行機で移動する場合は、Oリングを取りはずしてください。気圧の関係でプロテクターが開かなくなることがあります。
 - ⑪ 本製品に装填されるデジタルカメラを安全にお使いいただくために、デジタルカメラの取扱説明書をよくお読みください。
 - ⑫ 本製品を密閉する際はOリングおよびその接触面に異物を挟み込まないように十分ご注意ください。
 - ⑬ 本製品とオリンパス製フラッシュを組み合わせる場合、カメラのホットシュー部にホットシューケーブルを装着した状態では、カメラの内蔵フラッシュをポップアップできません。無理にポップアップした場合、フラッシュが正常に動作せず、また、カメラのホットシュー部に装着したホットシューケーブルがはずれる場合があります。また、デジタルカメラの破損の原因となりますので十分ご注意ください。
 - ⑭ 本製品では、カメラの内蔵フラッシュ光での撮影はできません。

もくじ

はじめに	1
ご使用の前に必ずお読みください	1
安全にお使いいただくために	1
1. 準備をしましょう	6
箱の中を確認します	6
各部名称	7
別売の防水ポートを取り付けます	8
ハンドストラップを取り付けます	8
カメラ台の取り付け方・取りはずし方	9
2. プロテクターの事前チェックをしましょう	10
使用前の事前チェック	10
3. エレクトロニックフラッシュへの接続方法	11
水中光ファイバーケーブルで接続する場合	11
TTLケーブルで接続する場合	12
4. デジタルカメラを装填しましょう	14
デジタルカメラをチェックします	14
プロテクターを開けます	15
デジタルカメラをカメラ台に取り付けます	15
デジタルカメラを装填します	16
装填状態のチェックをします	17
プロテクターを密閉します	18
装填後の動作チェック	18
最終チェックをします	18
目視検査	18
水漏れテスト	19
5. 撮影終了後の取り扱い方法	20
水滴を拭き取りましょう	20
デジタルカメラを取り出します	20
プロテクターを真水で洗います	20
プロテクターを乾燥させましょう	21
6. 防水機能のメンテナンスをしましょう	22
Oリングを取りはずします	22
砂・ゴミなどを取り除きましょう	22
Oリングを取り付けます	22
Oリングへのグリス塗布方法	23
消耗品は取り替えましょう	24
TTLコネクタとTTLケーブルの固定ネジ部メンテナンス	24
TTLコネクタキャップのメンテナンス	24



7. 付録 25

 仕様 25

 PT-E06 付属品 25

 防水ポート 25

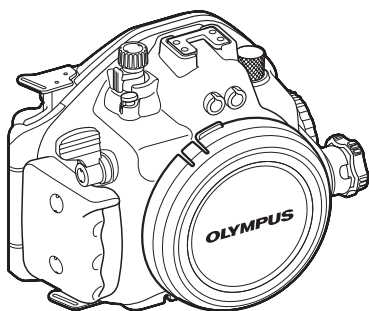
 その他別売品 26

1. 準備をしましょう

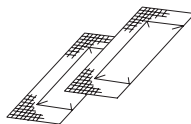
箱の中を確認します

箱の中の付属品はすべてそろっていますか。

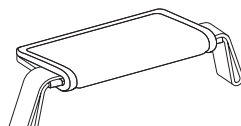
万が一、付属品が不足していたり、破損している場合はお買上げ販売店までご連絡ください。



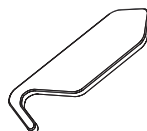
- プロテクター本体
(リヤケース・フロントケースと
もにOリングが装着されている
ことを確認してください)



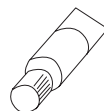
- シリカゲル (2g)



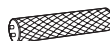
- ハンドストラップ



- Oリングリムーバー



- シリコングリス



- メンテナンス用アダプタ

- オリンパス代理店リスト

- 取扱説明書 (本書)

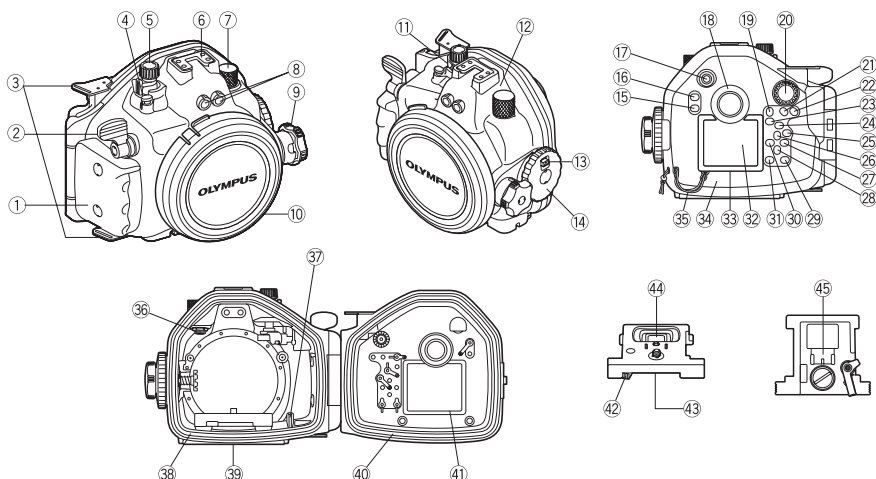
注意:

ご購入後、新品の状態でも必ずメンテナンスを行ってください。メンテナンスを怠りますと水漏れの原因となる場合があります。

メンテナンスの方法はP.22をご覧ください。

Jp

各部名称



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--------------|------------------|---------------------|---------------|-----------------|------------------|------------------------|-------------|-------------|----------------|--------|-------------|------------|---------------------|----------------------------|-----------|------------------|------------------------|------------------|------------|-------------------------------|------------------------------|----------------------|-------------------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|----------------------------|------------|-----------|--------|----------------|------------------------------|--------------|---------------------|---------|---------------------|---------------|-------------|----------|--------------|------------------|
| ※ ① パームグリップ | ※ ⑩ シャッターレバー | ※ ⑪ ハンドストラップ用つり輪 | ※ ⑫ 露出補正 (露出補正) ボタン | ※ ⑬ モードダイヤルノブ | ※ ⑭ アクセサリー取り付け部 | ※ ⑮ TTLケーブルコネクタ部 | ※ ⑯ 光ファイバーケーブル差込口、キャップ | ※ ⑰ ズームダイヤル | ※ ⑱ ボディキャップ | ※ ⑲ パワースイッチレバー | ※ ⑳ 前蓋 | ※ ㉑ スライドロック | ※ ㉒ 開閉ダイヤル | ※ ㉓ MENU ボタン | ※ ㉔ INFO (情報表示) ボタン | ※ ㉕ ガス抜き弁 | ※ ㉖ ピックアップファインダー | ※ ㉗ AEL/AFL ボタン | ※ ㉘ コントロールダイヤルノブ | ※ ㉙ Fn ボタン | ※ ㉚ [AF] (AFターゲット) ボタン | ※ ㉛ [REPLAY] (再生) ボタン | ※ ㉜ [I/O] ボタン | ※ ㉝ [ON/OFF] ボタン | ※ ㉞ 十字ボタン ▲ | ※ ㉟ 十字ボタン ► | ※ ㊱ 十字ボタン ▼ | ※ ㊲ IS ボタン | ※ ㊳ 十字ボタン ◀ | ※ ㊴ [DISP] (消去) ボタン | ※ ㊵ 液晶モニタ窓 | ※ ㊶ 液晶フード | ※ ㊷ 後蓋 | ※ ㊸ 液晶フードストラップ | ※ ㊹ ホットシューケーブル取り付け部 (キャップ付き) | ※ ㊺ 装填ガイドレール | ※ ㊻ Oリング (POL-E06B) | ※ ㊼ 三脚座 | ※ ㊽ Oリング (POL-E06A) | ※ ㊾ 液晶インナーフード | ※ ㊿ カメラ台ロック | ※ ㊿ カメラ台 | ※ ㊿ アイカップ収納部 | ※ ㊿ ホットシューカバー収納部 |
|-------------|--------------|------------------|---------------------|---------------|-----------------|------------------|------------------------|-------------|-------------|----------------|--------|-------------|------------|---------------------|----------------------------|-----------|------------------|------------------------|------------------|------------|-------------------------------|------------------------------|----------------------|-------------------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|----------------------------|------------|-----------|--------|----------------|------------------------------|--------------|---------------------|---------|---------------------|---------------|-------------|----------|--------------|------------------|

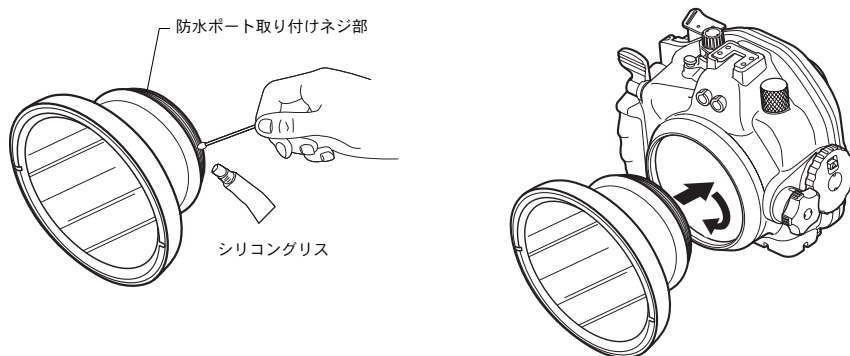
メモ:

※印のプロテクター操作部はデジタルカメラの各操作部に対応しています。プロテクター操作部を操作することによってデジタルカメラの対応する機能が動作します。詳しい機能の内容についてはデジタルカメラの取扱説明書をご覧ください。

別売の防水ポートを取り付けます

本製品はデジタルカメラに装着されているレンズに合わせ、プロテクター本体前面にレンズ用の防水ポートを装着し、水中でご使用いただけます。

- プロテクター本体への防水ポートの装着は、防水ポートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ装着してください。
- 本製品付属のシリコングリスを、装着する防水ポートの O リング部およびプロテクター本体の防水ポート取り付けネジ部に、適量を塗布します。
- 防水ポートをプロテクター本体へ時計回りに止まるまで静かにねじ込みます。

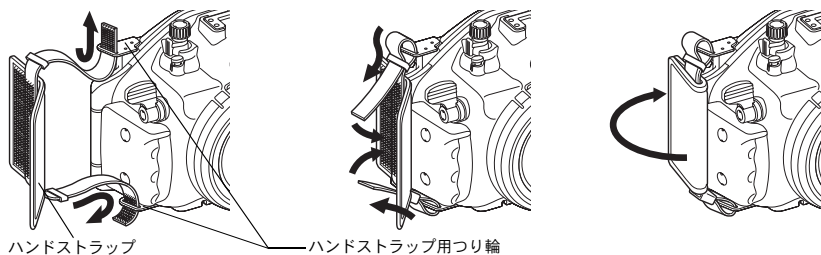


⚠ 注意:

本製品は水深40m以内の水中でご使用ください。たとえ装着される防水ポート等が40mよりも深い水深に対応していても、ご使用可能な水深は40m以内に制限されます。

ハンドストラップを取り付けます

プロテクター本体にハンドストラップを取り付けましょう。



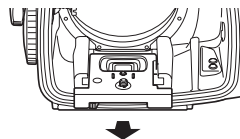
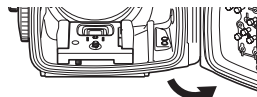
Jp

カメラ台の取り付け方・取りはずし方

本製品は、本プロテクター前蓋側の内部に設置されているカメラ台を使用してデジタルカメラの装填を行います。

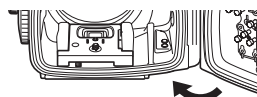
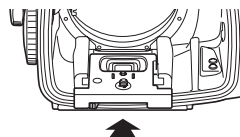
取りはずし方

- ① 本プロテクターのスライドロックおよび開閉ダイヤルを開き、後蓋を開きます。
- ② カメラ台ロックを左にスライドし、ロックを解除します。カメラ台を手前に引き出します。



取り付け方

- ① カメラ台を本プロテクター前蓋側に設置されているカメラ台装填溝へ止まるまで差し込みます。カメラ台ロックを右にスライドし、ロックします。
- ② 本プロテクターの後蓋を静かに閉じ、開閉ダイヤルを閉じて固定します。



注意:

カメラ台が本プロテクター前蓋側に設置されているカメラ台装填溝の奥に突き当たるまで正しく装填されていない状態で、本プロテクターの後蓋を無理に閉じると、本プロテクターやデジタルカメラの破損の原因となりますので十分ご注意ください。

2. プロテクターの事前チェックをしましょう

使用前の事前チェック

本プロテクターは、製造工程での部品の品質管理および組立工程での各機能検査などを厳重に実施しています。さらにすべての製品は高水圧試験機により水圧試験を実施し、仕様通りの性能が守られているか検査を行い合格したものです。

しかしながら、持ち運びや、保管の状態、メンテナンスの状況など何らかの原因で防水機能にダメージを受ける場合があります。

ご使用前には、必ず事前チェックを実施してください。

プロテクターの防水部チェック

本プロテクターの防水部をそれぞれ確認します。

- ① プロテクターのOリングが確実に装着され、スライドロックおよび開閉ダイヤルによって閉じられていること。
- ② プロテクター本体に別売の防水ポートを取り付け、プロテクター本体と防水ポート部間のOリングが確実に装着され、プロテクターと防水ポートが正しく装着されていること。
- ③ TTLコネクタキャップのOリングが確実に装着され、キャップが緩みなくコネクタへねじ込まれていること。

事前チェック

- ① デジタルカメラをプロテクターに装填する前に、空の状態の水漏れの有無を確認してください。
ご使用になる水深に沈めて確認する方法が一番適切ですが、この方法で確認できない場合は、「水漏れテスト」(P.19)を参考にテストしてください。
- ② 水漏れ事故は、主に以下のことが原因で起こります。
 - ・ Oリングの取り付け忘れ
 - ・ Oリングの一部または全部が所定の溝からはずれていた
 - ・ Oリングの傷やヒビ、または変質・変形
 - ・ OリングやOリング溝、各Oリング接触面への砂・繊維くず、髪の毛など異物の付着
 - ・ 各Oリング接触面やOリング溝内の傷
 - ・ プロテクターを閉じる際の付属ストラップやシリカゲルの挟み込みテストは上記の原因を取り除いて行うようにしてください。

注意:

万が一、事前テスト中に正常な取り扱いで水漏れが確認された場合はご使用を中止し、商品お買上げの販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。

Jp

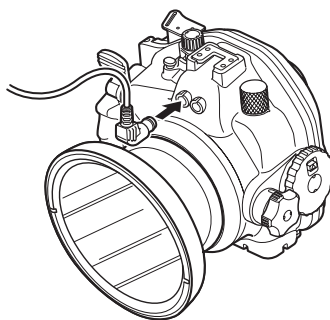
3. エレクトロニックフラッシュへの接続方法

水中光ファイバークーブルで接続する場合

別売の水中フラッシュ UFL-2を水中光ファイバークーブル（別売：PTCB-E02）で接続して撮影を行う場合、下記の手順にしたがって接続します。

水中光ファイバークーブルの接続

- ① 光ファイバークーブル差込口のキャップを取り外します。



- ② 水中光ファイバークーブルのコネクタを光ファイバークーブル差込口に、止まるまでしっかりと差し込みます。

デジタルカメラの設定

- ① カメラのRCモードをONに設定して、内蔵フラッシュを発光できる状態にします。
- ② カメラの内蔵フラッシュをポップアップした状態でカメラをプロテクターに装着します。

UFL-2側の操作はUFL-2の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 注意:

他社製スレーブフラッシュを水中光ファイバークーブルで接続して撮影を行う場合は、カメラ本体の内蔵フラッシュを発光比1/64のマニュアル発光に設定してください。

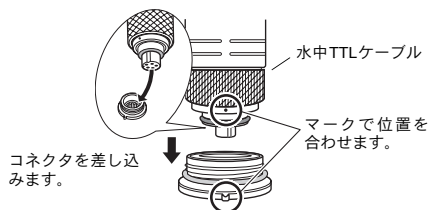
カメラの内蔵フラッシュの発光比が1/64より大きい場合、内蔵フラッシュ光がレンズポートに反射して撮影画像に写りこむことがあります。

TTLケーブルで接続する場合

別売のエレクトロニックフラッシュを、水中TTLケーブル（別売：PTCB-E01）で接続して使用する場合、ホットシューケーブル（別売：PHCB-01）をカメラ及びプロテクター前蓋側にある取り付け部に接続します。

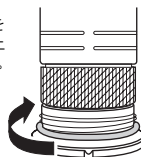
水中TTLケーブルの接続

- ① プロテクター本体のTTLコネクタキャップを反時計回りに回転させて取り外します。
- ② 水中TTLケーブル（別売：PTCB-E01）のコネクタを、プロテクターに接続します。



- ③ 水中TTLケーブルを使用しない場合は、TTLコネクタキャップを装着してください。キャップ内部及びTTLケーブルコネクタ部のOリングに異物が付着していないことを確認し、キャップを時計回りに軽く止まるまで回転して、装着します。

コネクタのネジを時計回りに軽く止まるまで回します。



Oリングの確認



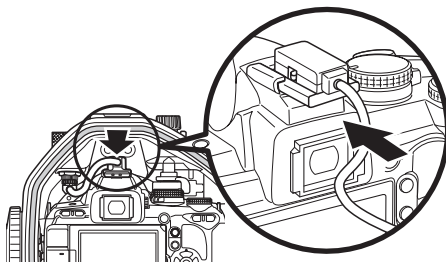
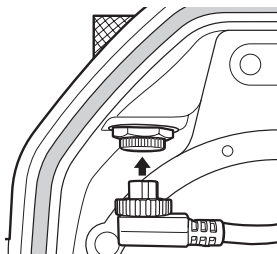
注意:

TTLコネクタキャップが緩んでいると、水漏れの原因となる場合があります。

Jp

ホットシューケーブルの取り付け方

- ① プロテクター内側のホットシューケーブルコネクタ部のキャップを反時計回りに回転し、取り外します。
- ② ホットシューケーブルのコネクタ側をプロテクターのコネクタに差し込み、コネクタネジを時計回りに止まるまで回し、固定します。この時、カメラはプロテクターから取り出して装着してください。
- ③ カメラをプロテクターに装填した後に、カメラにホットシューケーブル本体を装着します。



デジタルカメラの設定

- ① カメラの自動ポップアップの設定を OFF に設定します。カメラの AUTO や水中モード以外のシーンモードでは、内蔵フラッシュは暗いときや逆光のときに自動的にポップアップします。内蔵フラッシュが自動的にポップアップしないようにカメラの設定を変更します。
設定方法については、カメラの取扱説明書をご覧ください。
- ② エレクトロニックフラッシュ側の電源をカメラより先にONに設定して使用します。
エレクトロニックフラッシュをご使用の場合は、必ずカメラより先にエレクトロニックフラッシュの電源をONにしてください。
カメラの自動ポップアップの設定がONの状態ではカメラの撮影モードがAUTOまたは水中モード以外のシーンモードに設定されている場合、エレクトロニックフラッシュ側の電源よりも先にカメラ側の電源をONにすると、カメラの内蔵フラッシュが自動的にポップアップしてしまう場合がありますので、必ずエレクトロニックフラッシュ側の電源を先にONにご使用ください。

注意:

- カメラにホットシューケーブルが接続された状態で内蔵フラッシュがポップアップした場合、内蔵フラッシュとホットシューケーブル本体が干渉し、ホットシューケーブル本体がカメラからはずれ、接続不良に至る場合がありますので、ご注意ください。
- 他社製のスレーブ発光タイプの水中フラッシュを使用する場合は、カメラの内蔵フラッシュをポップアップした状態でプロテクターに装填してください。
- カメラをプロテクターに密閉した状態で、カメラの内蔵フラッシュをポップアップしたり収納したりすることはできません。

4. デジタルカメラを装填しましょう

デジタルカメラをチェックします

本プロテクターに装填する前にデジタルカメラをチェックします。

1. 電池の確認

水中撮影では液晶モニタを使用して撮影後に画像の確認をしますので、電池の寿命が短くなる場合があります。電池残量が十分あることを確認してください。

2. 撮影可能枚数の確認

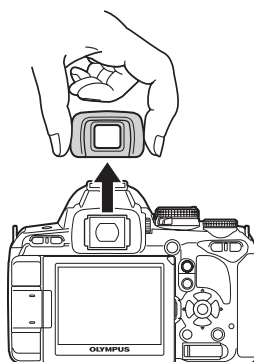
記録メディアの撮影可能枚数が十分にあることを確認してください。

3. デジタルカメラのストラップやレンズキャップをはずしましょう

ストラップやレンズキャップをはずさずにデジタルカメラを装填した場合、プロテクターが正しく閉まらずに、水漏れの原因となる場合があります。

4. デジタルカメラのアイカップをはずします

デジタルカメラのアイカップをはずして、本プロテクターへデジタルカメラを装填します。カメラからはずしたアイカップはカメラ台に収納できます。



⚠ 注意:

アイカップをはずさずにデジタルカメラを装着して本プロテクター後蓋を閉めた場合は、ピックアップファインダーが飛び出ます。
アイカップをはずしてから、ピックアップファインダーを押し込んでください。
アイカップをつけたままの状態で使用した場合、水漏れの原因となる場合があります。

5. デジタルカメラのフィルタを取りはずします

デジタルカメラのレンズにフィルタを取り付けたまま、プロテクターに装填することはできません。

プロテクターを開けます

- ① スライドロックを矢印の方向（①）にスライドしながら、開閉ダイヤルを反時計回り（②）にまわします。
- ② 開閉ダイヤルの回転が止まる位置まで回します。
- ③ プロテクターの後蓋を静かに開きます。



⚠ 注意:

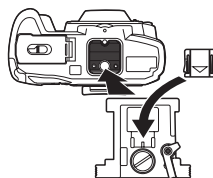
開閉ダイヤルに無理な力を加えて回さないでください。破損する場合があります。

デジタルカメラをカメラ台に取り付けます

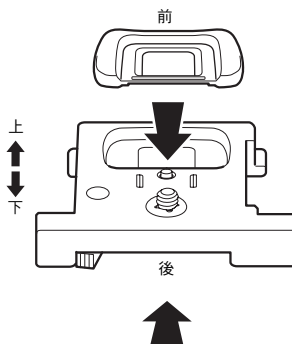
デジタルカメラを本プロテクターに装填するために、本プロテクター前蓋側の内部に設置されているカメラ台をデジタルカメラに取り付けます。

- ① デジタルカメラのアイカップやホットシューカバーをカメラ台に収納できます。

- ② デジタルカメラ底部の三脚座部分へカメラ台を取り付けます。取り付けは、デジタルカメラの三脚穴を使用します。



- ③ カメラ台には上下と前後の向きがあります。右図を参考に間違いのないように取り付けてください。

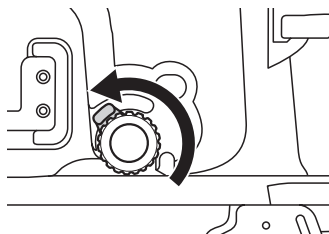


デジタルカメラを装填します

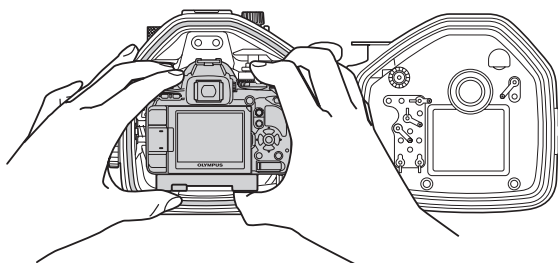
- ① 本プロテクターのズームダイヤルとモードダイヤル（パワースイッチレバーも同時にもち上がります）を、デジタルカメラの装填時に干渉しないように引き出します。



その際、パワースイッチレバーの向きを下図のような位置に合わせます。



- ② デジタルカメラに装着したカメラ台を、デジタルカメラとともに本プロテクターのカメラ台装填溝へ装填します。この際、無理に装填せず、デジタルカメラが本プロテクター内部の部品に干渉しないように確認しながら静かに装填してください。



- ③ デジタルカメラ装填前に引き出した本プロテクターのズームダイヤルとモードダイヤルを静かに押し下げ、ズームダイヤルでズーム操作がスムーズにできるか、パワースイッチレバーでデジタルカメラの電源をON/OFFできるかモードダイヤルでカメラのモードダイヤルを操作できるか確認します。



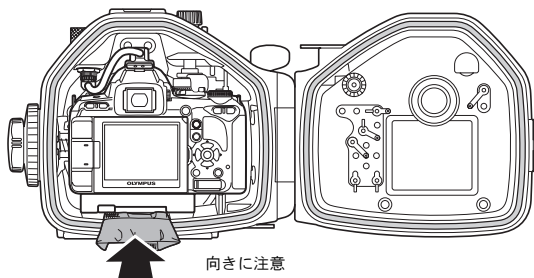
Jp

⚠ 注意:

- デジタルカメラ装填前に、別売の防水ポートの取扱説明書を確認し、レンズのズームリングやフォーカスリングへのズームギアやフォーカスギアの装着と位置決めを正しく行ってから、本プロテクターへ装填してください。
- レンズに装着したズームギアやフォーカスギアと本プロテクター側のズームダイヤルギアが正しくかみ合っていない場合、ズームやフォーカス操作ができません。また、ギアがかみ合っている場合でも、デジタルカメラを装填する際に、レンズのズーム範囲やフォーカス範囲が制限されてしまう場合があります。別売の防水ポート付属の取扱説明書をよくご確認のうえ、正しくセットしてください。

④ シリカゲルを装填します。

プロテクターを密閉する前に必ず付属の防曇剤シリカゲル袋を、カメラ台下部とプロテクター内面との間にに入れてください。シリカゲルは両側を下に折り、横方向にして入れてください。



⚠ 注意:

- 途中まで入れたままでプロテクターを閉めるとシリカゲルの袋をＯリングが挟み込み水漏れの原因となります。
- 一度使用したシリカゲルは吸湿性能が衰えています。シリカゲルはプロテクター開閉時に毎回交換することをおすすめします。

Jp

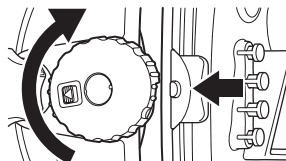
装填状態のチェックをします

プロテクターを密閉する前に、以下の通り各部のチェックをします。

- デジタルカメラのアイカップははずしてあるか。
- Ｏリングのメンテナンスは確실히行ったか。
- ズームダイヤルが正しく機能するようにデジタルカメラが装填されているか。
- シリカゲルは指定された位置に奥まで挿入されているか。
- 各Ｏリングと接触面にゴミなどの異物が付着していないか。
- Ｏリングは正常に装着されているか。
- エレクトロニックフラッシュと TTL 接続して使用する場合、ホットシューケーブルが正しく装着され、カメラの自動ポップアップの設定がOFFに設定されているか。
- 水中フラッシュUFL-2と光ファイバーケーブルで接続したり、他社製のスレーブフラッシュを使用する場合は、カメラの内蔵フラッシュがポップアップされているか。

プロテクターを密閉します

- ① 後蓋を静かに閉じます。(Oリングが溝からはずれないように静かに閉じてください)
- ② 開閉ダイヤルを時計方向に回します。
 - スライドロックの位置が真上に来るとプロテクターが密閉されます。



⚠ 注意:

開閉ダイヤルを十分に回していない場合は、プロテクターが密閉されずに水漏れするおそれがありますので、ご注意ください。

装填後の動作チェック

プロテクター密閉後、カメラが正しく機能するか動作チェックをします。

- プロテクターのパワースイッチレバーを操作し、カメラの電源がON/OFFできるか。
- プロテクターのモードダイヤルノブを操作し、カメラのモードが正しく切り変わるか。
- プロテクターのシャッターレバーを操作し、カメラのシャッターを操作できるか。
- プロテクターのズームダイヤルを操作し、レンズのズーム操作が可能かどうか。
- その他、プロテクターの各種操作ボタンを操作して、カメラが機能するか。

最終チェックをします

目視検査

プロテクターを密閉後、プロテクターの前蓋、後蓋の密閉部分およびプロテクター本体とポートの装着部分の周囲を外側から見て、Oリングのよじれやはずれ、異物の挟み込みがないことを確認してください。

⚠ 注意:

髪の毛や繊維くず等細かいものは目立ちませんが水没事故の原因になります。特にご注意ください。

Jp

水漏れテスト

ここではカメラ装填後の最終水漏れテストをご紹介します。必ず行いましょう。水槽またはバスタブなどで簡単に行えます。

所用時間約5分

水漏れテスト	説明画像	ちょっとヒントです
① ゆっくりと水の中に入れていきます。		プロテクターの裏蓋は透明なので、水滴が入っても簡単に確認できます。
② 最初は 3 秒だけ水につけてみます。		Oリングにトラブルがあれば3秒だけでも浸水してきます。蓋の間から気泡が出てきませんか？
③ 内部に水が入っていないかチェックします。		水から引き上げてみてプロテクターの中に水が漏れていないか確認します。
④ 次は 30 秒水につけてチェックします。		気泡が出てこないか良く確認してください。水中の操作はまだしません。
⑤ 内部に水が入っていないかチェックします。		水から引き上げて下に水が漏れていないか確認します。
⑥ 次は 3 分水につけてチェックします。		気泡が出てこないか良く確認してください。よく使うボタン類を操作して気泡が出てこないか確認してください。
⑦ これが最後のチェックです。シリカゲルが濡れてませんか？		シリカゲルは濡れてませんか？
⑧ どこにも水漏れがなければOKです。		これで安心です。

5. 撮影終了後の取り扱い方法

水滴を拭き取りましょう

水中撮影終了後、陸または船に上がったらプロテクターに付いている水滴を拭き取ります。プロテクターの前蓋・後蓋の隙間、シャッターレバー、パームグリップ、開閉ダイヤルに付いている水滴などを繊維くずの出ない柔らかい布やエアーを使って丹念に除去します。

注意:

特にプロテクターの前蓋と後蓋の間、およびプロテクター本体とポート部の間に水滴が残っていると、プロテクターを開けたり、ポートを着脱する際にその水滴がプロテクター内にこぼれるおそれがあります。特に念入りに水滴を除去してください。

デジタルカメラを取り出します

本プロテクターの開閉ダイヤルを開き、後蓋を注意して開きます。
ズームダイヤルとモードダイヤルを引き出して、デジタルカメラと干渉しない状態にします。
カメラにホットシューケーブルが装着されている場合は、ホットシューケーブルを取り外します。
ゆっくりと両手を使ってデジタルカメラを取り出しましょう。

注意:

- プロテクターを開けたり、ポートを着脱する際、髪の毛や身体から落ちる水滴がプロテクター内部やカメラに落とさないよう十分ご注意ください。
- プロテクターを開けたり、ポートを着脱する際、手や手袋に砂・繊維くず等の異物がついていないことを確かめてください。
- 水しぶきや砂のかかる恐れのある場所ではプロテクターを開閉したり、ポートを着脱したりしないでください。電池や記録メディアの交換のためにやむを得ず開閉する場合は、物陰でシートを敷く等、水しぶきや砂のかからないようにしてください。
- 海水のついた手でデジタルカメラや電池に触れないよう注意してください。

Jp

プロテクターを真水で洗います

ご使用後のプロテクターは空のまま再度密閉してできるだけ早く真水で十分に洗います。
海水で使用した場合は、塩分を落とすために真水に一定時間（30分～1時間）浸けておくと効果的です。

注意:

- 部分的に高い水圧がかかると水漏れするおそれがあります。プロテクターを水洗いするときは装填したデジタルカメラを取り出してから行ってください。
- 本製品のシャッターレバーや各種ボタンを、真水中で操作してシャフトに着いた塩分を洗い落としてください。分解しての清掃は決してしないでください。
- 塩分が付着したまま乾燥させた場合、機能に支障を来すおそれがあります。使用後は必ず塩分を洗い落としてください。



プロテクターを乾燥させましょう

真水洗い後、塩分のついていない、繊維くずの出ない乾いた柔らかい布で水滴を拭き取り、風通しの良い日陰で完全に乾燥させてください。



注意:

乾燥させるためにヘアードライヤーなど温熱風を使用したり、直射日光に当てることはしないでください。プロテクターの劣化・変形やOリングの劣化を早め水漏れの原因になります。プロテクターをふく際は拭き傷を付けないようご注意ください。

6. 防水機能のメンテナンスをしましょう

Oリングは消耗品です。ご使用の都度メンテナンスをしてください。また、本製品ご購入直後でも、メンテナンスは必ず行ってください。防水機能のメンテナンスを怠ると水漏れの原因になります。手をきれいに洗って乾かしてから、砂や埃のない場所で行ってください。

Oリングを取りはずします

プロテクターを開けて、プロテクターに装着されているOリングを取りはずします。

Oリングの取りはずし方

- ① OリングとOリング溝の壁の間にOリングリムーバーを差し込みます。
- ② 差し込んだOリングリムーバーの先端をOリングの下にくぐらせるようにします。(Oリングリムーバーの先端で溝を傷付けないように注意してください)
- ③ 浮き上がったOリングを指先でつまんでプロテクターからはずしてください。

砂・ゴミなどを取り除きましょう

目視でOリングについたゴミを取り除いた後、Oリングを指でつまんで全周を軽くしごと、砂などの異物の付着や傷・ヒビ割れの有無が確認できます。

各Oリング溝は繊維の出にくい清潔な布、またはかすの出にくい綿棒などで付着した異物を取り除きます。プロテクターのOリング各密着面も同様に付着した砂・ゴミを取り除きます。

⚠ 注意:

- Oリングを取りはずすときや溝内部をクリーニングするときに、先端の鋭利なものを使用するとOリングやプロテクターに傷を付けて水漏れの原因になることがあります。
- 指先でOリングをしごいて検査する際に、Oリングを引き伸ばさないように注意してください。
- Oリングを洗浄する際には、アルコール・シンナー・ベンジン等の溶剤、または化学洗剤の使用は絶対に避けてください。これらの薬品を使用すると、Oリングに損傷を与えたり、劣化を早めるおそれがあります。

Jp

Oリングを取り付けます

異物がないことを確認後、Oリングに薄く付属のグリスを塗り、溝にOリングをはめ込みます。このとき、溝からOリングのはみ出しがないことを確認します。

本製品を密閉する際には、Oリングだけではなくその接触面（前蓋側）にも髪の毛、繊維くず、砂粒等の異物がついていないことを確認してください。

たとえば、髪の毛一本、砂粒一粒が挟まっても、水漏れの原因となります。特に念入りに確認してください。

Ｏリングへのグリス塗布方法

① 専用グリスをつけます。		指やＯリングにゴミの付着がないことを確認し、専用のグリスを指に５ミリ程度取り出します。（グリスの量は５ミリ程度が適切）
② グリスを全体に伸ばします。		指にとったグリスを３本の指で挟むように全体に伸ばしていきます。あまり力を入れてＯリングを引っ張らないように注意してください。
③ 傷や凹凸がないかチェックします。		全体になじんだグリスを確認して、手の感触と目で傷や凹凸がないかチェックしてください。傷があったら新品のＯリングに必ず交換します。
④ 圧着面にグリスを塗ります。		指に残ったグリスはプロテクターの圧着面の清掃とグリスアップに使用します。

⚠ 注意:

- 水中撮影ごとにプロテクターを開けた場合は防水機能のメンテナンスを必ず実施してください。防水機能のメンテナンスを怠ると水漏れの原因となります。
- 長期間使用しない場合は、Ｏリングの変形を避けるためにＯリングを溝からはずしてシリコングリスを薄く塗り、清潔なポリ袋などに入れて保管してください。

Jp

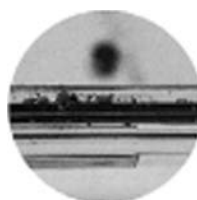
Ｏリングへの異物付着の一例



髪の毛



繊維屑



砂粒

消耗品は取り替えましょう

- ・ Oリングは消耗品です。プロテクターの使用回数にかかわらず、少なくとも1年以内に新品と交換されることをおすすめします。
- ・ 使用状況、保管状況によってはOリングの劣化が早まります。傷・ヒビ割れが入っていたり弾力が低下していたら1年未満でも交換してください。

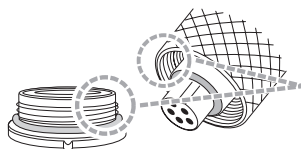
⚠ 注意:

- ・ 消耗品のシリコングリス、シリカゲル、本体用Oリングはオリンバス純正品をお使いください。
- ・ 操作ボタン部のOリングはお客様による交換はできません。
- ・ 定期的な点検をおすすめします。

TTLコネクタとTTLケーブルの固定ネジ部メンテナンス

TTLコネクタへTTLケーブルを接続する際の固定用ネジ部分は、メンテナンスを怠ると海中での使用による海水成分の析出等により、ネジがはずれにくくなる場合があります。

海中での使用後は、できるだけ早く塩抜きを実施し、十分乾燥させた後にネジ部を綿棒等で清掃し、製品付属のシリコングリスをたっぷり塗布してください。



この部分を清掃し、シリコングリスを塗布します。

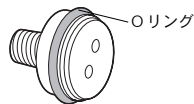
TTLコネクタキャップのメンテナンス

TTLコネクタキャップを本体から取りはずした場合は、必ずキャップ側のOリングをメンテナンスします。

メンテナンス用アダプタを使用してOリングユニットをキャップ本体から取りはずします。



- ① アダプタのピンをキャップ側の穴に合わせて差し込みます。
- ② 反時計回りにアダプタを回し、Oリングユニットを取りはずします。
- ③ OリングユニットについているOリングをはずしてOリング溝を清掃し、Oリングにシリコングリスを塗布し再び、ユニットへ装着します。



※ Oリングユニットを取りはずしたときと逆の手順でキャップ本体へ取り付けます。

7. 付録

仕様

対象カメラ	オリンパスデジタルカメラE-620
許容水深	水深40m以内
主要材質	本体：ポリカーボネート樹脂 開閉ダイヤル/シャッターレバー/パワースイッチレバー/モードダイヤルノブ/ コントロールダイヤルノブ/ズームダイヤル/カメラ台：ポリカーボネート樹脂 ポート取り付け部/ピックアップファインダ枠/別売ブラケット取り付け部/ ズームダイヤルギア/TTLコネクタキャップ：アルミニウム 各操作ボタン軸/ハンドストラップ用つり輪：ステンレス ボディキャップ：ABS樹脂 Oリング/液晶インナーフード：シリコンゴム 液晶フード：NBRゴム
サイズ	幅208.0mm×高さ169.0mm×厚さ144.0mm
質量	約1,340g（カメラ、付属品含まず）

※ 外観・仕様は改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

PT-E06 付属品

- Oリング（後蓋用）：POL-E06A
- Oリング（前蓋用）：POL-E06B
- シリコングリス：PSOLG-2
- シリカゲル：SILCA-5
- 液晶フード：PFUD-E06
- カメラ台：PTMO-E05
- ハンドストラップ：PST-E02
- ボディキャップ：PBC-E02
- TTLコネクタキャップ：PTAC-E04

防水ポート

防水ポート	耐圧水深	対応レンズ	備 考
PPO-E01	60m	14-45mm	14-45mm用のズームギア PPZR-E01同梱。
		35mm Macro	同梱のズームギア PPZR-E01 は使用できません。別売のフォーカスギア PPZR-E04 を使用することで、フォーカスリングを360度操作可能です。防水ポートの対物レンズ直前での撮影倍率は約0.6倍になります。
PPO-E02	60m	14-54mm 14-54mm II 11-22mm	14-54mm、14-15mm II および11-22mm 共用のズームギア PPZR-E02同梱。
PPO-E03	60m	50mm Macro	同梱のPPZR-E01でマニュアルフォーカスが可能ですが、フォーカスリングの回転角度は最大で180度までに制限されます。別売のフォーカスギア PPZR-E04 を使用することで、フォーカスリングを360度操作可能です。
PER-E01	60m	EC-14	EC-14を使用する際、防水ポートとPT-Eシリーズ本体の間に装着します。EC-14を使用する場合、レンズのズーム操作およびマニュアルフォーカス操作はできません。
PPO-E04 +PER-E02	60m	7-14mm	PER-E02 に7-14mm 専用のズームギア PPZR-E03を同梱。
PPO-E04	60m	8mm Fisheye	別売のフォーカスギア PPZR-E05を使用することで、フォーカスリングを360度操作可能です。
		9-18mm	別売の専用ギア PPZR-E07 を使用することでズーム操作が可能です。
PPO-E05	40m	14-42mm	14-42mm専用のズームギア PPZR-E06同梱。

PT-E06と防水ポートを組み合わせで使用する場合、防水ポートの耐圧水深が60m仕様であっても、実際にご使用いただける耐圧水深はPT-E06の耐圧水深40m以内に制限されます。

その他別売品

シリコングリス：PSOLG-3

水中光ファイバーケーブル：PTCB-E02

TTLケーブル：PTCB-E01

ホットシューケーブル：PHCB-01

ブラケット：PTBK-E01、PTBK-E02

※ PTBK-E01と本製品を組み合わせでご使用になる場合、ネジ部に専用のワッシャーが必要となります。

専用ワッシャーが同梱されていないPTBK-E01をお持ちのお客様は、カスタマーサポートセンターまでご連絡ください。

付属品は販売しております。記載されている型番以外の製品はご使用できません。

Jp

OLYMPUS®

オリンパス イメージング株式会社

〒163-0914 東京都新宿区西新宿2の3の1 新宿モノリス

● ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&A等の各種情報を当社ホームページで提供しております。
オリンパスホームページ <http://www.olympus.co.jp/> から「お客様サポート」のページをご参照ください。

● 製品に関するお問い合わせ先（カスタマーサポートセンター）

フリーダイヤル



0120-084215

携帯電話・PHSからは042-642-7499

FAX 042-642-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※ カスタマーサポートセンターの営業日・営業時間、最新情報についてはオリンパスホームページにて情報提供しております。

オリンパスホームページ <http://www.olympus.co.jp/> から
「お客様サポート」のページをご参照ください。

- 修理に関するお問い合わせ・修理品ご送付先（修理センター）、国内サービスステーション（修理窓口）につきましては、本製品に同梱の「オリンパス代理店リスト」、またはオリンパスホームページ <http://www.olympus.co.jp/> から「お客様サポート」のページをご参照ください。

※ 記載内容は変更されることがあります。最新情報はオリンパスホームページ <http://www.olympus.co.jp/> をご確認ください。



MEMO



- Thank you for buying the Underwater Case PT-E06 (hereinafter Case).
- Please read this instruction manual carefully and use the product safely and correctly. Please keep this instruction manual for reference after reading it.
- Wrong usage may cause damage to the camera inside the Case due to water leakage, and repair may not be possible.
- Before use, perform an advance check as described in this manual.

Introduction

- Unauthorized copying of this manual in part or in full, except for private use, is prohibited. Unauthorized reproduction is strictly prohibited.
- OLYMPUS IMAGING CORP. shall not be responsible in any way for lost profits or any claims by third parties in case of any damage occurring from improper use of this product.

Please read the following items before use

- This Case is a precision device designed for use at a water depth within 40 m. Please handle it with sufficient care.
- Please use the Case correctly after sufficient understanding of the contents of this manual in regard to handling of the Case, checks before use, maintenance, and storage after use.
- The Case must be used in combination with the separately available Waterproof Port.
- OLYMPUS IMAGING CORP. shall in no way be responsible for accidents involving immersion of a digital camera in water. In addition, expenses incurred for damage of internal materials or loss of recorded contents due to water entering the camera will not be compensated.
- OLYMPUS IMAGING CORP. shall not pay any compensation for accidents (injuries or material damage) at the time of use.

For safe use

This instruction manual uses various pictographs for correct use of the product and to prevent danger to the user and other person, as well as property damage. These pictographs and their meanings are shown below.

 WARNING	This shows the content regarding assumption of possibility of human death or severe injury in case of handling with disregard of this indication.
 CAUTION	This shows the contents regarding assumption of possibility of injury or damage to property in case of handling with disregard of this indication.

WARNING

- ① Keep this product out of the reach of babies, infants, and children. There is the possibility of occurrence of the following types of accidents.
 - Injury by dropping onto the body from heights.
 - Injury from parts of the body getting caught in parts which open and close.
 - Swallowing of small parts, O-ring, silicone grease and silica gel. Please consult a physician immediately if any parts have been swallowed.
- ② Do not store digital camera with batteries inserted in this product.
Storage with a battery inserted may lead to leakage of the battery liquid and fire hazard.
- ③ The Case must be used in combination with the Waterproof Port available separately. Remember that the Case cannot be used without the Waterproof Port.
- ④ If leakage of water should occur with a camera installed in this product, quickly remove the battery from the camera. There is the possibility of ignition and explosion from generation of hydrogen gas.
- ⑤ This product is made of resin. There is the possibility that injuries may be caused when it becomes broken due to strong impact with a rock or other hard objects. Please handle it with sufficient care.

CAUTION

- ① Do not disassemble or modify this product. This may cause water leakage or defect. In case of the loss of image data caused by disassembly, repair or modification etc. by any party other than those appointed by OLYMPUS IMAGING CORP., we shall bear no responsibility for damage.
- ② Use or storage of the product at the following locations may cause defective operation, defects, damage, fire, internal fogging, or water leakage. This should be avoided.
 - Locations reaching high temperatures such as those under direct sunlight, in an automobile, etc.
 - Locations close to fire
 - A water depth in excess of 40 m
 - Locations subject to vibrations
 - Locations with high temperature and humidity or with extreme temperature changes
 - Locations with volatile substances
- ③ Opening and closing at locations with much sand, dust, or dirt may impair the waterproof characteristic and cause water leakage. This should be avoided.
- ④ This product is not a case to soften impacts to the camera inside the product. When this product with a digital camera inside is subjected to impacts or heavy objects are placed onto it, the digital camera may be damaged. Please handle it with sufficient care.
- ⑤ Do not use the following chemicals for cleaning, corrosion prevention, prevention of fogging, repair or other purposes. When these are used for the Case directly or indirectly (with the chemicals in vaporized state), they may cause cracking under high pressure or other problems.

Chemicals which cannot be used	Explanation
Volatile organic solvents, chemical detergents	Do not clean the Case with alcohol, gasoline, thinner or other volatile organic solvents or with chemical detergents etc. Pure water or lukewarm water is sufficient for cleaning.
Anticorrosion agent	Do not use anticorrosion agents. Pure water is sufficient when washing the metal parts as stainless steel and brass are used.
Commercial defogging agents	Do not use commercial defogging agents. Always use the specified desiccant silica gel.
Grease other than specified silicone grease	Use only the specified silicone grease for the silicon O-ring, as otherwise the O-ring surface may deteriorate and water leakage may occur.
Adhesive	Do not use adhesive for repairs or other purposes. When repair is required, please contact a dealer or a service station of OLYMPUS IMAGING CORP.

- 
- ⑥ Jumping into the water with the Case in your pocket or in your hand, throwing the Case from a boat or ship into the water, and other rough handling may cause water leakage. Please handle with sufficient care, when handing it over from hand to hand etc.
 - ⑦ If the camera on the inside should become wet because of water leakage etc., immediately wipe off all moisture and confirm the operation.
 - ⑧ Be careful not to apply excessive force to the port connector, TTL cable connector, zoom dial or tripod seat.
 - ⑨ Do not push the air vent valve from inside.
 - ⑩ Please remove the O-ring when traveling by air. Otherwise air pressure may make it impossible to open the Case.
 - ⑪ For safe use of the digital camera in this product, please read the "Instruction Manual" for the digital camera carefully.
 - ⑫ When sealing this product, take sufficient care that no foreign matter gets caught at the O-ring and the contact surfaces.
 - ⑬ The camera's built-in flash cannot be used when the Case is combined with an external Olympus flash. Also, the camera's built-in flash cannot be popped up if the hot shoe cable is connected to the camera's hot shoe. If the built-in flash is forcibly popped up, the connected flash will not work properly and the hot shoe cable may be disconnected from the camera's hot shoe. In this case, the camera may also be damaged.
 - ⑭ The camera's built-in flash cannot be used when the camera is in the Case.

Contents

Introduction	1
Please read the following items before use	1
For safe use	1
1.Preparations.....	6
Check the contents of the package.....	6
Names of the parts.....	7
Install the Waterproof Port	8
Attach the hand strap	8
How to attach and detach the camera table.....	9
2.Advance check of the Case	10
Advance check before use.....	10
3.How to connect the electronic flash	11
Connecting the underwater optical fiber cable	11
When using the TTL cable	12
4.Installing the digital camera	14
Check the digital camera.....	14
Open the Case	15
Attach the digital camera to the camera table.....	15
Insert the digital camera in the Case.....	16
Check the loading status.....	17
Seal the Case.....	18
Check the operation of the loaded camera	18
Perform the final checks.....	18
Visual Inspection.....	18
Water Leakage Test.....	19
5.Handling After Shooting	20
Wipe off any waterdrop	20
Unload the digital camera	20
Wash the Case with pure water	20
Dry the Case	21
6.Maintaining the Waterproof Function	22
Remove the O-ring	22
Remove any sand, dirt, etc.	22
Install the O-ring	22
How to Apply Grease to the O-ring	23
Replace consumable products	24
Maintenance of the threaded sections on the TTL cable and TTL cable connector.....	24
Maintenance of the TTL Connector Cap	24



7.Appendix 25

 Specifications 25

 Supplied accessories for PT-E06..... 25

 Waterproof Port..... 26

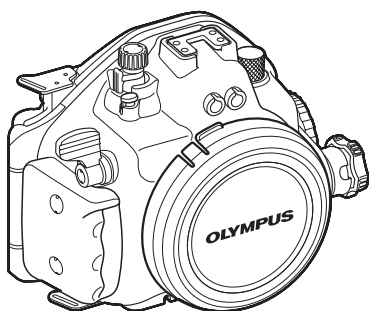
 Optional accessories..... 26

1. Preparations

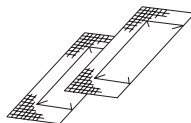
Check the contents of the package

Check that all accessories are in the box.

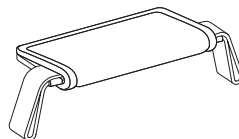
Contact your dealer if accessories are missing or damaged.



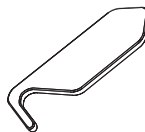
- Case body
(Check that the O-ring is installed on both of rear case and front case.)



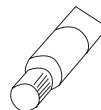
- Silica gel (2g)



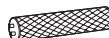
- Hand strap



- O-ring remover



- Silicone grease



- Maintenance adapter

- Authorized distributors list/Authorized service centres list
- Instruction manual (this manual)



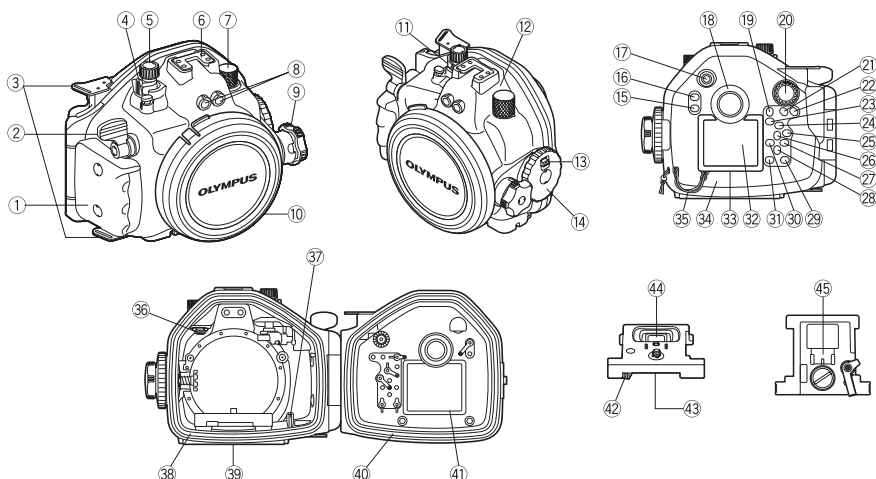
CAUTION:

After purchase, be sure to do maintenance even in brand-new condition. Neglecting the maintenance may become the cause of water leakage.

For how to maintenance the case, refer to P.22.

En

Names of the parts



- | | | |
|---|--------------------------------------|---------------------------------------|
| ① Palm grip | *⑮ MENU button | *③① (Erase) button |
| *② Shutter lever | *⑯ INFO (Info display) button | ③② LCD monitor window |
| ③ Hand strap ring | ⑰ Air vent valve | ③③ LCD hood |
| *④ (Exposure correction) button | ⑱ Pickup finder | ③④ Rear lid |
| *⑤ Mode dial knob | *⑲ AEL/AFL button | ③⑤ LCD hood strap |
| ⑥ Accessory mount | *⑳ Control dial knob | ③⑥ Hot shoe cable connectors (w/caps) |
| ⑦ TTL cable connector | *㉑ Fn button | ③⑦ Loading guide rails |
| ⑧ Optical fiber cable insertion slot, cap | *㉒ (AF target) button | ③⑧ O-ring (POL-E06B) |
| *⑨ Zoom dial | *㉓ (Play) button | ④① LCD inner hood |
| ⑩ Body cap | *㉔ button | ④② Camera table lock |
| *⑪ Power switch lever | *㉕ button | ④③ Camera table |
| ⑫ Front lid | *㉖ button | ④④ Eyecup storage space |
| ⑬ Slide lock | *㉗ button | ④⑤ Hot shoe cover storage space |
| ⑭ Open/close dial | *㉘ button | |

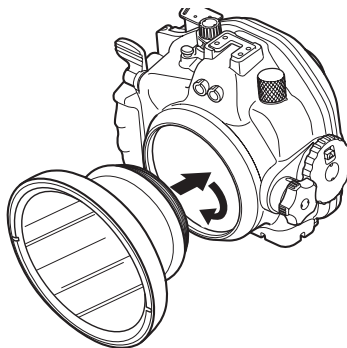
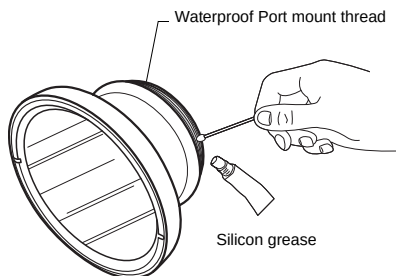
Note:

Case operation parts marked by * corresponds to the operation parts of the digital camera. When the operation parts of the Case are operated, the corresponding functions of the digital camera will operate. For details of the functions, refer to the instruction manual for the digital camera.

Install the Waterproof Port

To enable the Case to be used underwater, the separately available Waterproof Port for the camera lens must be installed on the Case. Align the Waterproof Port with the position where the camera lens will be when the camera is loaded in the Case.

- Refer to the instruction manual provided with the Waterproof Port before attaching the Waterproof Port to the Case.
- Apply the provided Silicon grease to the O-ring section of the Waterproof Port and the Waterproof Port mounting thread on the Case.
- Screw the Waterproof Port into the Case by turning it clockwise all the way.

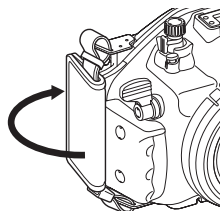
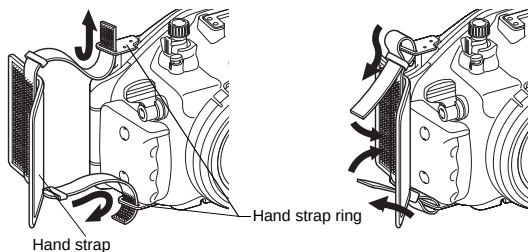


⚠ CAUTION:

The Case should not be used underwater at depths that exceed 40 meters. Even when the attached underwater lens port or other equipment is able to withstand depths exceeding 40 meters, the Case itself cannot be used at depths of more than 40 meters.

Attach the hand strap

Attach the hand strap to the Case.



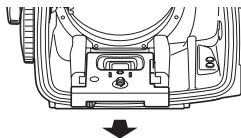
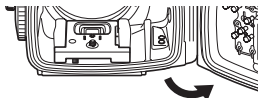
En

How to attach and detach the camera table

The camera table inside the front lid of the Case is used to load the digital camera into the Case.

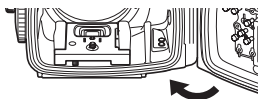
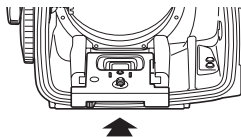
How to detach the camera table

- ① Slide and hold the Case's slide lock and open the open/close dial, then open the rear lid.
- ② Slide the camera table lock to the left to unlock the camera table.
Slide the table towards the rear.



How to attach the camera table

- ① Slide the camera table all the way into the camera table loading grooves on the front-lid side of the Case.
Slide the camera table lock to the right to lock the camera table.
- ② Gently close the rear lid of the Case and close the open/close dial firmly.



CAUTION:

Closing the rear lid of the Case before the camera table is inserted all the way (until it stops), into the camera table loading grooves could damage the Case and the camera.

2. Advance check of the Case

Advance check before use

This Case has been the subject of thorough quality control for the parts during the manufacturing process and thorough function inspections during the assembly. In addition, a water pressure test is performed with a water pressure tester for all products to confirm that the performance conforms to the specifications.

However, depending on the carrying and storage conditions, the maintenance status, etc., the waterproof function may be damaged.

Before using, always perform the following advance checks.

Check the waterproof parts of the Case

Check the waterproof parts of the Case as described below.

- ① Ensure that the Case's O-rings are firmly attached and secured with the slide lock and the open/close dial.
- ② Ensure that the separately available Waterproof Port is installed correctly, and that the Waterproof Port is attached firmly to the O-ring between the Waterproof Port and Case.
- ③ Ensure that the O-ring of the TTL connector is attached firmly and that the cap is screwed into the connector without loosening.

Advance check

- ① Before loading the digital camera in the Case, immerse the empty Case to confirm that there is no water leakage. When it is difficult, water leakage can be checked by referring "Water Leakage Test" (P.19).
- ② Main causes of water leakage are as follows.
 - Forgetting to install the O-ring
 - Part of an O-ring or an entire O-ring is outside the specified groove.
 - O-ring damage, cracks, deterioration or deformation
 - Sand, fibers, hair or other foreign matter sticking to the O-ring, the O-ring groove or the O-ring contact surface.
 - Damage to an O-ring groove or O-ring contact surface.
 - Attached strap or silica gel getting caught when closing the Case.

Perform the test after the above causes have been eliminated.



CAUTION:

If the advance test should show water leakage with normal handling, stop using the Case and contact your dealer or an Olympus service station.

En

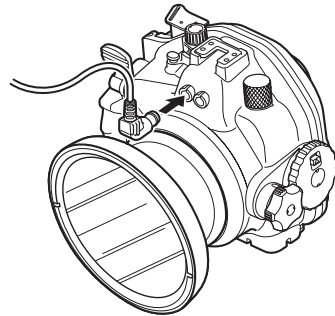
3. How to connect the electronic flash

Connecting the underwater optical fiber cable

To connect the UFL-2 underwater flash (optional) to the Case using an underwater optical fiber cable (optional), follow the procedures below.

How to connect the underwater optical fiber cable

- ① Remove the cap of the optical fiber cable insertion slot.



- ② Put the underwater optical fiber cable plug all the way into the optical fiber cable insertion slot.

Setting of the digital camera

- ① Set the RC mode of the camera to ON so that the camera's built-in flash is activated.
- ② Load the camera in the Case with the camera's built-in flash popped up.

Refer to the UFL-2 instruction manual for the UFL-2 operation.



CAUTION:

When using a non-Olympus manufacturer's slave-type flash with underwater optical fiber cable, set the camera's built-in flash to manual.

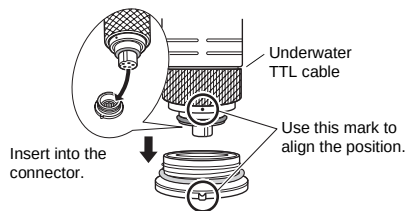
If the camera's built-in flash ratio is more than 1/64, the camera's built-in flash light may reflect in the lens port and be taken into the picture.

When using the TTL cable

When connecting the optional electronic flash with the underwater TTL cable (optional: PTCB-E01), connect the hot shoe cable (optional: PHCB-01) to the camera and front cover of the Case.

Connecting the underwater TTL cable

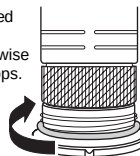
- ① Turn the TTL connector cap of the Case counter-clockwise and remove it.
- ② Connect the underwater TTL cable (optional: PTCB-E01) to the TTL connector on the Case.



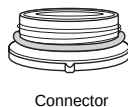
- ③ When not using the underwater TTL cable, attach the TTL connector cap.

Make sure there is no foreign matter attached to the O-rings inside the cap and on the TTL cable connector. After that, gently turn it clockwise until it stops.

Turn the threaded section of the connector clockwise gently until it stops.



Check O-rings

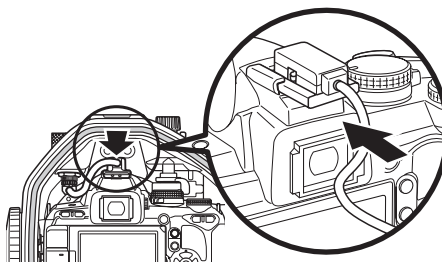
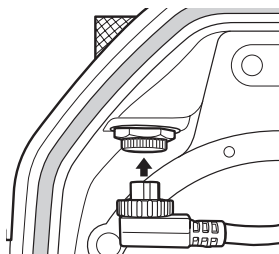


⚠ CAUTION:

If the TTL connector cap is loose, water leakage may result.

How to connect the hot shoe cable

- ① Turn the hot shoe cable connector cap inside the Case counter-clockwise to remove it.
- ② Insert the connector of the hot shoe cable into the Case's connector and turn the connector screws all the way clockwise to connect them firmly.
- ③ Load the camera in the Case, and then connect the hot shoe cable to the camera.



En

Setting of the digital camera

- ① Set the automatic pop-up setting of the camera to OFF. The camera's built-in flash is designed to pop up automatically when shooting under low light or against the sun in any scene mode other than the AUTO or underwater modes. For details on camera function setup, refer to the camera's instruction manual.
- ② Switch the electronic flash ON before switching the camera ON.
When using the electronic flash, be sure to turn it ON before turning the camera on.
If the automatic pop-up setting of the camera is ON and the camera is set to the scene mode other than the AUTO or underwater modes, turning the camera ON before turning the electronic flash on would cause the camera's built-in flash to pop up automatically. Always be sure to turn the electronic flash ON before turning the camera ON.

CAUTION:

- If the camera's built-in flash pops up while the hot shoe cable is connected to the camera, it will interfere with the hot shoe cable, either disconnecting it or causing a connection failure.
- When using a slave-type underwater flash from a non-Olympus manufacturer, pop the camera's built-in flash up before loading it in the Case.
- Once the Case has been sealed, the built-in flash cannot be popped up or stored.

4. Installing the digital camera

Check the digital camera

Check the digital camera before loading it in the Case.

1. Battery Confirmation

Underwater shooting can reduce battery life because the picture has to be checked on the LCD monitor before and after shooting. Make sure that you have sufficient remaining battery capacity before use.

2. Check the remaining number of pictures

Check that the image storage medium has enough room for the number of pictures you want to take.

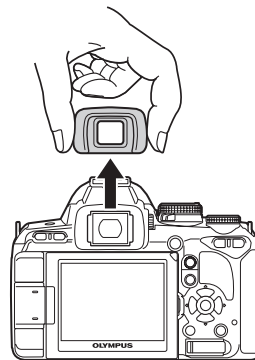
3. Remove the strap and lens cap from the camera.

If the digital camera is loaded without removing the strap and lens cap, the Case cannot be sealed properly and may leak.

4. Remove the eyecup from the digital camera.

To improve the view of the pickup viewfinder, remove the camera's eyecup before loading it in the Case.

The eyecup removed from the camera can be stored in the camera table.



CAUTION:

In case the digital camera is loaded in the Case without removing the eyecup and the rear lid of the Case is closed, the pickup viewfinder pops out.

Remove the eyecup, then push in the pickup viewfinder.

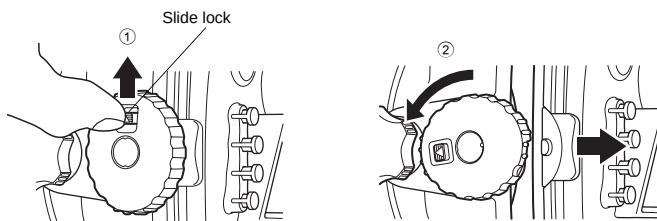
En

5. Remove the filter from the digital camera

The digital camera cannot be loaded in the Case while the filter is attached to the lens.

Open the Case

- ① Slide and hold the slide lock towards the arrow direction (①) and turn the open/close dial counter clockwise (②).
- ② Turn the open/close dial to the position where it cannot be turned further.
- ③ Open the rear lid of the Case gently.



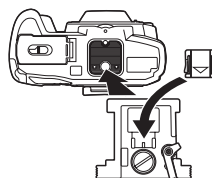
⚠ CAUTION:

Do not exert too much force while turning the open/close dial. Doing so may damage the dial.

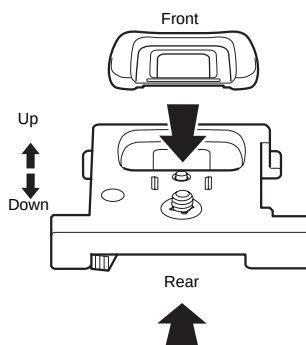
Attach the digital camera to the camera table

In order to load the camera into the Case, attach the camera table (located on the front-lid side of the Case) to the digital camera.

- ① The eyecup and the hot shoe cover of the digital camera can be stored in the camera table.
- ② Attach the camera table to the tripod seat section on the bottom of the digital camera. Use the camera's tripod screw hole for attaching.



- ③ The camera table has fixed up-down and front-rear orientations. To ensure that it is properly attached, refer to the illustration on the right.

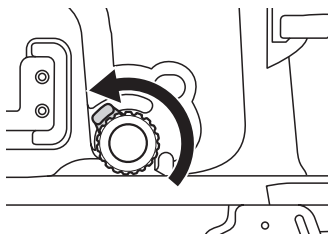


Insert the digital camera in the Case

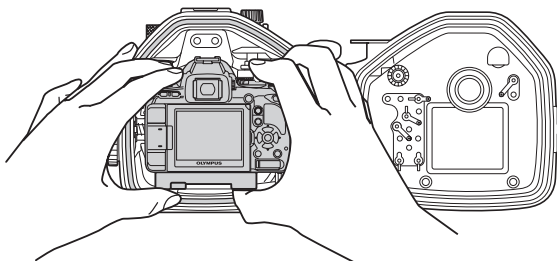
- ① Pull out the zoom dial and mode dial on the Case (pulling out the mode dial also pulls up the power switch lever) so that they do not get in the way while loading the digital camera.



At this time, set the orientation of the power switch lever as shown below.



- ② After attaching the camera table to the digital camera, slide the camera table into the Case's camera table-loading groove. Do not insert the camera table by force. Slide it in gently while checking that the digital camera does not interfere with the internal parts of the Case.



En

- ③ Gently push the Case's zoom dial and mode dial down and confirm that the zoom dial can smoothly control zooming, the power switch lever can turn the digital camera ON/OFF, and that the mode dial can control the mode dial of the camera.

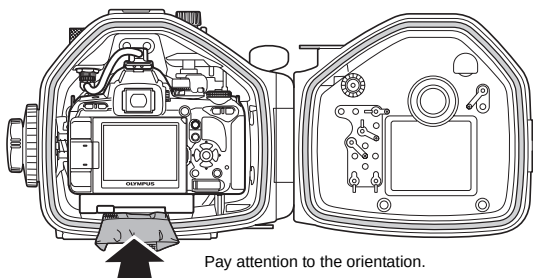


⚠ CAUTION:

- Before loading the digital camera, attach the zoom and focus gears to the Case's zoom and focus rings. Refer to the instruction manual provided with the optional underwater lens port for details.
- If the zoom and focus gears on the lens are not properly meshed with the Case's zoom dial gear, zooming and focusing are not possible. Even when the gears are meshed, the zoom and focus control ranges may be limited due to the positioning of the zoom and focus gears in the Case. Be sure to carefully follow the instructions provided with optional underwater lens port to ensure that correctly position the gears.

④ Insert the silica gel

Before sealing the Case, be sure to insert the silica gel bag in the space between the bottom of the camera table and the inner surface of the Case. This will prevent fogging. Insert the silica gel bag laterally with the sides folded down.



⚠ CAUTION:

- If the bag is only inserted part of the way, it will get caught by the O-ring when you try to seal the Case and water will leak into the Case.
- Once silica gel has been used, the moisture absorption performance will be impaired. Always change the silica gel when you open or close the Case.

En

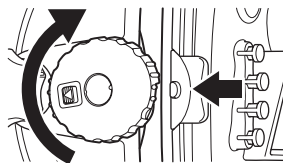
Check the loading status

Always perform the following checks before sealing the Case.

- Is the eyecup removed correctly?
- Does maintenance of the O-ring perform properly?
- Does the zoom dial operate properly?
- Is the silica gel inserted all the way at the specified position?
- Are the O-rings and the O-ring contact surfaces free of dirt and other foreign matter?
- Are the O-rings installed properly?
- When using an external electronic flash with a TTL cable, check that the hot shoe cable is connected properly and that the camera's automatic pop-up setting is set to OFF.
- When using the UFL-2 underwater electronic flash with the underwater optical fiber cable, or when using a slave flash from a non-Olympus manufacture, check that the camera's built-in flash is popped up.

Seal the Case

- ① Close the rear lid gently (so that the O-rings do not slip out of the grooves).
 - ② Turn the open/close dial clockwise.
- The Case is sealed when the position of the slide lock is at the top.



CAUTION:

If the open/close dial is not fully turned, the Case will not be sealed airtight and water leakage may occur.

Check the operation of the loaded camera

After sealing the Case, check that the camera functions normally.

- Operate the power switch lever on the Case and confirm that the camera can be turned ON/OFF.
- Turn the mode dial knob on the Case and confirm that the camera mode switches properly.
- Operate the shutter lever on the Case and confirm that the camera shutter is released.
- Operate the zoom dial on the Case and confirm that the camera's lens is controlled.
- Operate other control buttons on the Case and confirm that the camera functions properly as intended.

Perform the final checks

Visual Inspection

After closing the case tightly, check the seal between the front and rear lids and the connection between the port and case to make sure the O-rings are not twisted, that they sit properly in the grooves, and that no foreign matter has been caught between the two parts.



CAUTION:

Hair, fiber, and other narrow items are not very apparent, but they may cause entry of water, therefore special attention is required.

En

Water Leakage Test

The final test after loading the camera is explained below. Always perform this test. It can be performed easily in a water tank or a bathtub. The required time is about five minutes.

Simple water leakage test	Explanatory image	Hints
① Place the Case slowly into the water.		As the rear lid of the Case is transparent, waterdrops entering into it can be confirmed easily.
② At first, immerse the Case for only three seconds.		In case of trouble with the O-ring, three seconds is enough for water to enter. Are there air bubbles coming out between the lids?
③ Check that no water has entered the Case.		Remove the Case from the water and check that no water has leaked at the inside of the Case.
④ Next, immerse the Case for 30 seconds.		Check carefully for air bubbles! Do not perform any operation yet, but just observe.
⑤ Check that no water has entered the Case.		Remove the Case from the water and check that no water has leaked at the bottom of the Case.
⑥ Next, check by immersing for three minutes.		Check carefully for air bubbles! Try operation of the buttons used frequently. Check carefully for air bubbles!
⑦ This is the final check. Has the silica gel become moist?		Has the silica gel become moist? Please check carefully!
⑧ If there is no water leakage and everything is functioning correctly, you are ready to start shooting underwater.		Now everything is all right!

5. Handling After Shooting

Wipe off any waterdrop

After underwater shooting, remove any drops of water from the case. Use pressurized air or a soft, lint-free cloth to carefully wipe away any moisture from the hinge between the front and rear lids, the shutter release lever, the handgrip and the open/close dial.



CAUTION:

Water left between the front and rear lids or between the case and port can get inside the case once it is opened or the port is detached. Please dry these areas carefully.

Unload the digital camera

First, open the open/close dial of the Case and then open the rear lid carefully. Disconnect the hot shoe cable if it is connected to the camera, then remove the Case's zoom and mode dials so that they do not interfere with removal of the camera. Gently remove the loaded digital camera, while holding it with both hands.



CAUTION:

- When opening the case or removing the port, make sure no water from outside (e.g. drops from your hair or the diving suit) gets inside the case and/or on the camera!
- Before opening the case or removing the port, ensure that your hands or gloves are completely clean (free of sand, loose fibers, etc.).
- Never open the case or remove the port in areas where water could splash or spray or where sand or dust could be blown in the air. When this cannot be avoided, for example if the battery or memory card needs to be changed, the case and camera should be protected from the wind or spray with a plastic sheet or similar object.)
- Never touch the digital camera and/or battery when your hands are wet with sea water.

Wash the Case with pure water

After use, seal the Case again after taking out the camera and wash it sufficiently in pure water as soon as possible.

After use in sea water, it is effective to immerse it for a fixed time (30 minutes to 1 hour) in pure water to remove any salt.



CAUTION:

- Water leakage may be caused when a high water pressure is applied locally. Before washing the Case with water, remove the digital camera from it.
- Operate the shutter lever and various buttons of this product in pure water to remove salt adhering to the shaft. Do not disassemble for cleaning.
- Letting salt dry on the case may impair the function. Always wash off any salt after use.



Dry the Case

After washing with pure water, use a lint-free soft cloth without any salt on it to wipe off any waterdrop and dry the Case completely at a well ventilated location in the shade.



CAUTION:

Do not use hot air from a hair drier or the like for drying and do not expose the Case to direct sunlight, as this may accelerate deterioration and deformation of the Case and deterioration of the O-ring, leading to leakage of water.

When wiping the Case, take care not to cause scratches.

6. Maintaining the Waterproof Function

The O-ring is a consumable product. Before each use, perform proper maintenance. Always be sure to perform the O-ring maintenance operation as described below. Neglecting this maintenance may become the cause of water leakage.

Perform at the location without sand or dust, after washing and drying your hands.

Remove the O-ring

Open the Case and remove the O-ring.

Procedure

- ① Insert the O-ring remover into the gap between the O-ring and O-ring groove wall.
- ② Bring the tip of the inserted O-ring remover below the O-ring. (Be careful not to damage the groove with the tip of the O-ring remover.)
- ③ Lift the O-ring, pinch it with your fingertips and pull it out of the Case.

Remove any sand, dirt, etc.

After visually checking that dirt has been removed from the O-ring, check for attached sand and other foreign matter, as well as for damage and cracks by squeezing the entire circumference of the O-ring lightly with your fingertips.

Remove attached foreign matter from the O-ring groove with a clean cloth or a cotton swab. Also remove any sand or dirt attached to any part of the Case that comes into contact with the O-ring.



CAUTION:

- When a sharp object is used to remove the O-ring or to clean the inside of the O-ring groove, the Case and the O-ring may be damaged and water leakage may be caused.
- When the O-ring is checked with the fingertips, take care not to stretch the O-ring.
- Never use alcohol, thinner, benzene or similar solvents or chemicals detergents to clean the O-ring. When such chemicals are used, it is likely that the O-ring will be damaged or that its deterioration will be accelerated.

En

Install the O-ring

Confirm that no foreign matter is attached, apply a thin coat of the accessory grease to the O-ring, and fit the O-ring into the groove. At this time, confirm that the O-ring does not stick out from the groove.

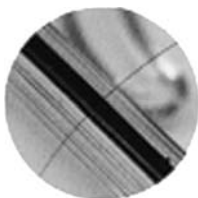
How to Apply Grease to the O-ring

① Apply only Olympus exclusive lubricant to each O-ring.		Make sure that your fingers and the O-ring are free of dirt, and squeeze about 5 mm of lubricant onto a finger. (5 mm is the most appropriate amount.)
② Spread the lubricant onto the entire circumference of the O-ring.		Spread the grease onto the entire circumference of the O-ring using 3 fingers. Be careful not to use excessive force as this may stretch the O-ring.
③ Check that the O-ring is free of scratches or unevenness.		After spreading the lubricant, check visually and by touch that the O-ring is not scratched and that its surface is flat. If it is damaged in any way, replace it with a brand-new O-ring.
④ Apply lubricant on the O-ring contact surface.		Use the lubricant remaining on the fingers to clean and lubricate the case's contact surface.

⚠ CAUTION:

- Always perform maintenance of the waterproof function even when the Case has been opened every shooting. Neglecting this maintenance may become the cause of water leakage.
- When the Case is not to be used for a long time, remove the O-ring from the groove to prevent deformation of the O-ring, apply a thin coat of silicone grease, and store it in a clean plastic bag or the like.

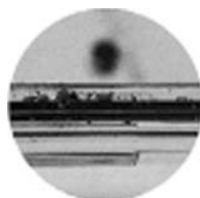
Examples of foreign matter sticking to the O-ring



Hair



Fibers



Grains of sand

Replace consumable products

- The O-ring is a consumable product. Independent of the number of times the Case is used, it is recommended that the O-ring should be replaced by a new piece at least once a year.
- Deterioration of the O-ring is accelerated by the usage conditions and the storage conditions. Replace the O-ring even before a year has passed if it shows signs of damage, cracking or loss of elasticity.

⚠ CAUTION:

- Please use genuine Olympus silicone grease, silica gel and O-ring.
- Do not try to replace the O-ring by yourself.
- We recommend to perform the check periodically.

Maintenance of the threaded sections on the TTL cable and TTL cable connector

If the threaded sections used to connect the TTL cable to the TTL cable connector are not maintained properly, salt and other seawater residue may adhere to the TTL cable and prevent it from being disconnected.

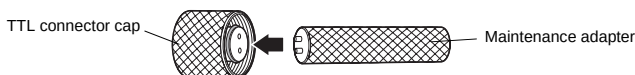
After use in seawater, clean off any salt, sand, or other residue as soon as possible, then dry the equipment thoroughly. Clean the threaded sections with a cotton swab and apply a thin, uniform layer of silicone grease (provided with this case).



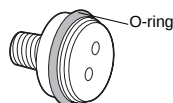
Maintenance of the TTL Connector Cap

After removing the TTL connector cap from the Underwater Case, be sure to clean and grease the O-ring.

Use the maintenance adapter to remove the O-ring unit from the TTL connector cap.



- ① Insert the adapter by aligning its pin with the hole on the cap.
- ② Turn the adapter counterclockwise to remove the O-ring unit.
- ③ After removing the O-ring attached to the O-ring unit, clean the O-ring groove and apply silicone grease to the O-ring. Then, re-attach the O-ring to the O-ring unit.



* Reverse the removal procedure to re-attach the O-ring unit to the TTL connector cap.

7. Appendix

Specifications

Available models	Olympus Digital Camera E-620
Pressure resistance	Depth of down to 40 m (130 feet)
Main materials	Main body: Polycarbonate resin. Open/close dial/release lever/power switch dial/mode dial/control dial/zoom dial/camera table: Polycarbonate resin. Port mount/pickup viewfinder frame/optional bracket mount/zoom dial gear/TTL connector cap: Aluminum. Axis of operation buttons/hand strap ring: Stainless steel. Body cap: ABS resin. O-rings/LCD inner hood: Silicone rubber. LCD hood: NBR rubber.
Dimensions	Width 208.0 mm x height 169.0 mm x depth 144.0 mm
Weight	1,340 g (camera and accessories not included)

* We reserve the right to change the external appearance and the specifications without notice.

Supplied accessories for PT-E06

O-ring (for back lid): POL-E06A
O-ring (for front lid): POL-E06B
Silicone grease: PSOLG-2
Silica gel: SILCA-5S
LCD hood: PFUD-E06
Camera stand: PTMO-E05
Hand strap: PST-E02
Body cap: PBC-E02
TTL connector cap: PTAC-E04

Waterproof Port

Waterproof Port	Withstanding depth	Applicable Lens	Note
PPO-E01	60 m	14-45 mm	Packaged with the PPZR-E01 underwater zoom gear for 14-45 mm lens.
		35 mm Macro	The provided PPZR-E01 zoom gear cannot be used. The focus ring rotation angle can be increased to 360° by using the optional PPZR-E04 underwater focus gear. The magnification immediately in front of the objective is about x0.6.
PPO-E02	60 m	14-54 mm 14-54 mm II	Packaged with the PPZR-E02 underwater zoom gear for 14-54 mm, 14-54 mm II or 11-22 mm lens.
		11-22 mm	
PPO-E03	60 m	50 mm Macro	Manual focusing is possible using the provided PPZR-E01, but the focus ring rotation angle is limited to 180°. The focus ring rotation angle can be increased to 360° by using the optional PPZR-E04 underwater focus gear.
PER-E01	60 m	EC-14	When using the EC-14, attach it between the underwater lens port and PT-E series case. Zooming of the lens and manual focus cannot be operated when using EC-14.
PPO-E04 +PER-E02	60 m	7-14 mm	The PPZR-E03 underwater zoom gear for 7-14 mm lens is provided with the PER-E02.
PPO-E04	60 m	8 mm Fisheye	The focus ring angle can be rotated by 360° by using the optional PPZR-E05 underwater focus gear.
		9-18 mm Fisheye	The zoom can be operated by using the optional PPZR-E07 dedicated gear.
PPO-E05	40 m	14-42 mm	Packaged with the PPZR-E06 underwater zoom gear for 14-42 mm lens.

When the waterproof port is used in combination with a PT-E06, the maximum depth that the combination can be used at is 40 m, as specified for the waterproof port. This is true even when the PT-E06 is specified for use at depths up to 60 m.

Optional accessories

Silicone grease: PSOLG-3

Underwater optical fiber cable: PTCB-E02

TTL cable: PTCB-E01

Hot shoe cable: PHCB-01

Bracket: PTBK-E01, PTBK-E02

* When use combining PTBK-E01 and the Case, the dedicated washers are necessary in the screw part.
If you have PTBK-E01 to which dedicated washers are not bundled, please contact to customer support center.

Accessories can be purchased. Products of other model types than those describing above cannot be used.

En



<http://www.olympus.com/>

OLYMPUS IMAGING CORP.

Shinjuku Monolith, 3-1 Nishi-Shinjuku 2-chome, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan

OLYMPUS IMAGING AMERICA INC.

3500 Corporate Parkway, P.O. Box 610, Center Valley, PA 18034-0610, U.S.A. Tel. 484-896-5000

Technical Support (USA)

24/7 online automated help: <http://www.olympusamerica.com/support>

Phone customer support: Tel. 1-888-553-4448 (Toll-free)

Our phone customer support is available from 8 am to 10 pm

(Monday to Friday) ET

E-Mail: distec@olympus.com

Olympus software updates can be obtained at: <http://www.olympusamerica.com/digital>

OLYMPUS IMAGING EUROPA GMBH

Premises: Wendenstrasse 14-18, 20097 Hamburg, Germany

Tel: +49 40-23 77 3-0 / Fax: +49 40-23 07 61

Goods delivery: Bredowstrasse 20, 22113 Hamburg, Germany

Letters: Postfach 10 49 08, 20034 Hamburg, Germany

European Technical Customer Support:

Please visit our homepage <http://www.olympus-europa.com>

or call our TOLL FREE NUMBER* : **00800 - 67 10 83 00**

for Austria, Belgium, Denmark, Finland, France, Germany, Italy, Luxemburg, Netherlands, Norway, Portugal, Spain, Sweden, Switzerland, United Kingdom

* Please note some (mobile) phone services providers do not permit access or request an additional prefix to +800 numbers.

For all European Countries not listed and in case that you can't get connected to the above mentioned number, please make use of the following

CHARGED NUMBERS: **+49 180 5 - 67 10 83** or **+49 40 - 237 73 4899**

Our Technical Customer Support is available from 9 am to 6 pm MET (Monday to Friday)



MEMO



- Nous vous remercions d'avoir acheté le caisson étanche PT-E06 (désigné ci-après "étui").
- Veuillez lire attentivement ce mode d'emploi et utiliser correctement et de façon sûre le produit. Veuillez conserver ce manuel pour pouvoir vous y référer ultérieurement.
- Un mauvais usage peut endommager l'appareil de photo à l'intérieur du caisson, suite à une fuite d'eau; la réparation peut s'avérer impossible.
- Avant utilisation, effectuez un test préliminaire comme décrit dans ce manuel.

Limitation de garantie

- Toute copie partielle ou totale non autorisée de ce mode d'emploi, sauf pour des besoins privés, est interdite. La reproduction non autorisée est strictement interdite.
- OLYMPUS IMAGING CORP. ne peut être tenu responsable de quelque façon que ce soit de pertes de profits ou de réclamations de tiers en cas de dommages dus à l'utilisation incorrecte du produit.

Veuillez lire cette section avant d'utiliser le produit

- Ce produit est un instrument de précision conçu pour l'utilisation à une profondeur d'eau de 40 m. Veuillez le manipuler avec suffisamment de soin.
- Afin de garantir l'utilisation correcte et sûre du caisson, veuillez lire toutes les instructions relatives à la manipulation et à la vérification du système, ainsi qu'à son entretien et son rangement.
- Le caisson doit toujours être utilisé en combinaison avec le port étanche disponible séparément.
- OLYMPUS IMAGING CORP. ne saura être tenu responsable des dommages causés à l'appareil par la présence d'eau dans le caisson. De plus, les dépenses inhérentes aux dommages causés sur les composants internes ou à la perte du contenu enregistré à cause d'une infiltration d'eau dans l'appareil photo ne seront pas remboursées.
- OLYMPUS IMAGING CORP. ne paiera aucune compensation en cas d'accidents (corporels ou matériels) survenant au cours de l'utilisation de ce produit.

Pour une utilisation sûre

Ce mode d'emploi utilise divers pictogrammes pour une utilisation correcte du produit et pour prévenir l'utilisateur et d'autres personnes de danger aussi bien que de dommages. Ces pictogrammes et leurs significations sont indiqués ci-dessous.

 AVERTISSEMENT	Indique une situation pouvant entraîner la mort ou des blessures graves en ignorant cette indication.
 ATTENTION	Indique une situation pouvant entraîner des blessures de personnes ou des dommages matériels en ignorant cette indication.

AVERTISSEMENT

- ① Garder ce produit hors de la portée des bébés et des enfants. Les types d'accidents suivants pourraient se produire.
 - Blessures en faisant tomber sur le corps d'une certaine hauteur.
 - Blessures de membres du corps pris dans des pièces en ouvrant et fermant.
 - Risque d'avaler des petites pièces, joint, de la graisse silicone et du gel de silice. Consultez immédiatement un médecin si un enfant a avalé des pièces.
- ② Ne pas ranger avec une batterie dans l'appareil photo numérique laissé dans ce produit. Le rangement avec une batterie en place pourrait entraîner une fuite du liquide de la batterie et un incendie.
- ③ Le caisson doit toujours être utilisé en combinaison avec le port étanche disponible séparément. Retenir que le caisson ne peut pas être utilisé sans le port étanche.
- ④ Si une fuite d'eau se produit avec un appareil photo installé dans ce produit, retirer rapidement la batterie de l'appareil. Il y a un risque d'allumage et d'explosion en générant de l'hydrogène.
- ⑤ Ce produit est fabriqué à partir de résine. Il y a un risque de se blesser s'il se casse à cause d'un impact violent avec un rocher ou d'autres objets durs. Veuillez le manipuler avec suffisamment de soin.

ATTENTION

- ① Ne pas modifier ni démonter ce produit. Cela pourrait causer une fuite d'eau ou d'autres problèmes. En cas de perte des données d'image provoquée par un démontage, une réparation ou une modification par des personnes autres que celles agréées par OLYMPUS IMAGING CORP., nous ne saurions être tenus responsables du dommage.
- ② L'utilisation ou le stockage du produit dans les endroits suivants risque de causer des mauvais fonctionnements, des pannes, des dommages, un incendie, un voile interne, ou une fuite d'eau. Cela doit être évité.
 - Des endroits pouvant atteindre des températures élevées, par exemple en plein soleil, dans une automobile, etc.
 - Des endroits à proximité de feux
 - Une profondeur sous-marine supérieure à 40 m
 - Des endroits soumis à des vibrations
 - Des endroits trop chauds et humides ou avec des variations de température extrêmes
 - Des endroits avec des substances volatiles
- ③ L'ouverture et la fermeture dans des endroits avec beaucoup de sable, de poussière ou de saleté risque de nuire à l'étanchéité et causer une fuite d'eau. Ce doit être évité.
- ④ Ce produit n'est pas un caisson pour amortir les chocs imposés à l'appareil photo à l'intérieur. Lorsque ce produit avec un appareil photo numérique à l'intérieur est sujet à des impacts ou que des objets lourds sont placés dessus, l'appareil photo numérique risque de s'endommager. Le manipuler avec suffisamment de soin.

- ⑤ Ne pas utiliser les produits chimiques suivants pour le nettoyage, pour une protection anticorrosion, pour éviter la formation de buée, pour des réparations ou d'autres raisons. Utilisés pour le caisson directement ou de façon indirecte (avec les produits chimiques vaporisés), ils risquent de causer des fissures sous haute pression ou d'autres problèmes.

Produits chimiques qui ne peuvent pas être utilisés	Explication
Diluants organiques volatils, détergents chimiques	Ne pas nettoyer le caisson avec de l'alcool, de l'essence, un dissolvant ou d'autres diluants organiques volatils, ni avec des détergents chimiques, etc. De l'eau pure ou de l'eau tiède suffit pour le nettoyage.
Agent anticorrosion	Ne pas utiliser d'agents anticorrosion. Les parties métalliques sont en acier inoxydable ou en bronze, et le lavage avec de l'eau pure est suffisant.
Agents antibuée du commerce	Ne pas utiliser d'agents antibuée du commerce. Toujours utiliser le gel de silice déshydratant spécifié.
Graisse autre que la graisse silicone spécifiée	N'utiliser que la graisse silicone spécifiée pour le joint silicone, sinon la surface du joint risque de se détériorer et une fuite d'eau pourrait se produire.
Colle	Ne pas utiliser de colle pour des réparations ou d'autres raisons. Si une réparation est nécessaire, veuillez contacter un revendeur ou un centre de service de notre compagnie.

- ⑥ Ne pas soumettre le caisson à des traitements brutaux, tels que sauter à l'eau le caisson à la main ou dans une poche extérieure ou jeter le caisson dans l'eau, cela pourrait provoquer des fuites d'eau. Toujours manipuler le caisson avec soin.
- ⑦ Si l'appareil contenu dans le caisson devait être mouillé en raison d'une fuite d'eau, etc., essayez immédiatement toute trace d'humidité et vérifiez le bon fonctionnement de l'appareil.
- ⑧ Faire attention de ne pas appliquer une force excessif sur le connecteur de port, le connecteur du câble TTL, la molette de zoom et l'écrou de pied.
- ⑨ Ne pas pousser la soupape d'aération de l'intérieur.
- ⑩ Veuillez retirer le joint avant de prendre l'avion, car la différence de pression atmosphérique pourrait rendre l'ouverture du caisson impossible.
- ⑪ Afin de garantir la manipulation et le fonctionnement sans souci et en toute sécurité de l'appareil numérique avec ce produit, veuillez lire le mode d'emploi de l'appareil attentivement.
- ⑫ Lors du scellage du produit, s'assurer qu'il ne reste aucun corps étranger, tel que sable, saleté ou cheveux, sur le joint ou les surfaces de contact.
- ⑬ Lorsque le caisson est combiné avec un flash Olympus flash, le flash incorporé de l'appareil photo ne peut pas être utilisé. De plus, le flash incorporé de l'appareil photo ne peut pas être sorti si le câble du sabot actif fourni avec le sabot actif de l'appareil photo. Si le flash incorporé est sorti de force, le flash ne fonctionnera pas correctement et le câble du sabot actif risque d'être débranché du sabot actif de l'appareil photo. En complément, l'appareil photo risque également d'être endommagé.
- ⑭ Le flash incorporé de l'appareil photo ne peut pas être utilisé lorsque l'appareil photo est logé dans le caisson.

SOMMAIRE

Limitation de garantie	1
Veuillez lire cette section avant d'utiliser le produit	1
Pour une utilisation sûre	1
1.Préparatifs	6
Contrôle du contenu de l'emballage	6
Nomenclature des pièces	7
Mise en place du port étanche	8
Mise en place de la dragonne	8
Comment monter et retirer le support d'appareil	9
2.Contrôle préliminaire du caisson	10
Contrôle approfondi avant utilisation	10
3.Comment raccorder le flash électronique	11
Raccordement du câble fibre optique sous-marin	11
Lors de l'utilisation du câble TTL	12
4.Mise en place de l'appareil photo numérique	14
Contrôle de l'appareil photo numérique	14
Ouvrir le caisson	15
Fixer l'appareil photo numérique au support d'appareil	15
Insérer l'appareil photo numérique dans le caisson	16
Vérifier après insertion	17
Sceller le caisson	18
Vérifier le fonctionnement de l'appareil photo installé	18
Effectuer les contrôles finaux	18
Inspection visuelle	18
Test de fuite d'eau	19
5.Manipulation après la prise de vue	20
Essuyer toute goutte d'eau	20
Sortir l'appareil photo numérique	20
Laver le caisson avec de l'eau pure	20
Sécher le caisson	21
6.Maintien de la fonction d'étanchéité	22
Retirer le joint	22
Retirer tout grain de sable, poussière, etc.	22
Installer le joint	22
Comment appliquer la graisse sur le joint	23
Changer les pièces consommables	24
Entretien des parties filetées sur le câble TTL et le connecteur de câble TTL	24
Entretien du bouchon du connecteur TTL	24



7. Annexe.....25

 Fiche technique..... 25

 Accessoires fournis avec le PT-E06 25

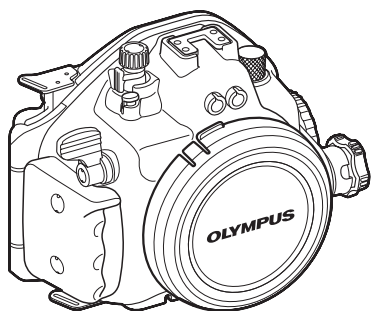
 Accessoires optionnels 26

1. Préparatifs

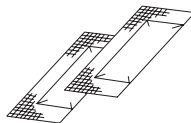
Contrôle du contenu de l'emballage

Vérifier que tous les accessoires sont bien dans la boîte.

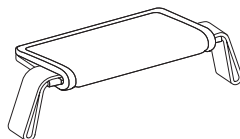
Communiquer avec le revendeur si des accessoires manquent ou sont endommagés.



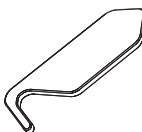
- Corps du caisson
(Vérifier que le joint est installé
sur le caisson arrière et sur le
caisson avant.)



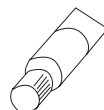
- Sel de silice (2g)



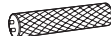
- Dragonne



- Outil de retrait de joint



- Graisse silicone



- Adaptateur d'entretien

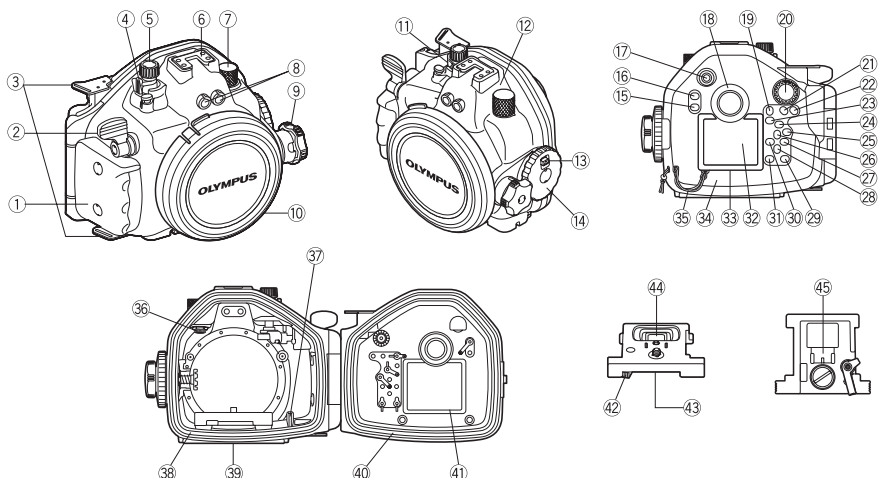
- Liste des distributeurs agréés/Liste
des centres de service agréés
- Mode d'emploi (ce manuel)

ATTENTION:

Après l'achat, veiller à effectuer l'entretien même si le caisson est tout neuf. Le fait de négliger l'entretien peut provoquer une fuite d'eau.

Pour savoir comment entretenir le caisson, consulter la p. 22.

Nomenclature des pièces



- | | | |
|--|--|---|
| ① Poignée | *⑮ Touche MENU | ③③ Coiffe d'écran ACL |
| *② Commande de déclencheur | *⑯ Touche INFO (affichage d'informations) | ③④ Couvercle arrière |
| ③ Cœillet de dragonne | ⑰ Soupape d'aération | ③⑤ Courroie de cache d'écran ACL |
| *④ Touche (Correction d'exposition) | ⑱ Viseur | ③⑥ Connecteurs de câble de sabot actif (avec capuchons) |
| *⑤ Bouton de molette Mode | *⑲ Touche AEL/AFL | ③⑦ Rails de guidage de chargement |
| ⑥ Monture d'accessoire | *⑳ Bouton de molette de commande | ③⑧ Joint (POL-E06B) |
| ⑦ Connecteur de câble TTL | *⑳ Touche Fn | ③⑨ Écrou de pied |
| ⑧ Logement d'insertion du câble fibre optique, bouchon | *㉑ Touche (cible AF) | ④① Joint (POL-E06A) |
| *⑨ Molette de zoom | *㉒ Touche (Affichage) | ④② Cache intérieur d'écran ACL |
| ⑩ Bouchon du corps | *㉓ Touche (Menu) | ④③ Verrou du support d'appareil |
| *⑪ Commande d'interrupteur d'alimentation | *㉔ Touche de défilement ▲ | ④④ Support d'appareil |
| ⑫ Couvercle avant | *㉕ Touche de défilement ► | ④⑤ Espace de rangement de l'oculaire |
| ⑬ Verrou de glissière | *㉖ Touche de défilement ▼ | ④⑥ Espace de rangement du couvercle du sabot actif |
| ⑭ Molette d'ouverture/de fermeture | *㉗ Touche IS | |
| | *㉘ Touche de défilement ◀ | |
| | *㉙ Touche (Effacement) | |
| | ③② Fenêtre d'écran ACL | |

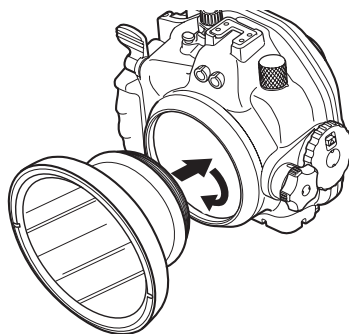
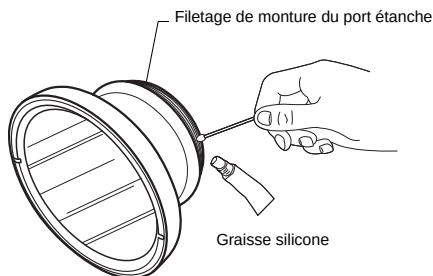
Note:

Les pièces de fonctionnement du caisson marquées par * correspondent aux pièces de fonctionnement de l'appareil photo numérique. Lorsque les pièces de fonctionnement du caisson sont activées, les fonctions correspondantes de l'appareil photo numérique seront commandées. Pour des détails sur les fonctions, se référer au mode d'emploi pour l'appareil photo numérique.

Mise en place du port étanche

Pour permettre une utilisation sous-marine du caisson, le port étanche disponible séparément pour l'objectif de l'appareil photo doit être installé sur le caisson en alignant le port étanche avec la position où l'objectif de l'appareil viendra lorsque l'appareil sera chargé dans le caisson.

- Pour la procédure permettant de fixer le port étanche au caisson, lire attentivement le mode d'emploi fourni avec le port étanche.
- Appliquer la graisse silicone pour joint sur la section du joint du port étanche et sur le filetage de monture du port étanche sur le caisson.
- Visser le port étanche sur le caisson en tournant complètement le port étanche dans le sens des aiguilles d'une montre.

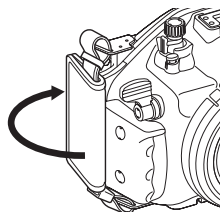
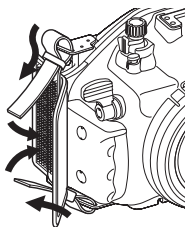
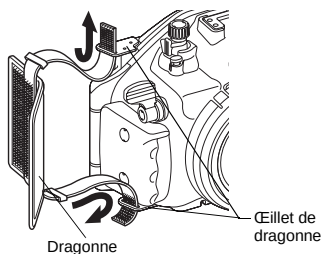


⚠ ATTENTION:

Le caisson doit être utilisé à une profondeur d'eau inférieure à 40 mètres. Même si le port d'objectif monté ou d'autres accessoires sont compatibles pour résister à des profondeurs supérieures à 40 mètres, la profondeur à laquelle le caisson est utilisable est limitée à pas plus que 40 mètres.

Mise en place de la dragonne

Installer la dragonne sur le corps du caisson.



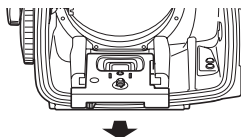
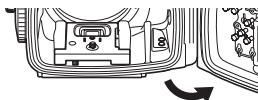
Fr

Comment monter et retirer le support d'appareil

L'appareil photo numérique est chargé dans le caisson en utilisant le support d'appareil dans le couvercle avant du caisson.

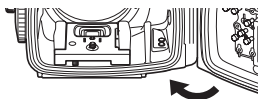
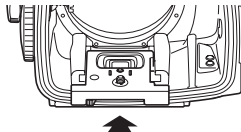
Comment retirer le support d'appareil

- ① Faire coulisser et maintenir le verrou de glissière du caisson et ouvrir la molette d'ouverture/de fermeture, puis ouvrir le couvercle arrière.
- ② Faire coulisser le verrou du support d'appareil vers la gauche pour débloquer le support d'appareil. Faire coulisser le support vers l'arrière.



Comment monter le support d'appareil

- ① Faire coulisser complètement le support d'appareil dans les rainures de chargement du support d'appareil sur le côté du couvercle avant du caisson. Faire coulisser le verrou du support d'appareil vers la droite pour bloquer le support d'appareil.
- ② Fermer doucement le couvercle arrière du caisson et fermer hermétiquement la molette d'ouverture/de fermeture.



ATTENTION:

Si le couvercle arrière du caisson est fermé alors que le support d'appareil n'est pas complètement inséré, jusqu'à ce qu'il soit arrêté, dans les rainures de chargement du support d'appareil sur le côté avant du caisson, le caisson et l'appareil photo numérique risquent d'être endommagés.

2. Contrôle préliminaire du caisson

Contrôle approfondi avant utilisation

Ce caisson a été le sujet d'un contrôle de qualité poussé pour les pièces pendant la fabrication et d'inspections approfondies des fonctions pendant l'assemblage. De plus, un test de pression d'eau est effectué avec un testeur de pression pour tous les produits pour confirmer que la performance est conforme aux spécifications.

Toutefois, la fonction d'étanchéité peut être endommagée en fonction des conditions de transport et de stockage.

Avant utilisation, toujours effectuer les contrôles préliminaires suivants.

Contrôle des pièces d'étanchéité du caisson

Vérifier les pièces d'étanchéité du caisson comme indiqué ci-dessous.

- ① S'assurer que les joints du caisson sont fermement placés en position et serrés avec le verrou de glissière et la molette d'ouverture/de fermeture.
- ② S'assurer que le port étanche disponible séparément est installé correctement sur le caisson, et que le port étanche est fixé fermement au joint entre le port étanche et le caisson.
- ③ S'assurer que le joint du connecteur TTL est fixé fermement et que le bouchon est vissé sur le connecteur sans jeu.

Test préliminaire

- ① Avant de charger l'appareil photo numérique dans le caisson, plonger le caisson vide dans l'eau pour confirmer qu'il n'y a pas de fuite d'eau. Lorsque cela est difficile, il est possible de vérifier s'il y a des fuites d'eau en consultant "Test de fuite d'eau" (p. 19).
- ② Les principales causes de fuite d'eau sont les suivantes.
 - Les joints n'ont pas été installés
 - Une partie d'un joint ou un joint complet est à l'extérieur de la rainure spécifiée.
 - Dommages, fissures, détérioration ou déformation d'un joint
 - Des grains de sable, fibres, cheveux ou autres corps étrangers collés à un joint, dans la rainure d'un joint ou sur la surface de contact d'un joint.
 - Dommages sur une rainure de joint ou sur une surface de contact de joint.
 - La dragonne fixée ou le gel de silice est coincé lors de la fermeture du caisson.

Effectuer le test une fois que toutes les causes susmentionnées aient été éliminées.



ATTENTION:

Si une fuite d'eau est constatée en manipulation normale pendant le test préliminaire, ne pas utiliser le caisson et contacter Olympus.

Fr

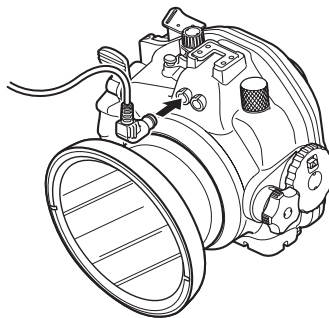
3. Comment raccorder le flash électronique

Raccordement du câble fibre optique sous-marin

Pour raccorder le flash sous-marin UFL-2 (optionnel) au caisson à l'aide d'un câble fibre optique sous-marin (optionnel), suivre la procédure ci-dessous.

Comment raccorder le câble fibre optique sous-marin

- ① Retirer le bouchon du logement d'insertion du câble fibre optique.



- ② Insérer complètement la fiche du câble fibre optique sous-marin dans le logement d'insertion du câble fibre optique.

Réglage de l'appareil photo numérique

- ① Régler le mode RC de l'appareil photo sur ON de façon à activer le flash incorporé de l'appareil photo.
- ② Charger l'appareil photo dans le caisson avec le flash incorporé de l'appareil photo sorti.

Consulter le mode d'emploi du flash UFL-2 pour en savoir plus sur son fonctionnement.

ATTENTION:

En utilisant un flash de type à émission esclave d'un fabricant autre que Olympus avec le câble fibre optique sous-marin, régler le flash incorporé de l'appareil photo sur manuel.

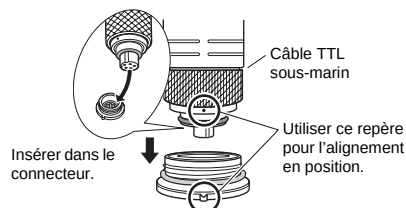
Si le rapport du flash incorporé de l'appareil photo est supérieur à 1/64, la lumière du flash incorporé de l'appareil photo peut se refléter dans le port d'objectif et être visible sur la photo.

Lors de l'utilisation du câble TTL

Lors du raccordement du flash électronique optionnel avec le câble TTL sous-marin (optionnel: PTCB-E01), raccorder le câble de sabot actif (optionnel: PHCB-01) à la caméra et au couvercle avant du caisson.

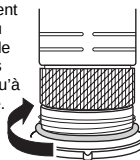
Raccordement du câble TTL sous-marin

- ① Tourner le bouchon du connecteur TTL du caisson dans le sens inverse des aiguilles d'une montre et le retirer.
- ② Raccorder le câble TTL sous-marin (optionnel: PTCB-E01) au connecteur TTL du caisson.

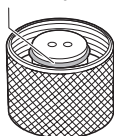


- ③ Lorsque le câble TTL sous-marin n'est pas utilisé, fixer le bouchon du connecteur TTL. Bien s'assurer qu'il n'y a pas de corps étranger collé aux joints dans le bouchon et sur le connecteur de câble TTL. Ensuite, le tourner doucement dans le sens des aiguilles d'une montre jusqu'à ce qu'il s'arrête.

Tournez doucement la partie fileté du connecteur dans le sens des aiguilles d'une montre jusqu'à ce qu'elle s'arrête.



Vérifier les joints



Bouchon



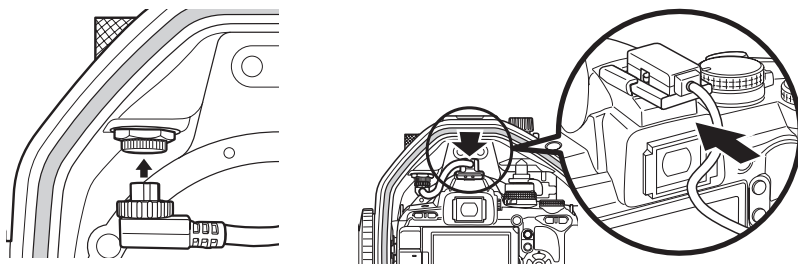
Connecteur

⚠ ATTENTION:

Si le bouchon du connecteur TTL est desserré, une fuite d'eau risque de se produire.

Comment raccorder le câble du sabot actif

- ① Tourner le bouchon du connecteur de câble de sabot actif à l'intérieur du caisson dans le sens inverse des aiguilles d'une montre pour retirer le bouchon.
- ② Insérer le connecteur du câble de sabot actif dans le connecteur du caisson et tourner complètement les vis du connecteur dans le sens des aiguilles d'une montre pour les raccorder fermement.
- ③ Charger l'appareil photo dans le caisson, puis raccorder le câble de sabot actif à l'appareil photo.



Réglage de l'appareil photo numérique

- ① Régler la sortie automatique du flash de l'appareil photo sur OFF. Le flash incorporé de l'appareil photo est conçu pour sortir automatiquement en prise de vue sous faible éclairage ou face au soleil dans tout mode de scène autre que AUTO et les modes sous-marins. Pour des détails sur le réglage de fonction de l'appareil photo, consulter le mode d'emploi pour l'appareil photo.
- ② Mettre le flash électronique en marche avant de mettre en marche l'appareil photo.
Pour utiliser le flash électronique, s'assurer de le mettre en marche avant l'appareil photo.
Si la sortie automatique du flash de l'appareil photo est réglée sur ON et que l'appareil photo est réglé sur un mode de scène autre que AUTO ou les modes sous-marins, mettre en marche l'appareil photo avant le flash électronique risque de causer la sortie automatique du flash de l'appareil photo.
S'assurer de toujours mettre le flash électronique en marche avant la mise en marche de l'appareil photo.

⚠ ATTENTION:

- Si le flash incorporé de l'appareil photo sort alors que le câble de sabot actif est raccorder à l'appareil photo, le flash incorporé risque d'interférer avec le câble de sabot actif, causant le débranchement du câble de l'appareil photo ou une panne de raccordement.
- En utilisant un flash sous-marin de type à émission esclave d'un fabricant autre que Olympus, sortir le flash incorporé de l'appareil photo avant de le charger dans le caisson.
- Une fois que le caisson est scellé, le flash incorporé ne peut plus être sorti ou rentré.

4. Mise en place de l'appareil photo numérique

Contrôle de l'appareil photo numérique

Contrôler l'appareil photo numérique avant de le charger dans le caisson.

1. Contrôle de batterie

La durée d'utilisation de la batterie risque être raccourcie en prise de vue sous-marine car la photo doit être contrôlée sur l'écran ACL après la prise de vue aussi bien qu'avant de prendre la photo. Vérifier que l'énergie restante de la batterie est suffisante avant utilisation.

2. Confirmation du nombre de vues restant à prendre

Vérifier que le support de stockage de vue a un nombre suffisant de vues restant à prendre.

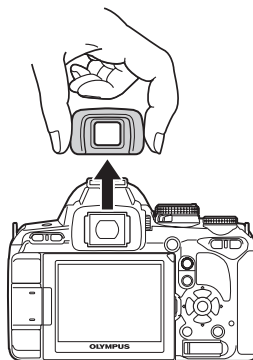
3. Retirer la dragonne et le bouchon d'objectif de l'appareil photo numérique.

Si l'appareil photo numérique est chargé sans retirer la dragonne et le bouchon d'objectif, le caisson ne peut pas être scellé et une fuite d'eau risque de se produire.

4. Retirer l'oculaire de l'appareil photo numérique.

Pour améliorer la visibilité du viseur, retirer l'oculaire de l'appareil photo numérique avant de le charger dans le caisson.

L'oculaire retirée de l'appareil peut être rangée dans le support d'appareil.



⚠ ATTENTION:

Si l'appareil photo numérique est chargé dans le caisson sans retirer l'oculaire et si le couvercle arrière du caisson est fermé, le viseur sort.

Retirer l'oculaire, puis pousser le viseur pour le faire rentrer.

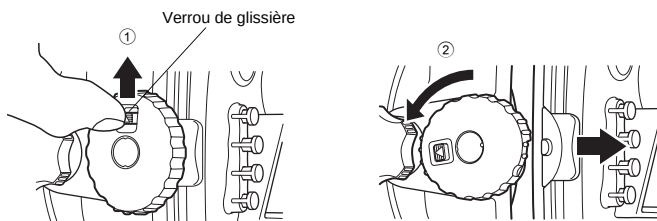
Fr

5. Retirer le filtre de l'appareil photo numérique

L'appareil photo numérique ne peut pas être chargé dans le caisson alors que le filtre est monté sur l'objectif.

Ouvrir le caisson

- ① Faire coulisser et maintenir le verrou de glissière dans le sens de la flèche (①) et tourner la molette d'ouverture/de fermeture dans le sens inverse des aiguilles d'une montre (②).
- ② Tourner la molette d'ouverture/de fermeture jusqu'à ce qu'elle ne puisse plus tourner davantage.
- ③ Ouvrir doucement le couvercle arrière du caisson.



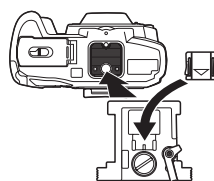
⚠ ATTENTION :

Ne pas trop forcer en tournant la molette d'ouverture/de fermeture. Cela pourrait endommager la molette.

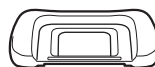
Fixer l'appareil photo numérique au support d'appareil

Pour permettre à l'appareil photo numérique d'être chargé dans le caisson, fixer le support d'appareil, monté dans le côté du couvercle avant du caisson, à l'appareil photo numérique.

- ① L'objectif et le couvercle du sabot actif de l'appareil photo numérique peuvent être rangés dans le support d'appareil.
- ② Fixer le support d'appareil à l'écrou de pied sur le dessous de l'appareil photo numérique. Utiliser le trou de vis de trépied de l'appareil photo pour fixer.



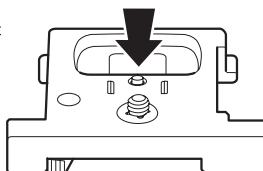
Avant



Haut



Bas



Arrière

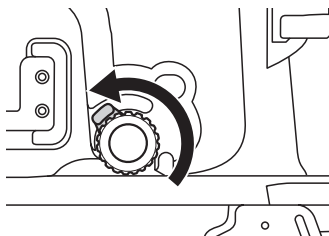


Insérer l'appareil photo numérique dans le caisson

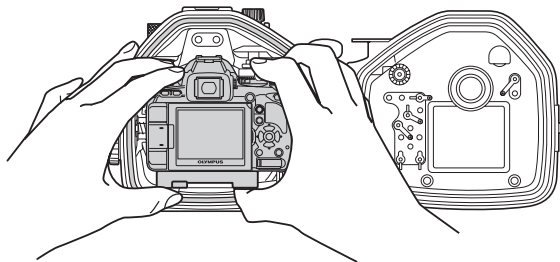
- ① Tirer sur la molette de zoom et sur la molette Mode du caisson (Le fait de tirer sur la molette Mode relève également le levier d'interrupteur d'alimentation) pour qu'elles ne viennent pas dans le passage pendant le chargement de l'appareil photo numérique.



À ce moment-là, régler la direction de la commande d'interrupteur d'alimentation comme montré ci-dessous.



- ② Après fixation du support d'appareil à l'appareil photo numérique, faire coulisser le support d'appareil dans les rainures de chargement du support d'appareil du caisson. Ne pas insérer le support d'appareil de force, mais l'insérer doucement tout en vérifiant que l'appareil photo numérique n'interfère pas avec les parties internes du caisson.



- ③ En Pousser doucement sur la molette zoom du caisson et vérifier que la molette de zoom peut commander le zoom sans difficulté, que le levier d'interrupteur d'alimentation peut commuter l'alimentation de l'appareil photo numérique sur marche et arrêt et que la molette Mode peut commander la molette Mode de l'appareil photo numérique.

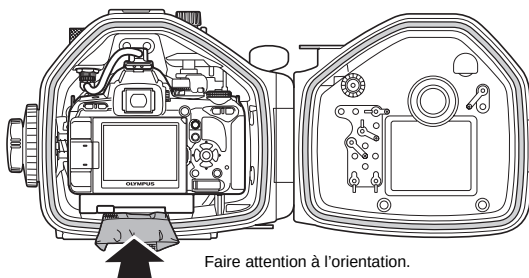


ATTENTION:

- Avant chargement de l'appareil photo numérique, fixer les mécanismes de zoom et de mise au point aux bagues de zoom et de mise au point du caisson en se référant au mode d'emploi pour le port d'objectif étanche en option.
- Si les mécanismes de zoom et de mise au point sur l'objectif ne sont pas engagés correctement avec le mécanisme de la molette de zoom du caisson, le zoom et la mise au point ne sont pas possibles. Même lorsque les mécanismes sont engagés, les plages de commande de zoom et de mise au point risquent d'être limitées à cause du positionnement des mécanismes de zoom et de mise au point dans le caisson. S'assurer de les positionner correctement en lisant bien le mode d'emploi pour le port d'objectif étanche en option.

④ Introduction du gel de silice

Avant de sceller le caisson, s'assurer d'insérer le sac de gel de silice dans l'espace entre le dessous du support d'appareil et la surface interne du caisson pour éviter la formation de buée. Insérer le sac de gel de silice latéralement en repliant les côtés.



ATTENTION:

- Tenter de sceller le caisson avec le sac inséré partiellement causera le coincement du sac de gel de silice dans le joint et une fuite d'eau se produira.
- Une fois que le gel de silice a été utilisé, la performance d'absorption de l'humidité sera diminuée. Toujours changer le gel de silice lorsque le caisson est ouvert et fermé.

Vérifier après insertion

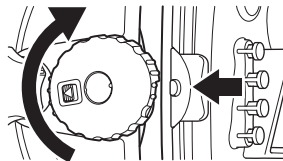
Fr

Toujours effectuer les contrôles suivants avant de sceller le caisson.

- L'oculaire est-elle retirée correctement ?
- L'entretien du joint a-t-il été effectué correctement ?
- L'appareil photo numérique a-t-il été chargé de sorte que la molette de zoom fonctionne correctement ?
- Le gel de silice a-t-il été inséré complètement dans la position spécifiée ?
- Les joints et les surfaces de contact des joints sont-ils exempts de saleté ou de corps étrangers ?
- Les joints sont-ils installés correctement ?
- En combinant un flash électronique avec un câble TTL, vérifier que le câble de sabot actif est raccordé correctement et que le réglage de sortie automatique du flash de l'appareil photo est sur OFF.
- En utilisant du flash électronique sous-marin UFL-2 avec le câble fibre optique sous-marin, ou en utilisant un flash esclave d'un fabricant autre que Olympus, vérifier que le flash incorporé de l'appareil photo est sorti.

Sceller le caisson

- ① Fermer soigneusement le couvercle arrière (pour que les joints ne sortent pas des gorges).
 - ② Tourner la molette d'ouverture/de fermeture dans le sens des aiguilles d'une montre.
- Le caisson est scellé lorsque le verrou de glissière est situé en haut.



⚠ ATTENTION:

Si la molette d'ouverture/de fermeture n'est pas complètement tournée, le caisson ne sera pas scellé hermétiquement et une fuite d'eau risque de se produire.

Vérifier le fonctionnement de l'appareil photo installé

Après avoir scellé le caisson, vérifier si l'appareil photo fonctionne normalement.

- Actionner le levier d'interrupteur d'alimentation du caisson et vérifier que l'alimentation de l'appareil est commutée sur marche et arrêt.
- Tourner le bouton de molette Mode du caisson et vérifier que le mode de l'appareil photo est commuté correctement.
- Actionner la commande de déclencheur du caisson et vérifier que l'obturateur de l'appareil photo est déclenché.
- Actionner la molette de zoom du caisson et vérifier que le volet d'oculaire de l'appareil photo est commandé.
- Actionner les autres touches de commande sur le caisson et vérifier que l'appareil photo fonctionne correctement comme prévu.

Effectuer les contrôles finaux

Inspection visuelle

Après avoir fermé hermétiquement le caisson, regardez le joint entre les couvercles avant et arrière et le raccordement entre le port et le caisson et vérifiez que les joints ne sont pas tordus, qu'ils sont assis correctement dans les rainures et qu'aucun corps étranger n'a été pris entre les deux parties.

⚠ ATTENTION:

Des cheveux, des fibres et d'autres éléments fins ne sont pas très apparents, mais ils risquent de causer une entrée d'eau, par conséquent une attention particulière est demandée.

Test de fuite d'eau

Le test final après chargement de l'appareil photo est expliqué ci-dessous. Toujours effectuer ce test. Il peut être effectué facilement dans un réservoir d'eau ou une baignoire. La durée nécessaire est de cinq minutes environ.

Test de fuite d'eau simple	Image explicative	Conseils
① Entrer lentement le caisson dans l'eau.		Comme couvercle arrière du caisson est transparent, des gouttes d'eau y entrant peuvent être vues facilement.
② D'abord, n'immerger le caisson que pendant trois secondes.		En cas de problème avec le joint, trois secondes sont suffisantes pour laisser entrer de l'eau. Y a-t-il des bulles d'air sortant entre les couvercles ?
③ Vérifier qu'il n'y a pas d'eau entrée dans le caisson.		Sortir le caisson de l'eau et vérifier qu'aucune eau n'a fui à l'intérieur du caisson.
④ Puis, immerger le caisson pendant 30 secondes.		Examiner attentivement les bulles d'air! N'effectuer aucune opération pour le moment, mais simplement observer.
⑤ Vérifier qu'il n'y a pas d'eau entrée dans le caisson.		Sortir le caisson de l'eau et vérifier qu'aucune eau n'a fui au fond du caisson.
⑥ Puis, vérifier en immersion pendant trois minutes.		Examiner attentivement les bulles d'air! Essayez le fonctionnement des touches fréquemment utilisées. Examiner attentivement les bulles d'air!
⑦ C'est le contrôle final. Le gel de silice est-il devenu humide ?		Le gel de silice est-il devenu humide ? Veuillez contrôler soigneusement!
⑧ Les tests finaux sont bons s'il n'y a pas de fuite d'eau.		Tout est alors correct !

5. Manipulation après la prise de vue

Essuyer toute goutte d'eau

Après la prise de vue sous-marine, essuyez toute goutte d'eau du caisson. Utilisez de l'air comprimé ou un chiffon doux pour essuyer soigneusement toute trace d'humidité de la charnière entre les couvercles avant et arrière, sur le levier du déclencheur, la poignée et la molette d'ouverture/de fermeture.

ATTENTION:

De l'eau restée entre les couvercles avant et arrière ou entre le caisson et le port peut entrer à l'intérieur du caisson une fois ouvert ou quand le port est retiré. Veuillez sécher ces endroits avec une attention toute particulière.

Sortir l'appareil photo numérique

Ouvrir la molette d'ouverture/de fermeture du caisson et ouvrir soigneusement le couvercle arrière. Si le câble de sabot actif est raccordé à l'appareil photo, d'abord le débrancher, puis retirer les molettes de zoom et de mode du caisson pour qu'elles ne viennent pas dans le passage du retrait de l'appareil photo numérique, et sortir l'appareil photo numérique.

ATTENTION:

- En ouvrant le caisson ou en retirant le port, veillez à ce qu'aucune goutte d'eau de l'extérieur (provenant de vos cheveux ou de votre combinaison de plongée) ne tombe à l'intérieur du caisson et/ou sur l'appareil photo !
- Avant d'ouvrir le caisson ou de retirer le port, assurez-vous que vos mains ou vos gants sont bien propres (sans trace de sable, fibres, etc.).
- Ne jamais ouvrir le caisson ni retirer le port dans des endroits susceptibles d'être éclaboussés ou s'il y a un risque de présence de sable ou de poussière dans l'air. Dans des cas extrêmes, s'il faut changer la batterie ou la carte mémoire par exemple, le caisson et l'appareil photo doivent être protégés du vent et des embruns en utilisant une protection appropriée (telle qu'une feuille en plastique.)
- Ne jamais toucher l'appareil photo numérique et/ou la batterie avec les mains mouillées avec de l'eau salée.

Laver le caisson avec de l'eau pure

Après utilisation, sceller de nouveau le caisson après avoir sorti l'appareil et le laver suffisamment dans de l'eau pure dès que possible.

Après utilisation dans de l'eau salée, le tremper dans de l'eau pure pendant quelques un certain temps (30 minutes à 1 heure) pour éliminer tout le sel.

ATTENTION:

- Une fuite d'eau peut être causée lorsqu'une pression d'eau élevée est appliquée localement. Avant de laver le caisson avec de l'eau, y retirer l'appareil photo numérique.
- Faire fonctionner le déclencheur et diverses touches de ce produit dans l'eau pure pour retirer le sel adhérent à l'axe. Ne pas démonter pour le nettoyage.
- Laisser sécher du sel sur le caisson risque de nuire au fonctionnement. Toujours retirer toute trace de sel après utilisation.



Sécher le caisson

Après lavage à l'eau pure, utiliser un chiffon doux n'ayant pas de sel sur lui et ne déposant pas de fibres pour essuyer toute trace d'eau et sécher complètement le caisson dans un endroit bien ventilé à l'ombre.



ATTENTION:

Ne pas utiliser l'air chaud d'un sèche-cheveux ou d'un appareil similaire pour le séchage et ne pas exposer le caisson en plein soleil, ce qui pourrait accélérer la détérioration ou la déformation du caisson et la dégradation du joint, entraînant une fuite d'eau.

En essuyant le caisson, faire attention de ne pas causer de rayures.

6. Maintien de la fonction d'étanchéité

Le joint est un produit consommable. Avant chaque utilisation, effectuer l'entretien régulier. S'assurer toujours d'effectuer l'opération d'entretien du joint comme décrit ci-dessous. Négliger cet entretien risquerait de causer une fuite d'eau.

Effectuer à un endroit sans sable ni poussière après s'être lavé et séché les mains.

Retirer le joint

Ouvrir le caisson et lui retirer le joint.

Procédure

- ① Insérer l'outil de retrait de joint dans l'intervalle entre le joint et la paroi de la rainure du joint.
- ② Amener l'extrémité de l'outil de retrait inséré sous le joint. (Faire attention de ne pas endommager la rainure avec l'extrémité de l'outil de retrait.)
- ③ Lever le joint, le serrer avec le bout des doigts et le retirer du caisson.

Retirer tout grain de sable, poussière, etc.

Après avoir contrôlé visuellement que la poussière a été retirée du joint, le contrôle pour du sable et d'autre matière étrangère collé, aussi bien que pour des dommages ou crevasses peut être fait en serrant légèrement toute la circonférence du joint avec le bout des doigts.

Retirer toute matière étrangère collée dans la rainure du joint avec un chiffon propre ou un Coton-Tige avec peu de débris. Retirer également le sable et la poussière collés aux surfaces du caisson qui viennent en contact avec le joint.

ATTENTION:

- Lorsqu'un objet pointu est utilisé pour retirer le joint ou pour nettoyer l'intérieur de la gorge du joint, le caisson et le joint risquent d'être endommagés et une fuite d'eau risque de se produire.
- Lorsque le joint est contrôlé avec le bout des doigts, faire attention de ne pas allonger le joint.
- Ne jamais utiliser d'alcool, de diluant, de benzène ou des solvants similaires ni des détergents chimiques pour nettoyer le joint. Si de tels produits chimiques sont utilisés, il est probable que le joint sera endommagé ou que sa dégradation sera accélérée.

Installer le joint

S'assurer qu'aucune matière étrangère n'est collée, appliquer une fine couche de graisse des accessoires sur le joint, et faire rentrer le joint dans la gorge. À ce moment-là, s'assurer que le joint n'est pas coincé en dehors de la gorge.

Même un seul cheveu ou un seul grain de sable peut causer une fuite d'eau.

Comment appliquer la graisse sur le joint

① Appliquer seulement Olympus la graisse spécifique.		Après s'être assuré qu'il n'y a pas de saleté sur vos doigts ni sur le joint, mettre environ 5 mm de graisse du tube sur le bout de votre doigt. (La quantité appropriée de graisse est de 5 mm environ.)
② Étaler la graisse sur le joint.		En utilisant le bout du pouce et de deux doigts de votre main, étaler la graisse le long du joint tout en graissant. Faire attention de ne pas tirer excessivement sur le joint.
③ Vérifier qu'il n'y a ni dommage ni irrégularité sur le joint.		Lorsque la graisse s'infiltre le long du joint, vérifier qu'il n'y a ni dommage ni irrégularité dessus en le touchant et le regardant. Si un défaut est constaté, ne pas hésiter à remplacer le joint par un neuf.
④ Appliquer la graisse sur la surface de contact du joint.		Utiliser la graisse restant sur le bout de vos doigts pour nettoyer et graisser la surface de contact du joint sur le couvercle avant.

⚠ ATTENTION:

- Toujours effectuer l'entretien de la fonction d'étanchéité même lorsque le caisson a été ouvert à chaque prise de vue. Négliger cet entretien risque de devenir la cause d'une fuite d'eau.
- Lorsque le caisson n'est pas utilisé pendant une longue durée, retirer le joint de la rainure pour éviter une déformation du joint, appliquer une fine couche de graisse silicone, et le ranger dans un sac en plastique propre ou dans quelque chose de similaire.

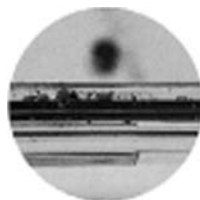
Exemples de matières étrangères qui se collent au joint



Cheveu



Fibres



Grains de sable

Changer les pièces consommables

- Le joint est un produit consommable. Indépendamment du nombre de fois que le caisson est utilisé, il est recommandé de changer le joint au moins une fois par an.
- La dégradation du joint est accélérée par les conditions d'utilisation et de stockage. Changer le joint même avant un an s'il montre des signes de dommage, de fêlure ou de perte d'élasticité.

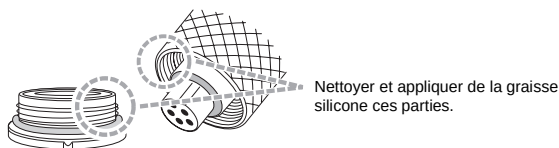
⚠ ATTENTION:

- Utiliser la graisse silicone, le gel de silice et le joint d'origine Olympus.
- Ne pas essayer de remplacer soi-même le joint.
- Nous recommandons d'effectuer périodiquement la vérification.

Entretien des parties filetées sur le câble TTL et le connecteur de câble TTL

Si les parties filetées utilisées pour raccorder le câble TTL au connecteur de câble TTL ne sont pas entretenues correctement, du sel et d'autres résidus d'eau salée risquent d'adhérer au câble TTL et de l'empêcher d'être débranché.

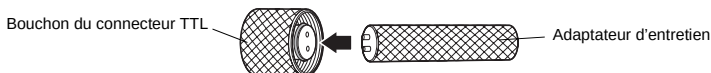
Après une utilisation en eau salée, nettoyer toute trace de sel, de sable ou d'autres résidus dès que possible, puis sécher complètement le matériel. Nettoyer les parties filetées avec un Coton-Tige et appliquer uniformément une fine couche de graisse silicone (fournie avec ce caisson).



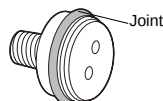
Nettoyer et appliquer de la graisse silicone ces parties.

Entretien du bouchon du connecteur TTL

Après retrait du caisson étanche du connecteur TTL, bien nettoyer et graisser le joint. Utiliser l'adaptateur d'entretien pour retirer le support de joint du bouchon du connecteur TTL.



- ① Insérer l'adaptateur en alignant sa broche avec le trou sur le bouchon.
- ② Tourner l'adaptateur dans le sens inverse des aiguilles d'une montre pour retirer le support de joint.
- ③ Après retrait du joint monté sur le support de joint, nettoyer la rainure du joint et appliquer de la graisse silicone sur le joint. Joint. Puis, remonter le joint sur le support de joint.



* Inverser l'ordre des opérations de la procédure de retrait pour refixer le support de joint sur le bouchon du connecteur TTL.

7. Annexe

Fiche technique

Modèle disponible	Olympus appareil photo numérique E-620
Résistance à la pression	Profondeur jusqu'à 40 m (130 pieds)
Matières principales	Corps principal: Résine de polycarbonate. Molette d'ouverture/de fermeture/levier de déclenchement/molette d'interrupteur d'alimentation/molette Mode/molette de commande/molette de zoom/support d'appareil: Résine de polycarbonate. Monture de port/cadre du viseur de visée/monture de support optionnel/mécanisme de molette de zoom/bouchon du connecteur TTL: Aluminium. Axe des touches de fonctionnement/boucle de la dragonne: Acier inoxydable. Bouchon du corps: Résine ABS. Joints/cache intérieur d'écran ACL: Caoutchouc silicone. Cache d'écran ACL: Caoutchouc NBR.
Dimensions	Largeur: 208,0 mm x hauteur: 169,0 mm x profondeur: 144,0 mm
Poids	1.340 g (appareil photo et accessoires non compris)

* Nous nous réservons le droit de changer l'apparence externe et les caractéristiques techniques sans préavis.

Accessoires fournis avec le PT-E06

Joint (pour couvercle arrière): POL-E06A

Joint (pour couvercle avant): POL-E06B

Graisse silicone: PSOLG-2

Gel de silice: SILCA-5S

Coiffe d'écran ACL: PFUD-E06

Support d'appareil: PTMO-E05

Dragonne: PST-E02

Bouchon du corps: PBC-E02

Bouchon du connecteur TTL: PTAC-E04

Port étanche

Port étanche	Profondeur supportée	Objectifs applicables	Remarque
PPO-E01	60 m	14-45 mm	Fourni avec le mécanisme de zoom étanche PPZR-E01 pour objectif 14-45 mm.
		35 mm Gros plan	Le mécanisme de zoom PPZR-E01 fourni ne peut pas être utilisé. La rotation de la bague de mise au point peut être augmentée à 360° en utilisant le mécanisme de mise au point PPZR-E04 en option. Le grossissement immédiatement devant l'objectif devient x0,6 environ.
PPO-E02	60 m	14-54 mm	Fourni avec le mécanisme de zoom étanche PPZR-E02 pour objectif 14-54 mm, 14-54 mm II ou 11-22 mm.
		14-54 mm II	
		11-22 mm	
PPO-E03	60 m	50 mm Gros plan	La mise au point manuelle est possible en utilisant le PPZR-E01 fourni, mais la rotation de la bague de mise au point est limitée à 180°. La rotation de la bague de mise au point peut être augmentée à 360° en utilisant le mécanisme de mise au point PPZR-E04 en option.
PER-E01	60 m	EC-14	En utilisant l'objectif EC-14, le fixer entre le port étanche et un caisson de série PT-E. Il est impossible de faire un zoom avec l'objectif ou une mise au point manuelle avec le modèle EC-14.
PPO-E04 + PER-E02	60 m	7-14 mm	Le mécanisme de zoom PPZR-E03 pour objectif 7-14 mm est fourni.
PPO-E04	60 m	8 mm Œil de poisson	La bague de mise au point peut être tournée sur 360° en utilisant le mécanisme de mise au point PPZR-E05 en option.
		9-18 mm Œil de poisson	Le zoom peut être commandé en utilisant le mécanisme dédié PPZR-E07 optionnel.
PPO-E05	40 m	14-42 mm	Fourni avec le mécanisme de zoom PPZR-E06 pour objectif 14-42 mm.

Lorsque le port étanche est utilisé en combinaison avec un caisson de PT-E06, la profondeur supportée réelle est limitée à 40 m spécifiée pour le port étanche même si le caisson de PT-E06 résiste à une profondeur de 60 m.

Accessoires optionnels

Graisse silicone: PSOLG-3

Câble fibre optique sous-marin: PTCB-E02

Câble TTL: PTCB-E01

Câble de sabot actif: PHCB-01

Support: PTBK-E01, PTBK-E02

* Lors de l'utilisation combinée du PTBK-E01 et du caisson, les rondelles dédiées sont nécessaires dans la partie des vis.

En cas de possession d'un PTBK-E01 avec lequel les rondelles dédiées ne sont pas fournies, contacter le centre d'assistance au client.

Les accessoires peuvent être achetés. Les produits d'un modèle différent de ceux décrits ci-dessus ne peuvent pas être utilisés.



<http://www.olympus.com/>

OLYMPUS IMAGING CORP.

Shinjuku Monolith, 3-1 Nishi-Shinjuku 2-chome, Shinjuku-ku, Tokyo, Japon

OLYMPUS IMAGING AMERICA INC.

3500 Corporate Parkway, P.O. Box 610, Center Valley, PA 18034-0610, États-Unis Tel. 484-896-5000

Support technique (États-Unis)

Aide en ligne 24/24h, 7/7 jours : <http://www.olympusamerica.com/support>

Ligne téléphonique de support : Tél. 1-888-553-4448 (appel gratuit)

Notre support technique téléphonique est ouvert de 8 à 22 heures
(du lundi au vendredi) ET

E-Mail : distec@olympus.com

Les mises à jour du logiciel Olympus sont disponibles à l'adresse suivante :

<http://www.olympusamerica.com/digital>

OLYMPUS IMAGING EUROPA GMBH

Locaux : Wendenstrasse 14-18, 20097 Hamburg, Allemagne

Tél. : +49 40-23 77 3-0 / Fax : +49 40-23 07 61

Livraisons de marchandises : Bredowstrasse 20, 22113 Hamburg, Allemagne

Adresse postale : Postfach 10 49 08, 20034 Hamburg, Allemagne

Support technique européen :

Visitez notre site à l'adresse <http://www.olympus-europa.com>

ou appelez le NUMÉRO D'APPEL GRATUIT * : **00800 - 67 10 83 00**

pour l'Autriche, la Belgique, le Danemark, la Finlande, la France, l'Allemagne, l'Italie, le Luxembourg, les Pays-Bas, la Norvège, le Portugal, l'Espagne, la Suède, la Suisse, le Royaume-Uni

* Notez que certains opérateurs de services de téléphonie (mobile) n'autorisent pas l'accès ou exigent un préfixe supplémentaire pour les numéros commençant par +800.

Pour tous les pays européens non mentionnés ou si vous ne pouvez pas obtenir la communication avec le numéro ci-dessus, appelez l'un des numéros suivants

NUMÉROS D'APPEL PAYANTS : **+49 180 5 - 67 10 83** ou **+49 40 - 237 73 4899**

Notre Support technique est disponible du lundi au vendredi de 9 à 18 heures (heure de Paris)



MEMO

- Wir bedanken uns für den Kauf des Unterwassergehäuses PT-E06 (hier Gehäuse genannt).
- Bitte lesen Sie diese Anleitung sorgfältig und achten Sie auf einen sachgemäßen und sicheren Gebrauch dieses Produktes. Bitte bewahren Sie diese Anleitung zur späteren Bezugnahme auf.
- Bei unsachgemäßem Gebrauch kann es infolge von eindringendem Wasser zu schweren und/oder irreparablen Schäden an der eingesetzten Kamera kommen.
- Führen Sie vor jedem Gebrauch den in dieser Bedienungsanleitung beschriebenen Systemcheck durch.

Einführung

- Diese Anleitung darf ohne ausdrückliche Genehmigung in keiner Weise, auch nicht auszugsweise, mit Ausnahme für den privaten Gebrauch, vervielfältigt werden. Der Nachdruck ohne ausdrückliche Genehmigung ist strengstens untersagt.
- OLYMPUS IMAGING CORP. haftet nicht für Schäden, die auf unsachgemäßen Gebrauch oder darauf zurückzuführen sind, dass der Käufer oder ein von OLYMPUS IMAGING CORP. nicht ausdrücklich bevollmächtigter Dritter das Produkt zerlegt, repariert, umgebaut oder sonst verändert hat. Lesen Sie daher unbedingt vor dem ersten Gebrauch des Produktes diese Bedienungsanleitung durch und machen Sie sich mit den Anweisungen vertraut.

Bitte vor dem ersten Gebrauch durchlesen

- Dieses Produkt ist für eine Wassertiefe bis zu 40 Metern geeignet. Schädliche Einwirkungen dieser Art müssen unbedingt vermieden werden!
- Bitte beachten Sie bei jedem Umgang mit dem Produkt, dass Gewährleistungs-, Garantie- oder sonstige Ersatzansprüche bei unsachgemäßer Handhabung oder nicht ausdrücklich autorisierten Zerlegungen, Reparaturen, Umbauten oder Veränderungen ausgeschlossen sind. Sie sollten sich daher bereits vor dem ersten Gebrauch mit dieser Bedienungsanleitung eingehend vertraut machen. Beachten Sie insbesondere alle in dieser Anleitung enthaltenen Angaben zur Handhabung, Vorab-Test, Wartung/Pflege und Lagerung.
- Das Gehäuse muss stets zusammen mit einem gesondert erhältlichen Objektiv-Port verwendet werden.
- OLYMPUS IMAGING CORP. haftet nicht für Unfälle, die auf die Verwendung einer Digitalkamera unter Wasser zurückzuführen sind. Außerdem werden Ausgaben für Schäden an Materialien im Kamerainneren oder der Verlust der Aufnahmen aufgrund von eingedrungenem Wasser nicht entschädigt.
- OLYMPUS IMAGING CORP. leistet keinerlei Entschädigung für Unfälle (Verletzungen oder Sachschäden) während des Gebrauchs dieses Produktes.

Vorsichtsmaßnahmen bei der Bedienung

In dieser Anleitung sind wichtige Angaben zum richtigen Gebrauch und zur Vermeidung der Gefährdung von Anwendern oder Dritten sowie der Gefahr von Sachschäden durch die nachfolgend beschriebenen Piktogramme besonders gekennzeichnet.

 ACHTUNG	Verweist auf Angaben, bei deren Nichtbeachtung die Verwendung dieses Produktes zu schweren Verletzungen mit Todesgefahr führen kann.
 VORSICHT	Verweist auf Angaben, bei deren Nichtbeachtung die Verwendung dieses Produktes zu Verletzungen und/oder Sachschäden führen kann.

ACHTUNG

- ① Dieses Produkt stets vor dem Zugriff von Säuglingen, Kleinkindern und Kindern schützen. Andernfalls können Unfälle der folgenden Art auftreten:
 - Verletzungen durch ein Herunterfallen aus größerem Abstand auf den Körper oder Körperteile.
 - Verletzungen durch ein Einklemmen von Körperteilen an beweglichen, insbesondere zu öffnenden und schließenden Teilen des Produktes.
 - Verletzungen durch Verschlucken von Kleinteilen, O-Ring, Siliconfett und Silicagel. Falls Teile verschluckt wurden, sofort einen Arzt/Notarzt kontaktieren.
- ② Das Produkt niemals mit eingesetzter Digitalkamera, in der sich noch Batterien befinden, aufbewahren. Andernfalls kann Batterieflüssigkeit austreten und es besteht Feuergefahr.
- ③ Das Gehäuse muss stets zusammen mit einem gesondert erhältlichen Objektiv-Port verwendet werden. Beachten Sie bitte, dass der Gebrauch des Gehäuses ohne Objektiv-Port nicht möglich ist.
- ④ Falls Wasser auf eine in diesem Produkt eingesetzte Kamera einwirkt, umgehend die Batterien aus der Kamera entnehmen. Andernfalls können sich Wasserstoffgase bilden und es besteht Feuer- und Explosionsgefahr.
- ⑤ Dieses Produkt ist aus Polycarbonat gefertigt. Bei einer schweren Beschädigung mit Bruch des Gehäuses besteht Verletzungsgefahr durch scharfe Kanten etc.. Schädliche Einwirkungen dieser Art müssen unbedingt vermieden werden!

VORSICHT

- ① Dieses Produkt darf nicht zerlegt oder umgebaut werden. Andernfalls kann es zum Eindringen von Wasser und zu Betriebsstörungen kommen. Falls dieses Produkt durch Dritte, welche nicht ausdrücklich durch OLYMPUS IMAGING CORP. bevollmächtigt sind, zerlegt oder umgebaut wird, erlischt der Garantieanspruch.
- ② Bei der Aufbewahrung oder Nutzung dieses Produktes an den nachfolgend beschriebenen Orten kann es zu Betriebsstörungen, Fehlfunktionen, Schäden, Überhitzung mit Feuergefahr, Trübungen an der Innenseite und Leckbildung kommen. Die folgenden Orte daher vermeiden:
 - Orte mit hohen Temperaturen, wie bei direkter Sonneneinstrahlung, in einem Fahrzeug etc.
 - Orte in der Nähe von Feuer
 - Wassertiefe von mehr als 40 Metern
 - Orte, die Vibrationen ausgesetzt sind
 - Orte mit hohen Temperaturen und Feuchtigkeit oder starken Temperaturschwankungen
 - Orte, an denen flüchtige Chemikalien aufbewahrt oder verwendet werden
- ③ Öffnen oder schließen Sie das Gehäuse nicht an Orten, die der Einwirkung von Sand, Staub und Schmutzpartikeln ausgesetzt sind, da dies die Wasserdichtigkeit des Produktes beeinträchtigt und somit das Eindringen von Wasser verursachen kann. Dieses sollte vermieden werden.
- ④ Dieses Produkt dient nicht als Schutzgehäuse der sich im Inneren befindlichen Kamera gegen schwere Erschütterungen. Falls dieses Produkt bei eingesetzter Digitalkamera starken Erschütterungen oder starker Druckeinwirkung ausgesetzt wird, kann die Digitalkamera schwer beschädigt werden. Bitte behandeln Sie es mit der gegebenen Vorsicht.
- ⑤ Die nachfolgend aufgelisteten Chemikalien dürfen keinesfalls zur Reinigung, als Rostschutz- oder Antibeschlagsmittel oder für Reparaturen und ähnliche Zwecke verwendet werden. Diese Chemikalien können bei direkter oder indirekter (in Form von Spraynebel etc.) Einwirkung Gehäuserisse bei hohem Wasserdruck sowie sonstige Störungen und Schäden verursachen.

Unzulässige Chemikalien	Erläuterung
Flüchtige organische Lösungsmittel, chemische Reiniger	Das Gehäuse niemals mit Alkohol, Benzin, Farbverdünner oder sonstigen flüchtigen organischen Lösungsmitteln bzw. chemischen Reinigern säubern. Klares Wasser (kalt oder lauwarm) ist ausreichend.
Rostschutzmittel	Keine Rostschutzmittel verwenden. Die Metallteile sind aus rostfreiem Stahl oder aus Messing gefertigt. Die Reinigung mit klarem Wasser ist ausreichend.

Handelsübliche Antibeschlagsmittel	Keine handelsüblichen Antibeschlagsmittel verwenden. Ausschließlich das spezifisch geeignete Silicagel verwenden.
Andere Schmierstoffe außer dem spezifisch geeigneten Siliconfett	Für den O-Ring ausschließlich das spezifisch geeignete Siliconfett verwenden. Andernfalls kann der O-Ring beschädigt werden, was den Verlust der Wasserdichtigkeit zur Folge hat.
Klebstoff oder selbstklebende Folien	Niemals Klebstoffe oder selbstklebende Folie etc. zur Reparatur oder für ähnliche Zwecke verwenden. Falls Reparaturarbeiten anfallen, wenden Sie sich bitte an Ihren Olympus Fachhändler oder Kundendienst.

- ⑥ Bei grober Handhabung, z. B. Sprung ins Wasser mit in der Hand gehaltenem oder in einer Außentasche verstautem Gehäuse oder Werfen des Gehäuses in das Wasser etc., kann Wasser eindringen. Das Gehäuse daher bitte stets sorgfältig und vorsichtig handhaben.
- ⑦ Falls die im Gehäuse befindliche Kamera mit eindringendem Wasser etc. in Berührung gekommen ist, sofort trockenreiben und eine Funktionsüberprüfung vornehmen.
- ⑧ Keinen zu hohen Druck auf Portanschluss, TTL-Kabelkontakt, Zoomregler und Stativgewinde ausüben.
- ⑨ Drücken Sie nicht von innen gegen das Entlüftungsventil.
- ⑩ Bei Flugreisen vor dem Start den O-Ring entfernen. Andernfalls kann das Gehäuse infolge des Luftdruckunterschieds ggf. nicht mehr geöffnet werden.
- ⑪ Zur Gewährleistung der einwandfreien Handhabung und Bedienung der Digitalkamera bitte die jeweils zugehörige Bedienungsanleitung sorgfältig lesen.
- ⑫ Beim Abdichten dieses Produktes darauf achten, dass sich am O-Ring und/oder den Kontaktflächen keinerlei Fremdkörper, wie Sand, Schmutz oder Haare, befinden.
- ⑬ Wird das Unterwassergehäuse zusammen mit einem Olympus Zusatzblitzgerät verwendet, kann der in der Kamera eingebaute Blitz nicht eingesetzt werden. Zudem kann der in der Kamera eingebaute Blitz nicht ausgeklappt werden, wenn das Blitzschuhkabel am Blitzschuh der Kamera befestigt ist. Falls versucht wird, den eingebauten Blitz unter Gewaltanwendung auszuklappen, kann es zu Fehlfunktionen am Kamerablitz kommen und/oder das Blitzschuhkabel kann sich vom Blitzschuh der Kamera lösen. Zudem kann die Digitalkamera beschädigt werden.
- ⑭ Der in der Kamera eingebaute Blitz kann nicht verwendet werden, wenn die Kamera im Unterwassergehäuse eingesetzt ist.

INHALT

Einführung.....	1
Bitte vor dem ersten Gebrauch durchlesen.....	1
Vorsichtsmaßnahmen bei der Bedienung.....	1
1.Vorbereitende Schritte.....	6
Packingsinhalt auf Vollständigkeit prüfen.....	6
Bezeichnung der Teile.....	7
Anbringen des Objektiv-Ports.....	8
Anbringen der Handgelenkschlaufe.....	8
So verwenden Sie den Kameraschlitten.....	9
2.Check vor Benutzung des Gehäuses.....	10
Erster Systemcheck vor dem Gebrauch.....	10
3.Wie Sie den elektronischen Blitz anschließen.....	11
Anschluss des Unterwasser-Glasfaserkabels.....	11
Beim Verwenden des TTL-Kabels.....	12
4.Einsetzen der Digitalkamera.....	14
Überprüfen der Digitalkamera.....	14
Öffnen Sie das Gehäuse.....	15
Bringen Sie die Digitalkamera an den Kameraschlitten an.....	15
Setzen Sie die Digitalkamera in das Unterwassergehäuse ein.....	16
Überprüfen auf einwandfreies Einsetzen.....	17
Schließen des Gehäuses.....	18
Überprüfen Sie die eingesetzte Kamera auf einwandfreie Funktionsweise.....	18
Abschließende Überprüfung des Gehäuses.....	18
Visuelle Inspektion.....	18
Wasserdichtigkeitstest.....	19
5.Behandlung nach dem Gebrauch.....	20
Entfernen von Wassertropfen.....	20
Entnehmen der Digitalkamera.....	20
Reinigen des Gehäuses mit klarem Wasser.....	20
Abtrocknen des Gehäuses.....	21
6.Wartung der Wasserdichtigkeit.....	22
Entfernen Sie den O-Ring.....	22
Reinigen des O-Rings.....	22
Anbringen des O-Rings.....	22
Einfetten des O-Rings.....	23
Austausch von Verschleißteilen.....	24
Wartung der Gewinde des TTL-Kabels und des TTL-Kabelanschlusses.....	24
Wartung der TTL-Anschlusskappe.....	24



7. Anhang 25

Technische Daten 25

 Mitgeliefertes Zubehör für PT-E06..... 25

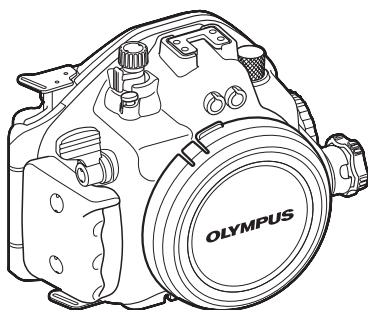
 Objektiv-Port 26

 Optionales Zubehör 26

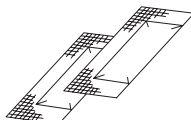
1. Vorbereitende Schritte

Packungsinhalt auf Vollständigkeit prüfen

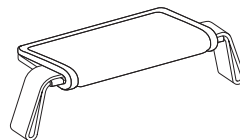
Vergewissern Sie sich, dass alle zum Lieferumfang gehörigen Teile in der Packung enthalten sind. Falls Sie fehlende oder beschädigte Teile feststellen, wenden Sie sich bitte umgehend an Ihren Fachhändler.



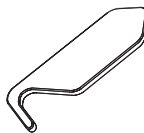
- Gehäuse
(Vergewissern Sie sich, dass der O-Ring sowohl am hinteren als auch am vorderen Gehäuse angebracht ist.)



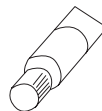
- Silicagel (2g)



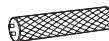
- Handgelenkschlaufe



- O-Ring-Entferner



- Siliconfett für O-Ring



- Wartungsadapter

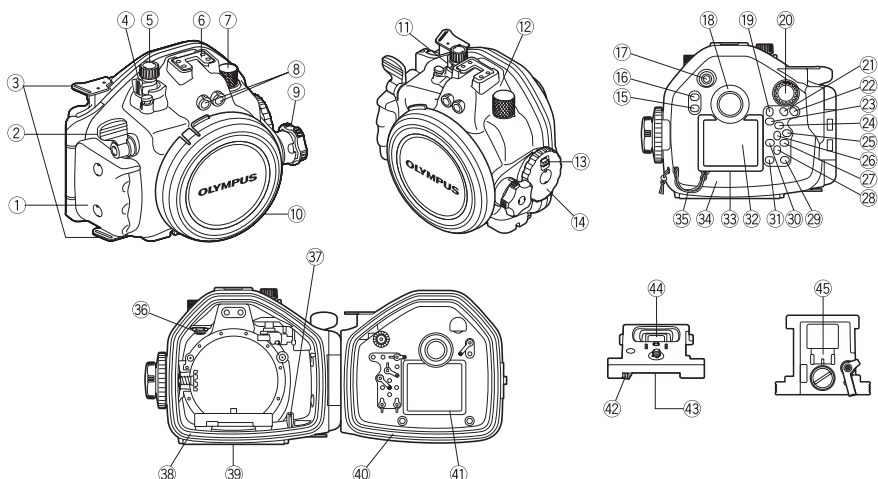
- Liste der autorisierten Händler/
Liste der autorisierten Service-Center
• Bedienungsanleitung (diese Anleitung)



VORSICHT:

Führen Sie nach dem Kauf unbedingt eine Wartung durch, selbst wenn das Produkt neu ist. Die Vernachlässigung der Wartung kann zum Eindringen von Wasser führen. Zum Warten des Gehäuses siehe S.22.

Bezeichnung der Teile



- | | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|---|
| ① Handgriff | *15 MENU -Taste | ③② LCD-Monitor-Fenster |
| *② Auslöserhebel | *16 INFO (Infoanzeige)-Taste | ③③ LCD-Monitor-Blendschutzhaube |
| ③ Öse für Handgelenkschlaufe | ①⑦ Entlüftungsventil | ③④ Hinterer Gehäusedeckel |
| *④ (Belichtungs-korrektur)-Taste | ①⑧ Abnehmbarer Sucher | ③⑤ Schnur f. LCD-Monitor-Blendschutzhaube |
| *⑤ Programmwählknopf | *①⑨ AEL/AFL -Taste | ③⑥ Blitzschuhkabelkontakte (m. Kappen) |
| ⑥ Zubehörschuh | *②⑩ Einstellknopf | ③⑦ Einschubführungsschienen |
| ⑦ TTL-Kabelkontakt | *②⑪ Fn-Taste | ③⑧ O-Ring (POL-E06B) |
| ⑧ Steckplatz Glasfaserkabel, kappe | *②⑫ (AF-Markierungs)-Taste | ③⑨ Stativgewinde |
| *⑨ Zoomregler | *②⑬ (Wiedergabe)-Taste | ④⑩ O-Ring (POL-E06A) |
| *⑩ Gehäusekappe | *②⑭ -Taste | ④① Innerer LCD-Monitorrahmen |
| *⑪ Hauptschalterhebel | *②⑮ -Taste | ④② Kameraschlittenarretierung |
| ⑫ Vorderer Gehäusedeckel | *②⑯ -Taste | ④③ Kameraschlitten |
| ⑬ Schiebeperrre | *②⑰ Pfeiltaste ▲ | ④④ Staufplatz Okularmuschel |
| ⑭ Wählknopf zum Öffnen/Schließen | *②⑱ Pfeiltaste ► | ④⑤ Staufplatz Blitzschuhabdeckung |
| | *②⑲ Pfeiltaste ▼ | |
| | *②⑳ IS-Taste | |
| | *③⑰ Pfeiltaste ◀ | |
| | *③⑱ (Löschen)-Taste | |

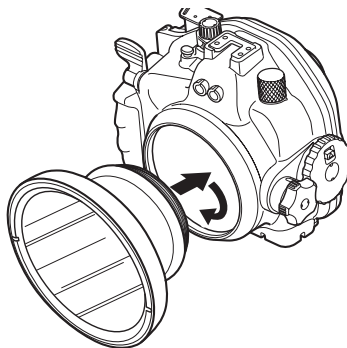
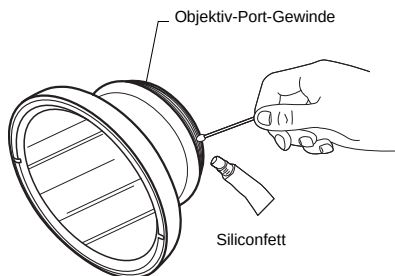
Hinweis:

Die Funktionen der mit dem Symbol * gekennzeichneten Teile stimmen mit denen der entsprechenden Bedienelemente an der Digitalkamera überein. Dementsprechend führt die Digitalkamera bei Betätigen dieser Gehäuse-Bedienelemente die entsprechenden Funktionen aus. Angaben zu diesen Funktionen entnehmen Sie bitte der zur Digitalkamera gehörigen Bedienungsanleitung.

Anbringen des Objektiv-Ports

Zum Unterwassergebrauch des Gehäuses muss unbedingt der gesondert erhältliche Objektiv-Port für das Kameraobjektiv verwendet werden. Hierzu müssen Sie den für das zu verwendende Objektiv geeigneten Objektiv-Port an der Objektivöffnung des Gehäuses anbringen.

- Zum Anbringen des Objektiv-Ports am Gehäuse lesen Sie bitte die Angaben in der zum Objektiv-Port gehörigen Anleitung sorgfältig.
- Fetten Sie mit dem geeigneten Siliconfett die O-Ring-Nut am Objektiv-Port und das Port-Schraubgewinde des Gehäuses ein.
- Schrauben Sie den Objektiv-Port durch Drehen im Uhrzeigersinn bis zum Anschlag am Gehäuse fest.

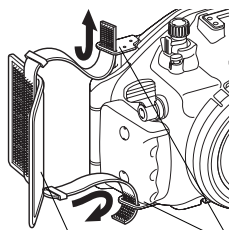


⚠ VORSICHT:

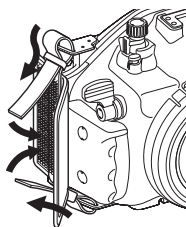
Das Gehäuse darf nur für bis zu 40 Meter Unterwassertiefe verwendet werden. Dies gilt auch, wenn angebrachte Zubehörteile, wie Unterwasser-Objektiv-Port oder sonstiges Zubehör, für Unterwassertiefen von mehr als 40 Metern ausgelegt sind. Das Gehäuse niemals tiefer als 40 Metern unter Wasser verwenden!

Anbringen der Handgelenkschlaufe

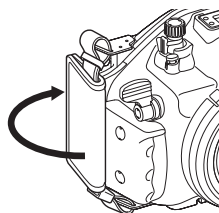
Bringen Sie die Handgelenkschlaufe am Gehäuse an.



Handgelenkschlaufe



Ring für Handgelenkschlaufe

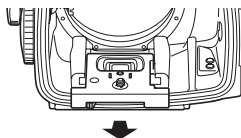
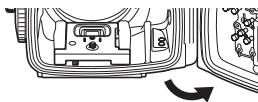


So verwenden Sie den Keraschlitten

Die Digitalkamera wird mithilfe des Keraschlittens, der sich im vorderen Gehäusedeckel befindet, in das Gehäuse eingesetzt.

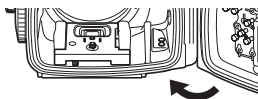
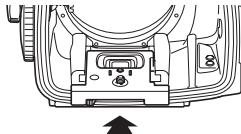
So nehmen Sie den Keraschlitten ab.

- ① Schieben und halten Sie die Schiebersperre des Gehäuses. Öffnen Sie nun den Wählnopf zum Öffnen/Schließen und öffnen Sie dann die hintere Abdeckung des Gehäuses.
- ② Schieben Sie die Keraschlittenarretierung nach links, um den Keraschlitten zu entriegeln. Ziehen Sie den Keraschlitten nach außen.



So bringen Sie den Keraschlitten an.

- ① Schieben Sie den Keraschlitten auf den Einschubführungsschienen bis zum Anschlag in den vorderen Gehäusedeckel ein. Schieben Sie die Keraschlittenarretierung nach rechts, um den Keraschlitten zu verriegeln.
- ② Schließen Sie den hinteren Gehäusedeckel vorsichtig und verriegeln Sie den Wählnopf zum Öffnen/Schließen einwandfrei.



VORSICHT:

Falls versucht wird, den hinteren Gehäusedeckel zu schließen, solange der Keraschlitten noch nicht bis zum Anschlag auf den Einschubführungsschienen in den vorderen Gehäusedeckel eingeschoben wurde, können Gehäuse und/oder Digitalkamera beschädigt werden.

2. Check vor Benutzung des Gehäuses

Erster Systemcheck vor dem Gebrauch

Dieses Gehäuse unterliegt einer strengen Qualitätskontrolle bei der Fertigung und der Montage der Teile einschließlich einer sorgfältigen Funktionsüberprüfung. Zudem wird jedes Gehäuse in einem speziellen Wasserdruckbelastungstest auf seine Wasserdichtigkeit überprüft, um die Einhaltung der Leistungsdaten zu gewährleisten.

In Abhängigkeit von den Bedingungen bei Lagerung und Transport, dem Wartungszustand etc. kann die Wasserdichtigkeit des Gehäuses beeinträchtigt werden.

Führen Sie vor dem Gebrauch stets die folgenden anfänglichen Überprüfungen durch:

Überprüfen der abdichtenden Teile des Gehäuses

Bitte überprüfen Sie die abdichtenden Teile des Gehäuses wie nachfolgend beschrieben.

- ① Vergewissern Sie sich, dass die O-Ringe des Gehäuses einwandfrei eingepasst und mit der Schiebersperre und dem Wählknopf zum Öffnen/Schließen gesichert sind.
- ② Vergewissern Sie sich, dass der gesondert erhältliche Objektiv-Port einwandfrei am Gehäuse angebracht ist und achten Sie hierbei insbesondere auf einwandfreien Sitz des O-Rings zwischen Objektiv-Port und Gehäuse.
- ③ Vergewissern Sie sich, dass der O-Ring des TTL-Anschlusses einwandfrei angebracht ist und achten Sie hierbei darauf, dass die Kappe einwandfrei am Anschluss festgezogen wurde.

Erster Systemcheck

- ① Bevor Sie das Gehäuse mit eingesetzter Digitalkamera verwenden, tauchen Sie das leere wasserdicht geschlossene Gehäuse in der vorgesehenen Wassertiefe unter und vergewissern Sie sich, dass kein Wasser eindringen kann. Fällt dies schwer, kann die Wasserdichtigkeit mit dem „Wasserdichtigkeitstest“ (S. 19) überprüft werden.
 - ② Die Hauptursachen für eindringendes Wasser sind wie folgt:
 - Die O-Ringe sind nicht installiert
 - Die O-Ringe befinden sich teilweise oder vollständig außerhalb der vorgesehenen Nut.
 - Die O-Ringe weisen Schäden, Risse, Abnutzung oder Verformungen auf
 - An den O-Ringen oder den O-Ring-Nuten bzw. O-Ring-Kontaktflächen haften Sand, Fasern, Haare oder sonstige Fremdkörper an.
 - Die O-Ring-Nuten oder O-Ring-Kontaktflächen sind beschädigt.
 - Die angebrachte Schlaufe oder das Silikagel werden beim Schließen des Gehäuses eingeklemmt.
- Führen Sie den Test durch, nachdem die oben genannten Gründe ausgeschlossen wurden.**



VORSICHT:

Falls bei diesem Vorab-Test und normaler Handhabung eindringendes Wasser festgestellt wird, darf das Gehäuse nicht verwendet werden. Wenden Sie sich an Ihren Olympus Fachhändler oder Kundendienst.

De

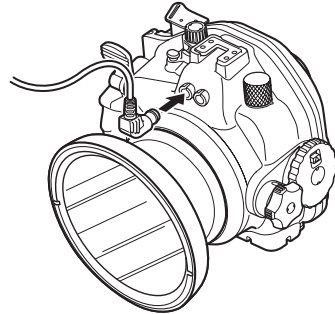
3. Wie Sie den elektronischen Blitz anschließen

Anschluss des Unterwasser-Glasfaserkabels

Führen Sie zum Anschluss des gesondert erhältlichen Unterwasserblitzes UFL-2 an das Gehäuse mit einem Unterwasser-Glasfaserkabel (optional) die nachfolgend beschriebenen Schritte aus.

Wie Sie das Unterwasser-Glasfaserkabel anschließen

- ① Nehmen Sie die Kappe vom Steckplatz des Glasfaserkabels ab.
- ② Stecken Sie den Stecker des Unterwasser-Glasfaserkabels fest in den Steckplatz für das Glasfaserkabel.



Einstellen der Digitalkamera

- ① Stellen Sie den RC-Modus der Kamera auf ON, um den in die Kamera eingebauten Blitz zu aktivieren.
- ② Setzen Sie die Kamera bei herausgefahrenem Blitz ins Gehäuse.

Weitere Angaben zum Betrieb des UFL-2 sind in der Bedienungsanleitung des UFL-2 zu finden.

VORSICHT:

Wird ein Blitzgerät mit Unterwasser-Glasfaserkabel eines Drittherstellers verwendet, das im „Slave“-Modus arbeitet, stellen Sie den eingebauten Blitz der Kamera auf „Manuell“.

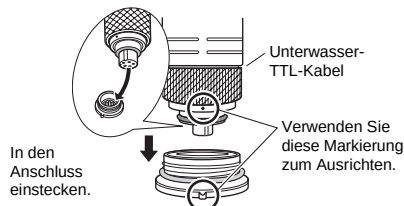
Falls das Blitzverhältnis des eingebauten Blitzes der Kamera mehr als 1/64 ist, wird der eingebaute Blitz der Kamera möglicherweise im Objektiv-Port reflektiert und auf dem Bild aufgenommen werden.

Beim Verwenden des TTL-Kabels

Wenn Sie den optionalen elektronischen Blitz mit dem Unterwasser-TTL-Kabel (optional: PTCB-E01) anschließen, schließen Sie das Blitzschuhkabel (optional: PHCB-01) an der Kamera und an dem vorderen Gehäusedeckel an.

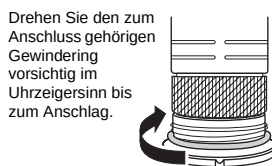
Anschluss des Unterwasser-TTL-Kabels.

- ① Drehen Sie die TTL-Anschlusskappe gegen den Uhrzeigersinn und nehmen Sie sie ab.
- ② Schließen Sie das Unterwasser-TTL-Kabel (optional: PTCB-E01) an den TTL-Anschluss an dem Gehäuse an.

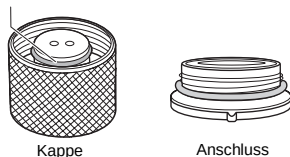


- ③ Wenn Sie das Unterwasser-TTL-Kabel nicht verwenden, bringen Sie die TTL-Anschlusskappe an.

Vergewissern Sie sich, dass an den O-Ringen in der Kappe und am TTL-Kabelanschluss keine Fremdkörper anhaften. Drehen Sie sie dann vorsichtig im Uhrzeigersinn bis zum Anschlag.



O-Ringe überprüfen

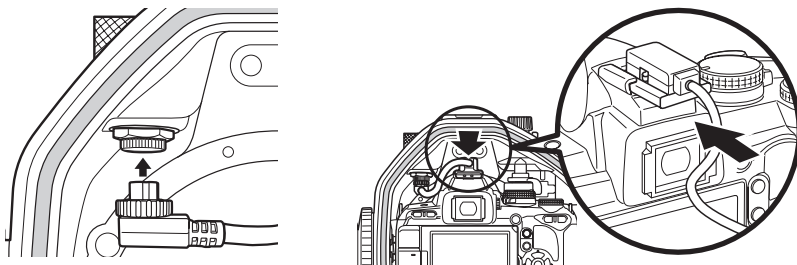


⚠ VORSICHT:

Falls die TTL-Anschlusskappe nicht einwandfrei befestigt ist, kann Wasser eindringen.

Wie Sie das Blitzschuhkabel anschließen

- ① Zum Abnehmen drehen Sie die sich im Gehäuseinneren befindliche Blitzschuhkabelanschlusskappe gegen den Uhrzeigersinn.
- ② Führen Sie den Steckverbinder des Blitzschuhkabels in den Anschluss des Gehäuses ein und drehen Sie die Verbindungsschrauben bis zum Anschlag im Uhrzeigersinn, um eine einwandfreie Befestigung zu gewährleisten.
- ③ Setzen Sie die Kamera in das Gehäuse ein und schließen Sie dann das Blitzschuhkabel an die Kamera an.



Einstellen der Digitalkamera

- ① Für die automatische Blitzausklappfunktion die Einstellung „OFF“ wählen. In den Aufnahmeprogrammen außer AUTO und den Unterwasseraufnahmemodi der Kamera wird der eingebaute Blitz automatisch ausgeklappt, wenn bei schwachem Umgebungslicht oder starkem Gegenlicht fotografiert wird. Einzelheiten zur Einstellung der Kamerafunktionen entnehmen Sie bitte der zur Kamera gehörigen Bedienungsanleitung.
- ② Zuerst das Zusatzblitzgerät und dann die Kamera einschalten.
Soll das angeschlossene Zusatzblitzgerät verwendet werden, muss dieses unbedingt vor der Kamera eingeschaltet werden!
Falls für die automatische Blitzausklappfunktion die Einstellung „ON“ gilt und an der Kamera ein anderes Aufnahmeprogramm als AUTO oder ein Unterwasseraufnahmemodus gewählt wurde, wird der eingebaute Blitz automatisch ausgeklappt, wenn zuerst die Kamera und dann der Zusatzblitz eingeschaltet wird! Stellen Sie sicher, dass zuerst das Zusatzblitzgerät und hierauf die Kamera eingeschaltet wird.

VORSICHT:

- Falls der in der Kamera eingebaute Blitz ausgeklappt wird, wenn das Blitzschuhkabel an der Kamera befestigt ist, kann es zum Lösen des Blitzschuhkabels von der Kamera und/oder zu Kontaktstörungen kommen.
- Wird ein Unterwasser-Blitzgerät eines Drittherstellers verwendet, das im „Slave“-Modus arbeitet, muss der in der Kamera eingebaute Blitz vor dem Installieren der Kamera in das Unterwassergehäuse ausgeklappt werden.
- Wurde das Gehäuse wasserdicht verschlossen, kann der in der Kamera eingebaute Blitz weder aus- noch eingeklappt werden.

4. Einsetzen der Digitalkamera

Überprüfen der Digitalkamera

Vor dem Einsetzen in das Gehäuse muss die Digitalkamera auf einwandfreien Zustand und ihre Funktionstüchtigkeit überprüft werden.

1. Batterieleistung

Wenn Sie bei Unterwasseraufnahmen den LCD-Monitor häufig zur Bildkomposition und Überprüfung Ihrer Aufnahmen verwenden, können sich die Batterien schnell leeren. Vergewissern Sie sich vor dem Gebrauch, dass die Batterieleistung ausreichend ist.

2. Kameraspeicher (Anzahl der verfügbaren Aufnahmen überprüfen)

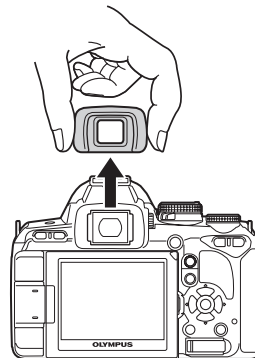
Vergewissern Sie sich, dass auf dem Speichermedium der Kamera ausreichend Speicherplatz verfügbar ist.

3. Gurt und Objektivdeckel müssen von der Kamera abgenommen werden.

Falls versucht wird, die Digitalkamera einschließlich Gurt und Objektivdeckel einzusetzen, kann das Gehäuse nicht wasserdicht verschlossen werden und es kann zum Eindringen von Wasser kommen.

4. Entfernen Sie die Okularmuskel von der Digitalkamera.

Entfernen Sie die Okularmuskel der Digitalkamera vor dem Einsetzen in das Unterwassergehäuse, damit Sie das Sucherbild besser einsehen können. Die von der Kamera abgenommene Okularmuskel kann im Kameraschlitten verstaut werden.



VORSICHT:

Falls die Digitalkamera in das Gehäuse eingebaut wird, ohne die Okularmuskel abzunehmen und die hintere Abdeckung des Gehäuses zu öffnen, springt der abnehmbare Sucher heraus. Nehmen Sie die Okularmuskel ab und stecken Sie dann den Sucher wieder ein.

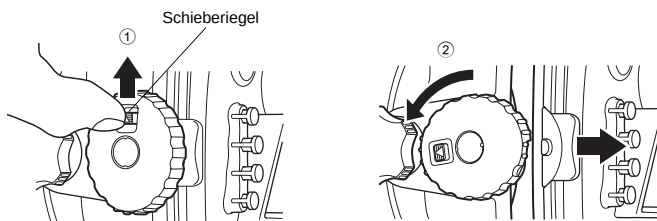
De

5. Abnehmen des Objektivfilters von der Digitalkamera

Bei angebrachtem Objektivfilter kann die Digitalkamera nicht in das Gehäuse eingesetzt werden.

Öffnen Sie das Gehäuse

- ① Halten und schieben Sie die Schiebersperre in Pfeilrichtung (①) und drehen Sie den Wählknopf zum Öffnen/Schließen gegen den Uhrzeigersinn (②).
- ② Drehen Sie den Wählknopf zum Öffnen/Schließen bis zum Anschlag.
- ③ Öffnen Sie die hintere Abdeckung des Gehäuses behutsam.



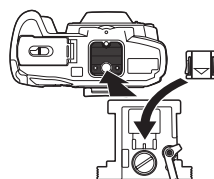
⚠ VORSICHT:

Üben Sie beim Drehen des Wählknopfs zum Öffnen/Schließen nicht zu viel Kraft aus. Sie könnten den Knopf beschädigen.

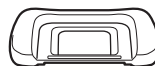
Bringen Sie die Digitalkamera an den Keraschlitten an.

Zum Installieren im Unterwassergehäuse muss die Digitalkamera an dem im vorderen Gehäusedeckel befindlichen Keraschlitten festgeschraubt werden.

- ① Die Okularmuschel und die Blitzschuhabdeckung der Digitalkamera können im Keraschlitten verstaut werden.
- ② Den Keraschlitten mit der Digitalkamera verschrauben, indem die Schraube des Keraschlittens in dem Stativgewinde an der Unterseite der Digitalkamera bis zum Anschlag festgezogen wird.
- ③ Der Keraschlitten darf nur in der vorbestimmten Position (auf- und abwärts sowie vor und zurück) ausgerichtet werden. Beachten Sie die rechts stehende Abbildung.



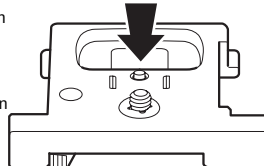
Vorne



Oben



Unten



Hinten

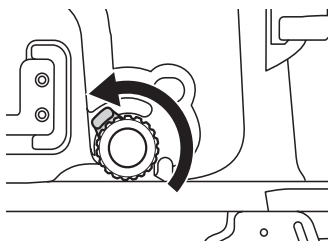


Setzen Sie die Digitalkamera in das Unterwassergehäuse ein

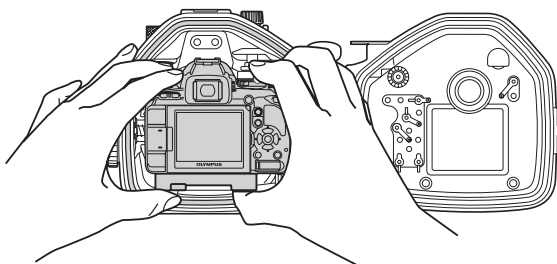
- ① Ziehen Sie den Zoomregler und den Programmwählknopf des Unterwassergehäuses nach außen (beim Herausziehen des Programmwählknopfes wird gleichzeitig der Hauptschalterhebel nach oben gezogen), damit diese nicht beim Einsetzen der Digitalkamera im Wege sind.



Zu diesem Zeitpunkt muss der Hauptschalterhebel wie in der nachfolgenden Abbildung gezeigt ausgerichtet sein.



- ② Wenn die Digitalkamera mit dem Kameraschlitten einwandfrei verschraubt ist, den Kameraschlitten vorsichtig, ohne Gewaltanwendung, auf den Einschubführungsschienen in das Unterwassergehäuse einschieben und hierbei darauf achten, dass sich die Kamera nicht an im Gehäuseinneren befindlichen Teilen verfängt.



- ③ Drücken Sie den Programmwählknopf und Zoomregler des Gehäuses vorsichtig nach innen und vergewissern Sie sich, dass mit dem Zoomregler einwandfrei gezoomt, mit dem Hauptschalterhebel die Digitalkamera einwandfrei ein- und ausgeschaltet und mit dem Programmwählknopf die Programmwählscheibe der Digitalkamera einwandfrei bedient werden kann.

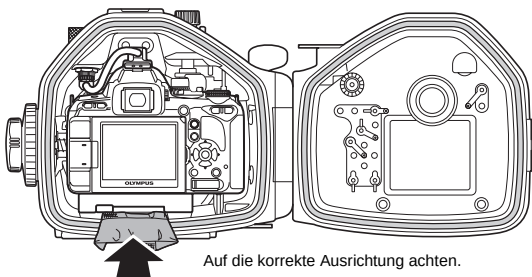


VORSICHT:

- Vor dem Einsetzen der Digitalkamera müssen Zoom- und Fokussiergetriebe am Zoom- und Fokussiererring des Unterwassergehäuses angebracht werden. Hierbei die zum optional erhältlichen Unterwasser-Objektiv-Port gehörige.
- Falls das Zoom- und Fokussiergetriebe des Objektivs nicht einwandfrei mit dem Zoomreglermechanismus des Gehäuses verkoppelt sind, kann nicht gezoomt oder fokussiert werden. Selbst wenn die Getriebe verkoppelt sind, können Zoom- und Fokussierbereich ggf. eingeschränkt sein, wenn die Zoom- und Fokussiermechanik im Gehäuseinneren nicht wie erforderlich ausgerichtet ist. Unbedingt die Angaben zur Ausrichtung in der Anleitung des optional erhältlichen Unterwasser-Objektiv-Ports beachten.

④ Den Silicagel-Beutel einsetzen

Vor dem Verschließen des Unterwassergehäuses muss der Silicagel-Beutel zwischen der Kameraschlittenunterseite und Innenseite des Unterwassergehäuses eingelegt werden, um ein Beschlagen im Gehäuseinneren zu verhindern. Den Silicagelbeutel seitlich mit heruntergeklappten Flügeln einlegen.



Auf die korrekte Ausrichtung achten.

VORSICHT:

- Falls versucht wird, das Gehäuse bei nicht vollständig eingesetztem Silicagel-Beutel zu schließen, verfängt sich der Beutel an dem O-Ring. In diesem Fall kann Wasser in das Gehäuse eindringen.
- Ein bereits benutzter Silicagel-Beutel hat eingeschränkte Absorptionswirkung. Daher sollte vor jedem Schließen ein neuer Silicagel-Beutel eingesetzt werden.

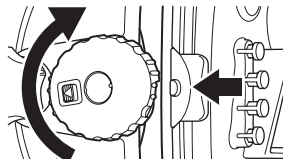
Überprüfen auf einwandfreies Einsetzen

Beachten Sie alle Punkte der folgenden Checkliste, bevor Sie das Gehäuse schließen.

- Wurde die Okularmuschel korrekt entfernt?
- Verläuft die Wartung des O-Rings problemlos?
- Ist die Digitalkamera so installiert, dass der Zoomregler einwandfrei arbeitet?
- Ist der Silicagel-Beutel vollständig an der vorgeschriebenen Position eingesetzt?
- Sind die O-Ringe und die O-Ring-Kontaktflächen frei von Verschmutzungen und/oder Fremdkörpern?
- Sind die O-Ringe einwandfrei angebracht?
- Bei Verwendung eines elektronischen Zusatzblitzgeräts mit einem TTL-Kabel sicherstellen, dass das Blitzschuhkabel am Blitzschuh der Kamera einwandfrei angebracht ist und für die automatische Blitzausklappfunktion die Einstellung „OFF“ gewählt wurde.
- Wird ein Verwendung des elektronischen Unterwasserblitzes UFL-2 mit dem Unterwasser-Glasfaserkabel, oder wird ein Unterwasser-Blitzgerät eines Drittherstellers verwendet, das im „Slave“-Modus arbeitet, überprüfen Sie, ob die Kamera eingebaute Blitzgerät ist heraus.

Schließen des Gehäuses

- ① Den hinteren Gehäusedeckel vorsichtig schließen (damit sich die O-Ringe nicht in ihren Nuten verschieben oder verdrehen).
 - ② Drehen Sie den Wählknopf zum Öffnen/Schließen im Uhrzeigersinn.
- Das Gehäuse ist verschlossen, wenn sich der Schieberiegel an der obersten Position befindet.



⚠ VORSICHT:

Wenn der Wählknopf zum Öffnen/Schließen nicht ganz bis zum Anschlag gedreht wird, wird das Gehäuse nicht luftdicht verschlossen und es kann Wasser eindringen.

Überprüfen Sie die eingesetzte Kamera auf einwandfreie Funktionsweise

Vergewissern Sie sich nach dem vollständigen Verschließen des Unterwassergehäuses, dass alle Funktionen der eingesetzten Kamera einwandfrei arbeiten.

- Betätigen Sie den Hauptschalterhebel am Gehäuse und vergewissern Sie sich, dass die Kamera hierdurch ein- und ausgeschaltet (ON/OFF) werden kann.
- Drehen Sie den Programmwählknopf am Gehäuse und vergewissern Sie sich, dass der Kameramodus entsprechend umgeschaltet wird.
- Drücken Sie den Auslöserhebel des Gehäuses und vergewissern Sie sich, dass hierdurch der Kameraauslöser betätigt wird.
- Betätigen Sie den Zoomregler am Gehäuse und vergewissern Sie sich, dass das Sucherokular hierbei gesteuert wird.
- Betätigen Sie die weiteren Bedienelemente des Gehäuses und vergewissern Sie sich, dass die zugehörigen Kamerafunktionen einwandfrei ausgeführt werden.

Abschließende Überprüfung des Gehäuses

Visuelle Inspektion

Nach dem Schließen des Gehäuses die Dichtungsbereiche am vorderen und hinteren Gehäusedeckel sowie am Objektiv-Port visuell überprüfen, um sicherzustellen, dass die O-Ringe nicht verdreht sind und einwandfrei in den Nuten sitzen und dass keine Fremdkörper eingeschlossen wurden.

⚠ VORSICHT:

Haare, Fasern und sonstige leicht zu übersehende kleine Objekte können das Eindringen von Wasser verursachen. Bei der Überprüfung daher sorgfältig vorgehen.

Wasserdichtigkeitstest

Der letzte Test nach dem Einsetzen der Kamera wird nachstehend erläutert. Diesen Test immer durchführen. Er lässt sich leicht in einem mit Wasser gefüllten Behälter, wie einer Badewanne etc., durchführen. Das dauert rund 5 Minuten.

Einfacher Wasserdichtigkeitstest	Abbildung	Hinweise
① Das Gehäuse langsam in das Wasser tauchen.		Eventuell in die Hinterer Gehäusedeckel das Gehäuse eindringendes Wasser kann sofort festgestellt werden.
② Zuerst das Gehäuse für nur 3 Sekunden eintauchen.		Falls der O-Ring nicht einwandfrei dicht ist, kann Wasser innerhalb von 3 Sekunden eindringen. Entweichen Luftblasen an den Dichtungsstellen?
③ Vergewissern Sie sich, dass kein Wasser eingedrungen ist.		Das Gehäuse aus dem Wasser nehmen und prüfen, ob sich Wasser im Gehäuse befindet.
④ Das Gehäuse nun für 30 Sekunden eintauchen.		Dabei prüfen, ob Luftblasen entweichen. Noch nichts bedienen, lediglich beobachten.
⑤ Vergewissern Sie sich, dass kein Wasser eingedrungen ist.		Das Gehäuse aus dem Wasser nehmen und prüfen, ob sich Wasser am Gehäuseboden befindet.
⑥ Das Gehäuse nun für 3 Minuten eintauchen.		Dabei prüfen, ob Luftblasen entweichen. Die häufig verwendeten Bedienelemente betätigen. Dabei prüfen, ob Luftblasen entweichen.
⑦ Abschließende Überprüfung: Ist das Silicagel trocken?		Ist das Silicagel trocken? Bitte sorgfältig prüfen!
⑧ Wenn kein Wasser eindringt, ist der Test abgeschlossen.		Das Gehäuse ist einsatzbereit.

5. Behandlung nach dem Gebrauch

Entfernen von Wassertropfen

Nach Beenden des Tauchgangs muss das Gehäuse sorgfältig getrocknet werden. Verwenden Sie Druckluft oder ein weiches, fusselfreies Tuch und entfernen Sie Nässe und Feuchtigkeit vom Scharnier zwischen den Gehäusedeckeln, vom Auslösehebel und Handgriff sowie vom Wählknopf zum Öffnen/Schließen.



VORSICHT:

Verbleibende Wasserreste zwischen den Gehäusedeckeln oder zwischen Objektiv-Port und Gehäuse können beim Öffnen des Gehäuses bzw. Abnehmen des Ports in das Innere eindringen. Diese Bereiche besonders sorgfältig trocknen.

Entnehmen der Digitalkamera

Der Wählknopf zum Öffnen/Schließen entriegeln und dann vorsichtig den hinteren Gehäusedeckel öffnen. Falls das Blitzschuhkabel an der Kamera befestigt ist, muss dieses zuerst abgetrennt werden. Dann Zoomregler- und Programmwahlknopfgreifer des Unterwassergehäuses abtrennen, damit diese das Entnehmen der Kamera nicht behindern können. Hierauf die Kamera entnehmen.



VORSICHT:

- Beim Öffnen des Gehäuses oder Abnehmen des Objektiv-Ports unbedingt vermeiden, dass Wasser von außen (aus dem Haar oder vom Taucheranzug tropfendes Wasser etc.) in das Innere und/oder auf die Kamera gelangt!
- Vor dem Öffnen des Gehäuses oder Abnehmen des Objektiv-Ports unbedingt sicherstellen, dass Ihre Hände oder Handschuhe vollkommen sauber (frei von Sand, Fasern etc.) und trocken sind.
- Niemals an Orten, an denen Spritzwasser, Gischt, Flugsand, Staub etc. auftreten können, das Gehäuse öffnen oder den Objektiv-Port abnehmen. Falls ein Öffnen (zum Batterie- oder Speicherkartenwechsel etc.) oder das Abnehmen des Ports unbedingt erforderlich ist, die Einwirkung von Wind und Gischt mit einem geeigneten Objekt (Kunststoffplane etc.) abblocken.
- Die Digitalkamera und/oder die Batterie niemals mit (insbesondere von Salzwasser) feuchten Händen berühren.

Reinigen des Gehäuses mit klarem Wasser

Nach dem Gebrauch und der Entnahme der Digitalkamera sollte das Gehäuse wieder geschlossen und möglichst schnell mit klarem Leitungswasser abgespült werden.

Nach der Verwendung in Meerwasser ist es notwendig, das Gehäuse für bestimmte Zeit (30 Minuten bis 1 Stunde) in sauberes Süßwasser einzutauchen, um jede Salzspur zu entfernen.



VORSICHT:

- Bei der örtlichen Einwirkung hohen Wasserdrucks (Wasserschlauch etc.) kann das Gehäuse lecken. Vor der Gehäusereinigung mit Wasser sollte die Digitalkamera entnommen werden.
- Bei in klarem Leitungswasser getauchtem Gehäuse den Auslösehebel und andere Bedienungselemente betätigen, um Salzreste zu entfernen. Das Gehäuse zum Reinigen nicht zerlegen!
- Wenn Salz auf dem Gehäuse eingetrocknet ist, können Funktionsbeeinträchtigungen auftreten. Nach dem Gebrauch unbedingt Salzwasser und Salzreste entfernen.



Abtrocknen des Gehäuses

Verwenden Sie nach dem Abwaschen des Gehäuses zum Abtrocknen ein sauberes weiches und fusselfreies Tuch. Legen Sie das Gehäuse hierauf zum vollständigen Trocknen an einen gut belüfteten und gegen direkte Sonneneinstrahlung geschützten Ort.



VORSICHT:

Zum Trocknen niemals einen elektrischen Föhn oder sonstige Heißluft verwenden und das Gehäuse niemals direkter Sonneneinstrahlung aussetzen. Andernfalls kann es zu Materialbeeinträchtigungen von Gehäuse und O-Ring kommen, so dass die Wasserdichtigkeit nicht mehr gewährleistet werden kann.

Beim Abwischen darauf achten, das Gehäuse nicht zu zerkratzen.

6. Wartung der Wasserdichtigkeit

O-Ringe unterliegen Verschleißerscheinungen. Bitte prüfen Sie die Kamera vor jeder Verwendung. Führen Sie die Wartung des O-Rings unbedingt stets wie unten beschrieben aus. Andernfalls besteht die Gefahr, dass das Gehäuse bei der nächsten Verwendung nicht mehr wasserdicht ist. Führen Sie die Wartung an einem Ort ohne Sand oder Staub durch, nachdem Sie Ihre Hände gewaschen und abgetrocknet haben.

Entfernen Sie den O-Ring

Öffnen Sie das Unterwassergehäuse und entfernen Sie den O-Ring.

Vorgehensweise

- ① Führen Sie den O-Ring-Entferner zwischen O-Ring und O-Ring-Nutkante ein.
- ② Positionieren Sie die Spitze des eingesetzten O-Ring-Entfernens unter dem O-Ring. (Gehen Sie hierbei vorsichtig vor, um hierbei nicht die O-Ring-Nut zu beschädigen!)
- ③ Heben Sie den O-Ring an und greifen Sie diesen mit Ihren Fingerspitzen, um ihn aus der Nut zu entnehmen.

Reinigen des O-Rings

Die Reinigung des O-Rings sollte in zwei Schritten erfolgen: Nehmen Sie zunächst eine visuelle Überprüfung des O-Rings vor, während der Sie anhaftende Fremdkörper entfernen und den Ring auf sichtbare Schäden untersuchen. In einem zweiten Schritt tasten Sie den gesamten Ring vorsichtig mit den Fingerspitzen auf noch anhaftende Fremdkörper, Risse, Verhärtungen oder sonstige Schäden ab. Am O-Ring anhaftende Fremdkörper entfernen Sie mit einem sauberen fusselfreien Tuch oder einem Wattestäbchen. Reinigen Sie auch alle O-Ring-Kontaktflächen des Gehäuses sorgfältig.

VORSICHT:

- Falls ein scharfer Gegenstand zur Entfernung des O-Rings oder zur Reinigung der Innenseite der Ringnut verwendet wird, können das Gehäuse und der O-Ring beschädigt werden und die Wasserdichtigkeit beeinträchtigt werden.
- Beim Abtasten des O-Rings darauf achten, diesen nicht zu dehnen.
- Zum Reinigen des O-Rings niemals Alkohol, Benzin oder ähnliche Lösungsmittel bzw. chemische Reinigungsmittel verwenden. Andernfalls kann er beschädigt werden oder schneller verschleifen.

Anbringen des O-Rings

Vergewissern Sie sich, dass keinerlei Fremdkörper am O-Ring anhaften und fetten Sie ihn leicht mit dem mitgelieferten Siliconfett ein. Legen Sie den O-Ring hierauf in die Ringnut ein und vergewissern Sie sich dabei, dass er einwandfrei sitzt.

Bereits ein einzelnes Haar oder Sandkorn kann bewirken, dass die Wasserdichtigkeit nicht mehr gewährleistet ist.

Einfetten des O-Rings

① Entnehmen Sie nur Olympus die geeignete Menge Siliconfett.		Vergewissern Sie sich, dass Ihre Finger und der O-Ring einwandfrei sauber sind. Drücken Sie ca. 5 mm Siliconfett aus der Tube vorsichtig auf Ihre Fingerkuppe. (5 mm Siliconfett wird empfohlen.)
② Tragen Sie das Siliconfett auf den O-Ring auf.		Halten Sie den O-Ring zwischen Daumen und zwei Fingern und reiben Sie hierbei das Fett entlang des O-Rings vorsichtig ein. Achten Sie darauf, dass der O-Ring hierbei nicht übermäßig gedehnt oder verdreht wird.
③ Überprüfen Sie den O-Ring auf einwandfreien Zustand.		Vergewissern Sie sich durch Abtasten und eine visuelle Überprüfung, dass der eingefettete O-Ring nicht beschädigt ist. Falls irgendeine Beeinträchtigung festgestellt wird, muss der O-Ring sofort gegen einen neuen ausgetauscht werden.
④ Tragen Sie das Siliconfett auf die O-Ring-Kontaktfläche auf.		Verwenden Sie die auf Ihren Fingerkuppen verbliebenen Fettreste, um die Kontaktfläche am vorderen Gehäusedeckel zu säubern und einzufetten.

⚠ VORSICHT:

- Führen Sie stets eine Wartung zum Erhalt der Wasserdichtigkeit durch, selbst wenn das Gehäuse bei jeder Aufnahme geöffnet wurde. Andernfalls besteht die Gefahr, dass das Gehäuse bei der nächsten Verwendung nicht mehr wasserdicht ist.
- Wird das Gehäuse für längere Zeit nicht verwendet, muss der O-Ring aus der Ringnut entnommen werden, um Verformungen zu vermeiden. Den O-Ring leicht mit Siliconfett einfetten und in einer sauberen Plastiktüte o. ä. aufbewahren.

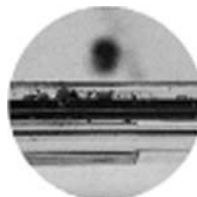
Beispiele für am O-Ring angelagerte Fremdkörper



Haar



Fasern



Sandkörner

Austausch von Verschleißteilen

- O-Ringe unterliegen Verschleißerscheinungen. Unabhängig von der Gebrauchshäufigkeit des Gehäuses sollte der O-Ring mindestens einmal im Jahr gegen einen neuen ausgetauscht werden.
- Der Verschleiß des O-Rings schwankt in Abhängigkeit von den Einsatz- und Lagerungsbedingungen. Falls Verformungen, Risse oder Verhärtungen etc. festgestellt werden, muss der O-Ring umgehend ausgetauscht werden.

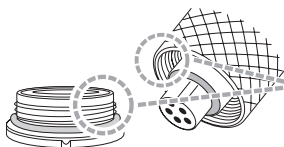
VORSICHT:

- Achten Sie beim Kauf neuer O-Ringe, Silicagel und Siliconfett auf original Olympus Produkte.
- Versuchen Sie nicht, den O-Ring selbst zu ersetzen.
- Wir empfehlen Ihnen, die Überprüfung regelmäßig durchzuführen.

Wartung der Gewinde des TTL-Kabels und des TTL-Kabelanschlusses

Falls die Gewinde zur Verbindung des TTL-Kabels mit dem TTL-Kabelanschluss nicht einwandfrei gewartet werden, können sich Salz oder sonstige im Meerwasser befindliche Partikel am TTL-Kabel anlagern und ein Abtrennen des Kabels behindern.

Nach dem Gebrauch in Meerwasser müssen Salz, Sand und sonstige Partikel umgehend entfernt werden. Nach der Reinigung alle Teile sorgfältig trocken reiben. Säubern Sie die Gewindebereiche sorgfältig mit einem Wattestäbchen und tragen Sie eine dünne gleichmäßige Schicht Slikonfett (zu diesem Gehäuse mitgeliefert) auf.

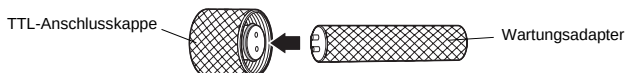


Reinigen Sie diese Bereiche und tragen Sie hier Slikonfett auf.

Wartung der TTL-Anschlusskappe

Nach dem Abtrennen der TTL-Anschlusskappe von der Unterwassergehäuse muss der O-Ring gesäubert und eingefettet werden.

Verwenden Sie den Wartungsadapter, um das O-Ring-Modul von TTL-Anschlusskappe zu entfernen.



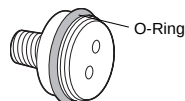
- ① Setzen Sie den Adapter ein, wobei die Stifte auf die Vertiefungen in der Kappe ausgerichtet sein müssen.



- ② Drehen Sie den Adapter gegen den Uhrzeigersinn, um das O-Ring-Modul zu entfernen.



- ③ Entnehmen Sie den O-Ring aus dem O-Ring-Modul. Reinigen Sie die O-Ring-Nut und reiben Sie den O-Ring mit Siliconfett ein. Bringen Sie hierauf den O-Ring im O-Ring-Modul an.



- * Gehen Sie in umgekehrter Reihenfolge/Richtung vor, um das O-Ring-Modul wieder an der TTL-Anschlusskappe anzubringen.

7. Anhang

Technische Daten

Geeignetes Kameramodell	Olympus Digitalkamera E-620
Druckfestigkeit	Bis zu 40 m Wassertiefe
Konstruktion	Gehäuse: Polycarbonat. Wählknopf zum Öffnen/Schließen/Hauptschalterknopf/Programmwählknopf/ Steuerknopf/Zoomregler/Kameraschlitten: Polycarbonat Port-Schraubfassung/Sucherrahmen/Anschluss für optionale Halterung/ Zoomreglergetriebe/TTL-Anschlusskappe: Aluminium Achsen der Bedienungselemente/Handgelenkschlaufe: Edelstahl Gehäusekappe: ABS-Kunststoff. O-Ringe/Innerer LCD-Monitorrahmen: Silicongummi. LCD-Monitor-Blendschutzhaube: NBR-Gummi.
Abmessungen	Breite 208,0 mm x Höhe 169,0 mm x Tiefe 144,0 mm
Gewicht	1.340 g (ohne Kamera und Zubehör)

* Änderungen der Konstruktion und der technischen Daten jederzeit ohne Vorankündigung vorbehalten.

Mitgeliefertes Zubehör für PT-E06

O-Ring (für Rückwand): POL-E06A

O-ring (für Vorderwand): POL-E06B

Silikonfett: PSOLG-2

Silicagel SILCA-5S

LCD-Monitor-Blendschutzhaube: PFUD-E06

Kamera-Stativ PTMO-E05

Handgelenkschlaufe: PST-E02

Gehäusekappe: PBC-E02

TTL-Anschlusskappe PTAC-E04

Objektiv-Port

Unterwasser-Port	Zulässige Tauchtiefe	Geeignetes Objektiv	Hinweis
PPO-E01	60 m	14-45 mm	Wird zusammen mit Unterwasser-Zoomgetriebe PPZR-E01 für 14-45 mm Objektiv geliefert.
		35 mm Makro	Das mitgelieferte Zoomgetriebe PPZR-E01 kann nicht verwendet werden. Das optional erhältliche Unterwasser-Fokussiergetriebe PPZR-E04 verwenden, um den Ring um 360° zu drehen. Der Vergrößerungsfaktor unmittelbar vor dem Objektiv beträgt 0,6X.
PPO-E02	60 m	14-54 mm 14-54 mm II	Wird zusammen mit Unterwasser- Zoomgetriebe PPZR-E02 für 14-54 mm, 14-54 mm II oder 11-22 mm Objektiv geliefert.
		11-22 mm	
PPO-E03	60 m	50 mm Makro	Manuelle Fokussierung ist mit dem mitgelieferten Fokussiergetriebe PPZR-E01 möglich, der Schärferring kann jedoch nur um 180° gedreht werden. Das optional erhältliche Unterwasser-Fokussiergetriebe PPZR-E04 verwenden, um den Ring um 360° zu drehen.
PER-E01	60 m	EC-14	Soll EC-14 verwendet werden, muss dieser zwischen Unterwasser-Objektiv-Port und Unterwassergehäuse PT-E montiert werden. Die Zoomfunktion und der manuelle Fokus sind bei Verwendung von EC-14 nicht möglich.
PPO-E04 +PER-E02	60 m	7-14 mm	Unterwasser-Zoomgetrieb PPZR-E03 für 7-14 mm Objektiv wird zusammen mit PER-E02 geliefert.
PPO-E04	60 m	8 mm Fischauge	Das optional erhältliche Unterwasser-Fokussiergetriebe PPZR-E05 verwenden, um den Ring um 360° zu drehen.
		9-18 mm Fischauge	Der Zoom kann mit dem optionalen zugehörigen PPZR-E07 betrieben werden.
PPO-E05	40 m	14-42 mm	Wird zusammen mit Unterwasser-Zoomgetriebe PPZR-E06 für 14-42 mm Objektiv geliefert.

Wird Objektiv-Port in Verbindung mit einem Unterwassergehäuse der PT-E06 verwendet, ist die maximal zulässige Tauchtiefe auf 40 Meter begrenzt, selbst wenn das Unterwassergehäuse der PT-E06 für eine Tauchtiefe bis zu 60 Metern ausgelegt ist.

Optionales Zubehör

Silikonfett: PSOLG-3

Unterwasser-Glasfaserkabel: PTCE-E02

TTL-Kabel PTCE-E01

Blitzschuhkabel: PHCB-01

Schiene: PTBK-E01, PTBK-E02

* Werden die PTBK-E01 und das Gehäuse kombiniert, sind beim Teil mit den Schrauben die zugehörigen Scheiben nötig.

Falls Sie eine PTBK-E01 ohne zugehörige Scheiben haben, wenden Sie sich bitte an ein Kundendienstzentrum.

Zubehör kann käuflich erworben werden. Produkte anderer Modelltypen als die oben beschriebenen können nicht verwendet werden.

De



<http://www.olympus.com/>

OLYMPUS IMAGING CORP.

Shinjuku Monolith, 3-1 Nishi-Shinjuku 2-chome, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan

OLYMPUS IMAGING AMERICA INC.

3500 Corporate Parkway, P.O. Box 610, Center Valley, PA 18034-0610, USA. Tel. 484-896-5000

Technische Unterstützung (USA)

24h Automatische Online-Hilfe: <http://www.olympusamerica.com/support>

Telefonischer Informationsdienst: Tel. 1-888-553-4448 (gebührenfrei)

Unser telefonischer Kundendienst ist zwischen 08.00 und 22.00 Uhr erreichbar.

(Montags - Freitags) ET

E-Mail: distec@olympus.com

Olympus Software-Updates finden Sie unter: <http://www.olympusamerica.com/digital>

OLYMPUS IMAGING EUROPA GMBH

Geschäftsanschrift: Wendenstraße 14-18, 20097 Hamburg, Deutschland

Tel.: +49 40-23 77 3-0 / Fax: +49 40-23 07 61

Lieferanschrift: Bredowstraße 20, 22113 Hamburg, Deutschland

Postanschrift: Postfach 10 49 08, 20034 Hamburg, Deutschland

Technische Unterstützung für Kunden in Europa:

Bitte besuchen Sie unsere Internetseite <http://www.olympus-europa.com>

oder rufen Sie unsere GEBÜHRENFREIE HOTLINE AN*: **00800 - 67 10 83 00**

für Österreich, Belgien, Dänemark, Finnland, Frankreich, Deutschland, Italien, Luxemburg, Niederlande, Norwegen, Portugal, Spanien, Schweden, Schweiz und das Vereinigte Königreich.

* Bitte beachten Sie, dass einige (Mobil-)Telefondienstanbieter Ihnen den Zugang zu dieser Hotline nicht ermöglichen oder eine zusätzliche Vorwahlnummer für +800-Nummern verlangen.

Für alle anderen europäischen Länder, die nicht auf dieser Seite erwähnt sind oder wenn Sie die oben genannten Nummer nicht erreichen können, wählen Sie bitte die folgenden Nummern:

GEBÜHRENPFLICHTIGE HOTLINES: **+49 180 5 - 67 10 83 oder**

+49 40 - 237 73 4899

Unser telefonischer Kundendienst ist jeweils Montags - Freitags zwischen 09.00 und 18.00 Uhr MEZ (mitteleuropäischer Zeit) erreichbar.



MEMO



- Muchas gracias por la adquisición de la caja estanca PT-E06 (en adelante “caja”).
- Lea con detenimiento este manual de instrucciones y use el producto con seguridad y correctamente. Conserve este manual de instrucciones para referencia después de su lectura.
- El uso incorrecto puede ocasionar daños a la cámara en el interior debido a filtraciones de agua, y es posible que no se pueda efectuar su reparación.
- Antes del uso, lleve a cabo una verificación previa tal como se describe en este manual.

Introducción

- Queda prohibida toda copia total o parcial de este manual salvo para uso privado. Queda terminantemente prohibida toda reproducción no autorizada.
- OLYMPUS IMAGING CORP. no responderá en modo alguno a pérdidas de beneficios o reclamaciones de terceros cuando el origen de los daños sea un uso incorrecto de este producto.

Lea atentamente las siguientes indicaciones antes de utilizar el producto

- Esta caja es un dispositivo de precisión diseñado para su utilización a una profundidad de hasta 40 m. de agua. Manipule el producto con mucho cuidado.
- Para garantizar un uso correcto y seguro de la caja, lea las instrucciones sobre el manejo y ejecución del sistema de verificación, así como sobre su cuidado, mantenimiento y almacenamiento.
- La carcasa debe ser usada siempre en combinación con el puerto hermético que se dispone separadamente.
- OLYMPUS IMAGING CORP. no será responsable de ninguna manera de accidentes relacionados con la inmersión de una cámara digital en el agua. Además, no se reembolsarán los gastos relacionados con el deterioro de materiales internos o con la pérdida de los contenidos grabados que se deban a que haya entrado agua en la cámara.
- OLYMPUS IMAGING CORP. no pagará ningún tipo de indemnización por accidentes (heridas o daños materiales) ocurridos en el momento de la utilización.

Para un uso seguro

En este manual de instrucciones se emplean varias pictografías para el uso correcto del producto y para evitar peligros al usuario y a otras personas, así como daños a la propiedad. Estas pictografías y sus significados se indican a continuación.

 ADVERTENCIA	Esto indica un contenido que podría tener como resultado la muerte o una lesión de gravedad en el caso de efectuarse el manejo sin tener en cuenta esta indicación.
 PRECAUCIÓN	Esto indica un contenido que podría tener como resultado una lesión de gravedad o un daño material en el caso de efectuarse el manejo sin tener en cuenta esta indicación.

ADVERTENCIA

- ① Mantenga este producto fuera del alcance de bebés, infantes y niños. Existe la posibilidad de que tengan lugar los siguientes tipos de accidentes.
 - Lesiones por la caída del producto sobre el cuerpo desde cierta altura.
 - Lesiones por apretarse alguna parte del cuerpo en las secciones que se abren y cierran.
 - Ingestión de piezas pequeñas, junta tórica, grasa de silicona y silicagel. Consulte de inmediato a un médico en el caso de ingerirse alguna pieza.
- ② No la guarde con la pila alojada en la cámara digital en este producto.
El almacenamiento con una pila instalada puede dar lugar a una fuga del líquido de la pila y ocasionar fuego.
- ③ La carcasa debe ser usada siempre en combinación con el puerto hermético que se dispone separadamente. Recuerde que la carcasa no puede ser usada sin el puerto hermético.
- ④ Si tuviera lugar una filtración de agua con la cámara instalada en este producto, saque rápidamente la pila de la cámara. Hay posibilidad de inflamación y explosión por la generación de gas hidrogénico.
- ⑤ Este producto está hecho de resina. Hay posibilidad de que tengan lugar lesiones si se rompe a causa de un fuerte impacto contra una roca u otros objetos duros. Manipule el producto con mucho cuidado.

PRECAUCIÓN

- ① No desmonte ni modifique este producto. Podrían producirse filtraciones de agua o defectos. En el caso de pérdidas de datos de imágenes causadas por desmontajes, reparaciones o modificaciones realizados por un tercero ajeno a OLYMPUS IMAGING CORP., no nos haremos responsables por ningún tipo de daños.
- ② El uso o el almacenamiento del producto en los siguientes lugares puede provocar un funcionamiento deficiente, daños, fuego, empañamiento interno o filtraciones de agua. Deberá evitarlo.
 - Los lugares que alcanzan altas temperaturas, como aquellos expuestos directamente al sol, un automóvil, etc.
 - Lugares cercanos a una fuente de calor
 - Una profundidad de más de 40 m de agua.
 - Lugares sujetos a vibraciones
 - Lugares con altas temperaturas y humedad o sujetos a cambios extremos de temperatura.
 - Lugares con sustancias volátiles.
- ③ La apertura o cierre en lugares con mucha arena, polvo o suciedad puede afectar la característica de impermeabilidad y causar una filtración de agua. Siempre evite tal tipo de manipulación.
- ④ Este producto no es una caja para amortiguar los impactos a la cámara que está en su interior. Cuando este producto con una cámara digital en su interior se expone a impactos o se colocan objetos pesados sobre el mismo, la cámara digital puede resultar dañada. Manipule el producto con mucho cuidado.

- ⑤ No utilice los siguientes productos químicos para la limpieza, prevención de la corrosión, prevención de empañamiento, reparación ni para otros propósitos. Cuando tales productos se utilizan para la caja, directa o indirectamente (con las sustancias químicas en estado vaporizado), los mismos pueden ocasionar fisuras bajo alta presión u otros problemas.

Productos químicos que no se pueden usar	Explicación
Solventes orgánicos volátiles, detergentes químicos	No limpie la caja con alcohol, gasolina, diluyentes u otros solventes orgánicos volátiles, ni con detergentes químicos, etc. Agua pura o agua tibia es suficiente para la limpieza.
Agentes anticorrosivos	No utilice agentes anticorrosivos. En las partes metálicas se utiliza acero inoxidable o cobre amarillo, y es suficiente el lavado con agua pura.
Agentes desempañadores comerciales	No utilice agentes desempañadores comerciales. Use siempre la silicagel disecante especificada.
Grasa distinta de la grasa de silicona especificada	Utilice únicamente la grasa de silicona especificada para las juntas tóricas de silicona, ya que de lo contrario la superficie de la junta tórica podría deteriorarse y tener lugar una filtración de agua.
Adhesivos	No utilice adhesivos para reparaciones ni para otros propósitos. Cuando sea necesaria una reparación, póngase en contacto con el distribuidor o con un centro de servicio de OLYMPUS IMAGING CORP.

- ⑥ Una manipulación brusca, como saltar al agua con la caja en la mano o en un bolsillo exterior, o arrojarla al agua, podría provocar filtraciones de agua. Le recomendamos que tenga cuidado cuando la utilice.
- ⑦ Si la cámara se mojara en el interior de la caja debido, por ejemplo, a filtraciones de agua, seque inmediatamente la humedad y verifique que la cámara funciona correctamente.
- ⑧ Tenga cuidado de no aplicar una fuerza excesiva al conector del puerto, conector del cable TTL, perilla del zoom y asiento del trípode.
- ⑨ No presione la válvula de ventilación de aire desde el interior.
- ⑩ Retire la junta tórica cuando viaje por aire. De lo contrario puede que la diferencia de presión atmosférica imposibilite la apertura de la caja.
- ⑪ Para garantizar una manipulación y funcionamiento seguros y sin problemas de la cámara digital que alberga la caja, lea atentamente el manual de instrucciones de la cámara.
- ⑫ Cuando cierre herméticamente el producto, asegúrese de que en las superficies de contacto o en las juntas tóricas no se alojan partículas extrañas como arena, suciedad o cabellos.
- ⑬ Cuando la carcasa está combinada con un flash Olympus, el flash incorporado de la cámara no puede ser usado. También, el flash incorporado de la cámara no puede elevarse si el cable de la zapata de conexión está conectado a la zapata de conexión de la cámara. Si el flash incorporado es elevado a la fuerza, el flash no funcionará adecuadamente y el cable de la zapata de conexión puede desconectarse desde la zapata de conexión de la cámara. Además, también puede resultar en daños a la cámara digital.
- ⑭ El flash incorporado de la cámara no puede usarse cuando la cámara está colocada dentro de la carcasa.

CONTENIDO

Introducción.....	1
Lea atentamente las siguientes indicaciones antes de utilizar el producto.....	1
Para un uso seguro.....	1
1.Preparaciones.....	6
Verifique los contenidos del paquete	6
Nombres de las piezas	7
Coloque el puerto hermético	8
Coloque la correa de mano	8
Cómo fijar y retirar la mesa de la cámara	9
2.Verificación anticipada de la caja	10
Prueba anticipada antes del uso	10
Prueba previa.....	10
3.Cómo conectar el flash electrónico.....	11
Conexión del cable de fibra óptica submarino	11
4.Compruebe la cámara digital	14
Compruebe la cámara digital	14
Abra la carcasa	15
Fije la cámara digital a la mesa de la cámara.....	15
Inserte la cámara digital en la carcasa.....	16
Compruebe la condición de la colocación.....	17
Selle la carcasa.....	18
Compruebe la operación de la cámara colocada.....	18
Realice las verificaciones finales	18
Inspección visual.....	18
Prueba de filtración de agua	19
5.Manipulación después de la toma fotográfica.....	20
Limpie secando todo vestigio de agua.....	20
Extracción de la cámara digital	20
Lave la caja con agua limpia	20
Seque la caja	21
6.Manteniendo la función de hermeticidad al agua	22
Extraiga la junta tórica.....	22
Quite toda arena, suciedad, etc.	22
Coloque la junta tórica.	22
Cómo aplicar grasa a la junta tórica.....	23
Reemplace las piezas consumibles	24
Mantenimiento de las secciones de rosca sobre el cable TTL y el de cable TTL	24
Mantenimiento de la tapa del conector TTL	24



7.Apéndice 25

 Especificaciones 25

 Accesorios suministrados para el PT-E06 25

 Puerto hermético..... 26

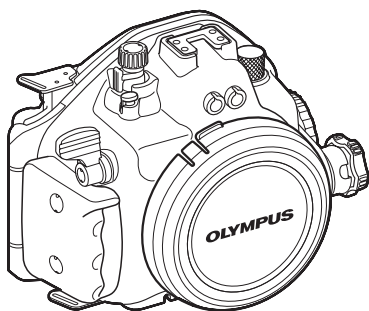
 Accesorios opcionales 26

1. Preparaciones

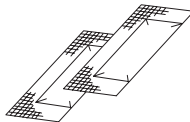
Verifique los contenidos del paquete

Verifique que todos los accesorios están en la caja.

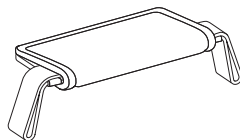
Si algún accesorio está faltando o dañado, comuníquese con su concesionario.



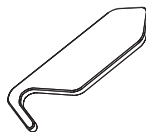
- Cuerpo de caja
(Compruebe que la junta tórica está instalada en la caja frontal y posterior)



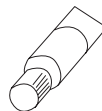
- Silicagel (2g)



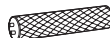
- Correa de mano



- Extractor de junta tórica



- Grasa de silicona



- Adaptador de mantenimiento

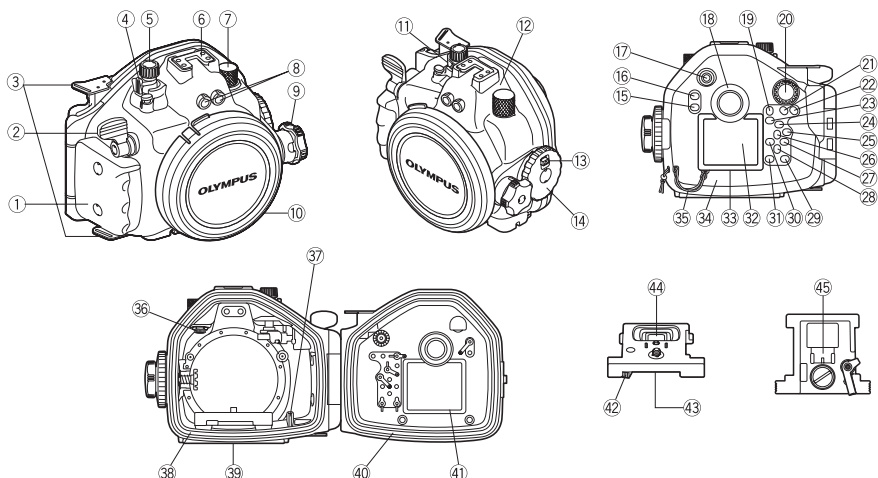
- Lista de distribuidores autorizados/Lista de centros de servicio autorizados
- Manual de instrucciones (este manual)

PRECAUCIÓN:

Después de adquirir el producto, asegúrese de realizar el mantenimiento aunque esté nuevo. La falta de mantenimiento podría causar filtraciones de agua.

Para más información sobre el mantenimiento de la caja, consulte la p. 22.

Nombres de las piezas



- ① Asidero de palma
- *② Palanca de disparador
- ③ Anillo de correa de mano
- *④ Botón (Corrección de exposición)
- *⑤ Perilla de rueda de modo
- ⑥ Montura de accesorio
- ⑦ Conector de cable TTL
- ⑧ Ranura de inserción del cable de fibra óptica, tapa
- *⑨ Perilla del zoom
- ⑩ Tapa de cuerpo
- *⑪ Palanca de interruptor de alimentación
- ⑫ Tapa delantera
- ⑬ Bloqueo de diapositivas
- ⑭ Palanca de apertura/cierre de hebilla
- *⑮ Botón **MENU**
- *⑯ Botón **INFO** (Visualización de información)
- ⑰ Válvula de ventilación de aire
- ⑱ Visor de captación
- *⑲ Botón **AEL/AFL**
- *⑳ Perilla de rueda de control
- *㉑ Botón Fn
- *㉒ Botón (objetivo AF)
- *㉓ Botón (Reproducción)
- *㉔ Botón (Reproducción)
- *㉕ Botón (Reproducción)
- *㉖ Botón de cursor en cruz ▲
- *㉗ Botón de cursor en cruz ►
- *㉘ Botón de cursor en cruz ▼
- *㉙ Botón IS
- *㉚ Botón de cursor en cruz ◀
- *㉛ Botón (borrado)
- ㉜ Ventanilla de parasol de LCD
- ㉝ Parasol de LCD
- ㉞ Tapa trasera
- ㉟ Correa de parasol de LCD
- ㊱ Conectores del cable de zapata de conexión (con tapas)
- ㊲ Colocando los carriles de carga
- ㊳ Junta tórica (POL-E06B)
- ㊴ Asiento de trípode
- ㊵ Junta tórica (POL-E06A)
- ㊶ Parasol interno de LCD
- ㊷ Bloqueo de mesa de la cámara
- ㊸ Mesa de cámara
- ㊹ Espacio de almacenamiento del ocular
- ㊺ Espacio de almacenamiento de la cubierta de la zapata de conexión

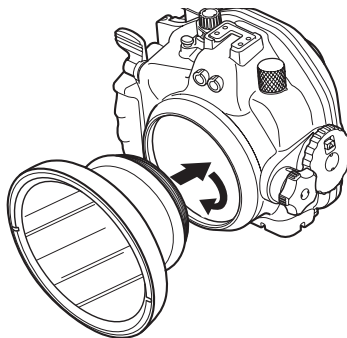
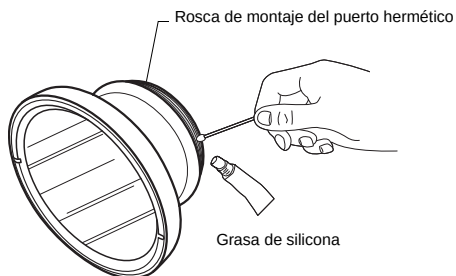
Nota:

Las partes de la caja marcadas con * corresponden a las funciones de la cámara digital. Cuando funcionan las piezas de operación de la caja, también funcionarán las funciones correspondientes de la cámara digital. Para más información sobre las funciones, consulte el manual de instrucciones de la cámara digital.

Coloque el puerto hermético

Para permitir el uso de la carcasa debajo del agua, se deberá colocar el puerto hermético sobre la carcasa para el objetivo de la cámara, alineando el puerto hermético con la posición en donde accionará saliendo el objetivo de la cámara, cuando la cámara se encuentra colocada dentro de la carcasa.

- Para el procedimiento de fijación de la lumbrera a la carcasa, lea cuidadosamente el manual de instrucciones provisto con el puerto hermético.
- Aplique la grasa proporcionada a la sección de la junta tórica del puerto hermético y a la rosca de montaje del puerto hermético de la carcasa.
- Enrosque el puerto hermético dentro de la carcasa girando el puerto hermético en toda su extensión hacia la derecha.

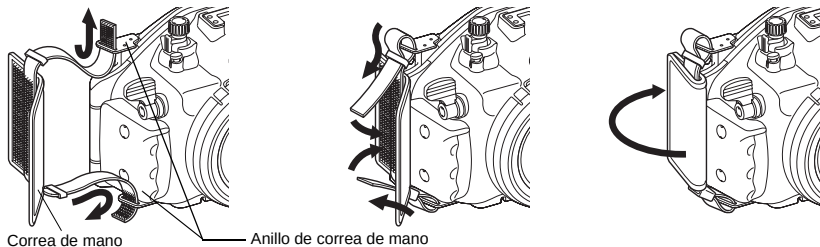


⚠ PRECAUCIÓN:

La carcasa debe usarse a una profundidad de no más de 40 metros debajo del agua. Aun cuando el puerto de objetivo hermético al agua fijado u otro equipo sea compatible con profundidades que soportan más de 40 metros, la profundidad en la que la carcasa puede usarse se limita a no más de 40 metros.

Coloque la correa de mano

Coloque la correa de mano en el cuerpo de la carcasa.

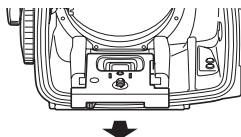
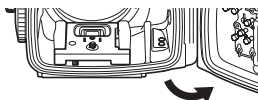


Cómo fijar y retirar la mesa de la cámara

La cámara digital está colocada en la carcasa mediante el uso de la mesa de la cámara dentro de la tapa delantera de la carcasa.

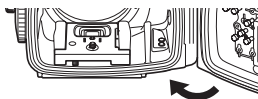
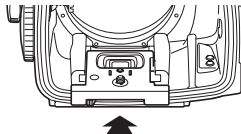
Cómo quitar la mesa de la cámara

- ① Deslice y mantenga el bloqueo de diapositivas de la carcasa, abra la palanca de apertura/cierre de hebilla y, a continuación, abra la tapa trasera.
- ② Deslice el bloqueo de la mesa de la cámara hacia la izquierda para desbloquearla. Deslice la cámara hacia la parte trasera.



Cómo fijar la mesa de la cámara

- ① Deslice la mesa de la cámara en toda su extensión dentro de las ranuras de colocación de la mesa de la cámara sobre el lado de la tapa delantera de la carcasa. Deslice el bloqueo de la mesa de la cámara hacia la derecha para bloquearla.
- ② Cierre suavemente la tapa trasera de la carcasa y cierre la palanca de apertura/cierre de hebilla firmemente.



PRECAUCIÓN:

Si la tapa trasera de la carcasa está cerrada, mientras la mesa de la cámara no está insertada en toda su extensión hasta detenerse dentro de las ranuras de carga de la mesa de la cámara en el lado delantero de la carcasa, la carcasa y la cámara digital pueden ser dañadas.

2. Verificación anticipada de la caja

Prueba anticipada antes del uso

Esta caja ha sido sujeta a un control de calidad estricto de las partes durante el proceso de fabricación, e inspecciones de funcionamiento completas durante el armado. Además, se realiza una prueba de presión de agua con un comprobador de presión de agua para todos los productos para confirmar que el rendimiento conforma a las especificaciones.

Sin embargo, dependiendo en las condiciones del transporte y almacenamiento, la condición de mantenimiento, etc. la función de hermeticidad al agua puede ser alterada.

Antes de utilizar el producto, realice siempre las siguientes comprobaciones avanzadas.

Comprobando las partes herméticas de la carcasa

Compruebe las partes herméticas de la carcasa tal como se describe a continuación.

- ① Asegure que las juntas tóricas de la carcasa están fijadas firmemente y aseguradas con el bloqueo de diapositivas y la palanca de apertura/cierre de hebilla.
- ② Asegure que el puerto hermético disponible separadamente se encuentra instalada correctamente sobre la carcasa, y que el puerto hermético se encuentra fijado firmemente en la junta tórica entre el puerto hermético y la carcasa.
- ③ Asegúrese de que la junta tórica del conector TTL se encuentra firmemente fijado y que la tapa está enroscada dentro del conector sin quedar floja.

Prueba previa

- ① Antes de cargar la cámara digital en la carcasa, sumerja la caja vacía para comprobar que no hay filtraciones de agua. Si surgen problemas, puede comprobar la filtración de agua consultando “Prueba de filtración de agua” (p. 19).
- ② Las principales causas de filtraciones de agua son las siguientes.
 - Olvidando de colocar la junta tórica
 - Parte de una junta tórica o una junta tórica entera se encuentra fuera de la ranura especificada.
 - Daños de una junta tórica, rajaduras, deterioro o deformación
 - Arena, fibras, cabellos u otras materias extrañas fijadas a una junta tórica, una ranura de junta tórica o una superficie de contacto de una junta tórica.
 - Daños a una ranura de junta tórica o superficie de contacto de junta tórica.
 - Presión sobre la correa adjunta o el gel de sílice al cerrar la caja.

Realice la prueba cuando no exista ninguna de las causas anteriores.



PRECAUCIÓN:

Si la prueba anticipada muestra filtraciones de agua en la manipulación normal, pare de usar la caja y comuníquese con su concesionario o un centro de servicio Olympus.

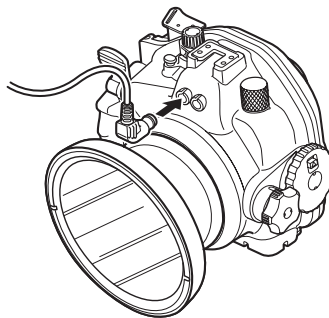
3. Cómo conectar el flash electrónico

Conexión del cable de fibra óptica submarino

Para conectar el flash submarino UFL-2 (opcional) a la carcasa mediante el cable de fibra óptica submarino (opcional), siga el siguiente procedimiento.

Cómo conectar el cable de fibra óptica submarino

- ① Extraiga la tapa de la ranura de inserción del cable de fibra óptica.



- ② Introduzca la toma del cable de fibra óptica submarino hasta el fondo de la ranura de inserción del cable de fibra óptica.

Configuración de la cámara digital

- ① Ajuste el modo RC de la cámara a ON para activar el flash incorporado de la cámara.
- ② Cargue la cámara en la carcasa con el flash incorporado de la cámara elevado.

Consulte el manual de instrucciones del UFL-2 para conocer el funcionamiento del UFL-2.

PRECAUCIÓN:

Cuando se utiliza un flash de tipo esclavo con cable de fibra óptica submarino de un fabricante que no sea Olympus, ajuste el flash integrado de la cámara en manual.

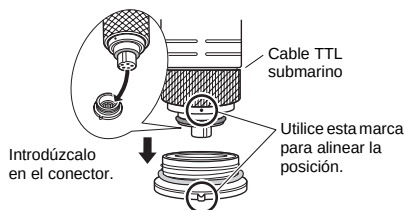
Si la ratio del flas integrado de la cámara es mayor a 1/64, la luz del flash integrado podría reflejarse en el puerto del objetivo y aparecen en la fotografía.

Uso del cable TTL

Cuando conecte el flash electrónico opcional con el cable TTL submarino (opcional: PTCB-E01), conecte el cable de la zapata de conexión (opcional: PHCB-01) a la cámara y a la cubierta frontal de la carcasa.

Conexión del cable TTL submarino

- ① Gire la tapa del conector TTL de la carcasa hacia la izquierda y extraígalas.
- ② Conecte el cable TTL submarino (opcional: PTCB-E01) al conector TTL de la carcasa.



- ③ Cuando no utilice el cable TTL submarino, fije la tapa del conector TTL.

Asegúrese de que no hay materias extrañas fijadas a la junta tórica dentro de la tapa ni en el conector del cable TTL. A continuación, gire suavemente la tapa hacia la derecha hasta que se pare.

Gire la sección roscada del conector ligeramente hacia la derecha hasta que se pare.



Compruebe las juntas tóricas



Tapa



Conector

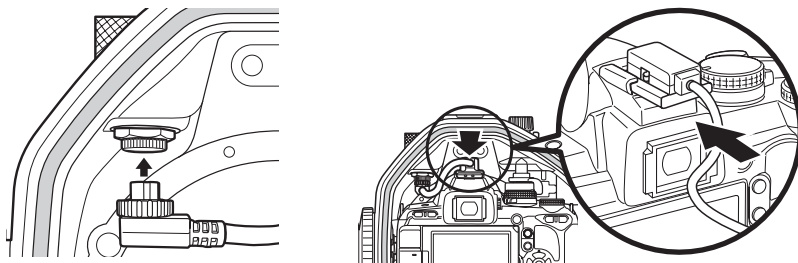


PRECAUCIÓN:

La tapa del conector TTL está suelta, lo que podría provocar filtraciones de agua.

Como conectar el cable de la zapata de conexión

- ① Gire la tapa del conector de la zapata de conexión de dentro de la caja en sentido antihorario para retirar la tapa.
- ② Introduzca el conector del cable de la zapata de conexión en el conector de la carcasa y, a continuación, gire los tornillos del conector lo más a la derecha posible para conectarlos firmemente.
- ③ Cargue la cámara en la caja y, a continuación, conecte el cable de la zapata de conexión a la cámara.



Configuración de la cámara digital

- ① Configure el ajuste de elevación automática de la cámara en OFF. El flash integrado de la cámara está diseñado para elevarse automáticamente cuando se realizan disparos con poca luz o a contraluz en todos los modos de escena excepto AUTO o en modos submarinos. Para más información sobre la configuración de las funciones de la cámara, consulte el manual de instrucciones de la misma.
- ② Ajuste el flash electrónico en ON antes de encender la cámara.
Cuando utilice el flash electrónico, asegúrese de encenderlo antes de encender la cámara. Si el ajuste de elevación automática de la cámara está activado y la cámara esta ajustada a un modo de escena que no sea AUTO o a un modo submarino, el hecho de encender la cámara antes de encender el flash electrónico puede hacer que el flash integrado de la cámara se eleve automáticamente. Asegúrese siempre de encender el flash electrónico antes de encender la cámara.

PRECAUCIÓN:

- Si el flash integrado de la cámara se eleva mientras el cable de la zapata de conexión está conectado a la cámara, interferirá con el cable de la zapata de conexión, desconectándolo o provocando un fallo de conexión.
- Cuando utilice un flash submarino de tipo esclavo de un fabricante que no sea Olympus, eleve el flash integrado de la cámara antes de cargarla en la caja.
- Una vez sellada la carcasa, el flash integrado no podrá elevarse ni guardarse.

4. Compruebe la cámara digital

Compruebe la cámara digital

Compruebe la cámara digital antes de colocarla en la carcasa.

1. Confirmación de pila

La duración de pila puede acortarse en la toma fotográfica debajo del agua, debido a que la imagen debe ser verificada en el monitor LCD antes de la toma fotográfica así como también después de la toma fotográfica. Confirme que la capacidad de pila restante sea la suficiente antes de usarse.

2. Confirmando el número restante de fotografías a ser tomadas

Confirme que el medio de almacenamiento de imágenes tenga una capacidad restante suficiente para almacenar las fotografías tomadas.

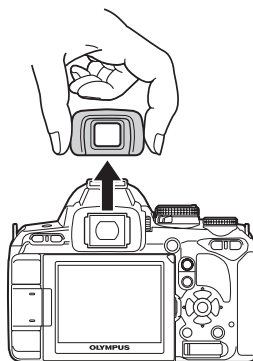
3. Retire la correa y la tapa de objetivo de la cámara digital.

Si la cámara digital está colocada sin retirar la correa y la tapa de objetivo, la carcasa no puede ser sellada y puede resultar en filtraciones de agua.

4. Retire el ocular desde la cámara digital.

Para mejorar la visión del visor de captación, retire el ocular de la cámara digital antes de la colocación en la carcasa.

El ocular extraído de la cámara puede almacenarse en la mesa de la cámara.



PRECAUCIÓN:

Si se carga la cámara digital en la carcasa sin extraer el ocular y se cierra la tapa trasera de la carcasa, el visor de captación se saldrá.

Extraiga el ocular y, a continuación, presione el visor de captación hacia adentro.

5. Retirando el filtro desde la cámara digital

La cámara digital no puede ser colocada dentro de la carcasa mientras un filtro se encuentra fijado al objetivo.

Sp

Abra la carcasa

- ① Deslice y mantenga el bloqueo de diapositivas hacia la dirección de la flecha (①) y gire el contador de la palanca de apertura/cierre de hebilla en el sentido de las agujas del reloj (②).
- ② Gire la palanca de apertura/cierre de hebilla hasta que no se pueda girar más
- ③ Abra con cuidado la tapa trasera de la caja.



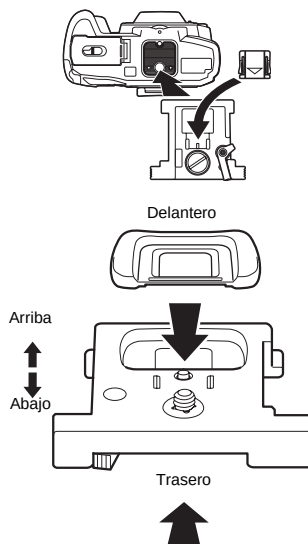
⚠ PRECAUCIÓN:

No gire la palanca de apertura/cierre de hebilla ejerciendo demasiada fuerza. De lo contrario podría dañar la palanca.

Fije la cámara digital a la mesa de la cámara

Para que la cámara digital pueda ser colocada dentro de la carcasa, fije la mesa de la cámara, montada dentro del lado de la tapa delantera de la carcasa, a la cámara digital.

- ① El ocular y la cubierta de la zapata de conexión de la cámara digital pueden almacenar en la mesa de la cámara.
- ② Fije la mesa de la cámara sobre la sección de asiento del trípode en la parte inferior de la cámara digital. Para la fijación, utilice el orificio de rosca del trípode de la cámara.
- ③ La mesa de la cámara tiene las orientaciones fijas de arriba-abajo y delantero-trasero. Fíjela sin equivocarse haciendo referencia a las ilustraciones de la derecha.

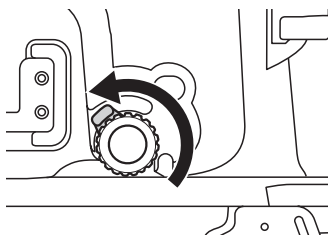


Inserte la cámara digital en la carcasa

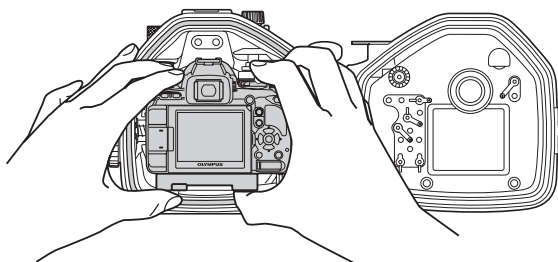
- ① Tire hacia afuera de la perilla del zoom y perilla de modo de la carcasa (tirando hacia afuera la perilla de modo también extrae hacia fuera la palanca del interruptor de alimentación), de manera que no se salgan durante la colocación de la cámara digital.



En este momento, ajuste la orientación de la palanca de interruptor de alimentación tal como se muestra a continuación.



- ② Después de fijar la mesa de la cámara a la cámara digital, deslice la mesa de la cámara dentro de la ranura de carga de mesa de la cámara de la carcasa. No coloque la mesa de la cámara forzándola, colóquela suavemente mientras comprueba que la cámara digital no interfiera con las partes internas de la carcasa.



- ③ Empuje suavemente hacia abajo la perilla de modo y zoom de la carcasa que ha sido extraída hacia afuera antes de la colocación de la cámara digital, y confirme que la perilla del zoom pueda moverse suavemente para controlar el zoom, la palanca del interruptor de alimentación pueda activar (ON) y desactivar (OFF) la cámara digital, y que la perilla de modo pueda controlar la perilla de modo de la cámara.



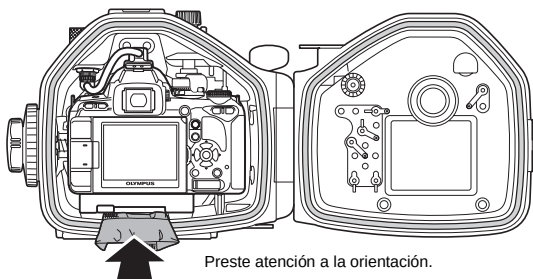
Sp

PRECAUCIÓN:

- Antes de colocar la cámara digital, fije los engranajes del zoom y enfoque, y anillos de enfoque de la carcasa haciendo referencia al manual de instrucciones para el puerto de objetivo hermético.
- Si los engranajes del zoom y enfoque sobre el objetivo no se encuentran acoplados adecuadamente con el engranaje de la perilla del zoom de la carcasa, el uso del zoom y enfoque no son posibles. Aun cuando los engranajes están acoplados, las gamas de control del zoom y enfoque pueden estar limitados debido a la posición de los engranajes del zoom y enfoque en la carcasa. Asegúrese de ubicarlos adecuadamente leyendo bien el manual de instrucciones para el puerto de objetivo hermético opcional.

④ Coloque la bolsa de silicagel

Antes de sellar la carcasa, asegúrese de colocar la bolsa de silicagel en el espacio entre la parte inferior de la mesa de la cámara y la superficie interior de la carcasa. Esto evitará empañamientos. Inserte la bolsa de silicagel lateralmente con los lados plegados.



PRECAUCIÓN:

- Cuando se trata de sellar la carcasa con la bolsa colocada solamente en parte de su totalidad, la bolsa de silicagel quedará aprisionada por la junta tórica y se ocasionarán filtraciones de agua.
- Una vez que la bolsa de silicagel se haya usado, el rendimiento de absorción de humedad no será eficiente. Cambie siempre la bolsa de silicagel cuando se abre y cierra la carcasa.

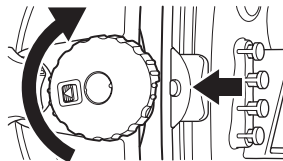
Compruebe la condición de la colocación

Antes de sellar la carcasa realice siempre las siguientes comprobaciones finales.

- ¿Se ha extraído el ocular correctamente?
- ¿El mantenimiento de la junta tórica se realiza de manera apropiada?
- ¿Se encuentra la cámara digital colocada de manera que la perilla del zoom opera apropiadamente?
- ¿Se encuentra la bolsa de silicagel colocada en toda su extensión en la posición especificada?
- ¿Se encuentran las juntas tóricas y superficies de contacto de junta tórica libre de suciedad y otras materias extrañas?
- ¿Se encuentran las juntas tóricas colocadas apropiadamente?
- Cuando se combina un flash electrónico con un cable TTL, compruebe que el cable de la zapata de conexión está conectado adecuadamente y que el ajuste de elevación automática de la cámara está ajustado a desactivado (OFF).
- Cuando utilización del flash electrónico submarino UFL-2 con el cable de fibra óptica submarino, o Cuando se utiliza un flash esclavo de un fabricante que no sea Olympus, compruebe que se levanta el flash incorporado de la cámara.

Selle la carcasa

- ① Cierre la tapa trasera suavemente (de manera que las juntas tóricas no se deslicen fuera de las ranuras).
 - ② Gire la palanca de apertura/cierre de hebilla en el sentido de las agujas del reloj.
- La carcasa se sella cuando el bloqueo de diapositivas está arriba del todo.



PRECAUCIÓN:

Si la palanca de apertura/cierre de hebilla no se gira completamente, la caja no estará sellada y esto provocará filtraciones de agua.

Compruebe la operación de la cámara colocada

Después del sellado de la carcasa, verifique si la cámara funciona normalmente.

- Opere la palanca del interruptor de alimentación de la carcasa y confirme que la cámara se enciende y apaga (ON/OFF).
- Gire la perilla de rueda de modo de la carcasa y confirme que el modo de la cámara pueda ser cambiado adecuadamente.
- Opere la palanca disparadora de la carcasa y confirme que el obturador de la cámara se libera.
- Opere la perilla del zoom de la carcasa y confirme que la persiana del ocular de la cámara es controlada.
- Opere los otros botones de control sobre la carcasa y confirme que la cámara funciona apropiadamente de la manera requerida.

Realice las verificaciones finales

Inspección visual

Después de cerrar la caja firmemente, compruebe el sellado entre las tapas delantera y trasera, y la conexión entre el puerto y la caja para asegurar que las juntas tóricas no se encuentran torcidas, que se asientan apropiadamente en las ranuras y que ninguna materia extraña ha quedado atrapada entre las dos partes.



PRECAUCIÓN:

Pelos, fibras y otros elementos estrechos no son muy destacables, pero pueden ocasionar que entre agua, de manera que se requiere de atención especial.

Sp

Prueba de filtración de agua

El test final posterior a la carga de la cámara se detalla a continuación. Realice siempre esta prueba. Se puede llevar a cabo fácilmente en un tanque de agua o una bañera. El tiempo necesario es de cinco minutos.

Prueba de inmersión en agua simple	Imagen explicativa	Sugerencia
① Coloque la caja lentamente en el agua.		Como la tapa trasera del caja es transparente, las gotas de agua que entran puede ser fácilmente confirmadas.
② Al principio, sumerja la caja durante tres segundos.		En caso de problema con la junta tórica principal, tres segundos son suficientes para que el agua entre. ¿Hay burbujas de agua saliendo hacia afuera entre las tapas?
③ Verifique que no haya entrado agua dentro de la caja.		Saque la caja del agua y compruebe que no se ha filtrado agua dentro de la carcasa.
④ Luego, sumerja la caja durante 30 segundos.		¡Verifique cuidadosamente por si hay burbujas de aire! No realice aún ninguna operación, sólo observe.
⑤ Verifique que no haya entrado agua dentro de la caja.		Saque la caja del agua y compruebe que no se ha filtrado agua en la parte inferior de la carcasa.
⑥ Luego, verifique sumergiendo durante tres minutos.		¡Verifique cuidadosamente por si hay burbujas de aire! Pruebe la operación de los botones más usados frecuentemente. ¡Verifique cuidadosamente por si hay burbujas de aire!
⑦ Ésta es la verificación final. ¿Se ha humedecido la silicagel?		¿Se ha humedecido la silicagel? ¡Verifique cuidadosamente!
⑧ Las pruebas finales están bien si no hay filtraciones de agua.		¡Ahora todo está correcto!

5. Manipulación después de la toma fotográfica

Limpie secando todo vestigio de agua

Después de una toma bajo el agua, retire cualquier gota de agua de la caja. Utilice aire presurizado o un paño suave, libre de hilos para limpiar cuidadosamente toda humedad desde la bisagra entre las tapas delantera y trasera, la palanca de liberación del obturador, el asidero y la palanca de apertura/cierre de hebilla.



PRECAUCIÓN:

El agua que queda entre las tapas delantera y trasera o entre la caja y puerto pueden ingresar dentro de la caja una vez que se abre o se retira el puerto. Seque particularmente estas áreas cuidadosamente.

Extracción de la cámara digital

Primero, abra la palanca de apertura/cierre de hebilla del cuerpo de la carcasa y luego la tapa trasera cuidadosamente. Si el cable de la zapata de conexión está conectado a la cámara, primero desconéctelo, luego retire las perillas de modo y zoom de la carcasa, de manera que no queden en el camino al retirar la cámara digital, y saque la cámara digital.



PRECAUCIÓN:

- Cuando abra la caja quitando el puerto, asegúrese de que no entre agua desde el exterior (por ejemplo que caiga de su pelo o de la ropa de buceo) dentro de la caja y/o sobre la cámara.
- Ante de abrir la caja o retirar el puerto, asegúrese de que sus manos o guantes se encuentran completamente limpios (libre de arena, fibras, etc.).
- No abra la caja ni retire el puerto en áreas en donde el agua pueda haberse salpicado o rociado en el aire o en donde la arena o polvo pueda existir en el aire. Cuando esto no puede evitarse, por ejemplo si la pila o tarjeta de memoria debe ser cambiada, la caja y la cámara deben ser protegidas del viento o rocío usando un objeto adecuado (tal como una hoja de plástico).
- No toque la cámara digital y/o la pila con una mano mojada con agua de mar.

Lave la caja con agua limpia

Después de usarla, selle de nuevo la caja después de sacar afuera la cámara y lávela suficientemente con agua limpia tan pronto como sea posible.

Después de usarla en agua de mar, es importante sumergirla durante un tiempo fijo (30 minutos a 1 hora) en agua pura para eliminar la sal.



PRECAUCIÓN:

- La filtración de agua puede ocasionarse cuando se aplica localmente una muy alta presión de agua. Antes de lavar la caja con agua, retire la cámara digital de la misma.
- Opere la palanca del disparador y los variados botones de este producto en agua limpia, para quitar la sal adherida al eje. No los desarme para la limpieza.
- Si deja que la sal se seque en la carcasa, pueden ocasionarse dificultades en el funcionamiento. Siempre limpie quitando toda la sal después de usar.



Seque la caja

Después de lavar con agua pura, utilice un paño suave sin ninguna sal y que no tenga hilos, quite cualquier gota de agua, y seque la caja completamente en una ubicación bien ventilada en la sombra. Cuando limpie la caja, tenga cuidado de no ocasionar ralladuras.



PRECAUCIÓN:

No utilice aire caliente desde un secador de cabello o aparatos similares para el secado, ni exponga la caja a la luz directa del sol, ya que esto puede acelerar el deterioro y deformación de la caja, y el deterioro y deformación de la junta tórica ocasionando una filtración de agua.

Cuando limpie la caja, tenga cuidado de no causar ralladuras.

6. Manteniendo la función de hermeticidad al agua

La junta tórica es un producto consumible. Antes de su uso, realice un mantenimiento adecuado. Asegúrese siempre de realizar el mantenimiento de la junta tórica según se describe a continuación. Si no lleva a cabo un mantenimiento correcto, podrían producirse filtraciones de agua. Realizar en lugares no polvorientos, después de haberse lavado y secado las manos.

Extraiga la junta tórica

Abra la carcasa y extraiga la junta tórica desde la misma.

Procedimiento

- ① Inserte el extractor de junta tórica en el espacio entre la junta tórica y la pared de ranura de la junta tórica.
- ② Coloque la punta del extractor de junta tórica debajo de la junta tórica. (Tenga cuidado de no dañar la ranura con la punta del extractor de junta tórica.)
- ③ Levante la junta tórica, apriete su parte con la punta de los dedos y tire hacia fuera de la carcasa.

Quite toda arena, suciedad, etc.

Después de verificar visualmente que la suciedad haya sido quitada de la junta tórica, verifique por si hay arena adherida y otras materias extrañas, así como también por daños y rajaduras que pueden hacerse por apretar la circunferencia entera de la junta tórica ligeramente con sus dedos. Extraiga las materias extrañas fijadas desde la ranura de la junta tórica con un paño limpio o un palillo algodónado con pocos hilos. También quite la arena y suciedad fijada a las superficies de la carcasa que quedan en contacto con la junta tórica.

PRECAUCIÓN:

- Cuando se usa un o un objeto puntiagudo similar para quitar la junta tórica o limpiar el interior de la ranura de la junta tórica, la caja o junta tórica pueden dañarse y ocasionarse la filtración de agua.
- Cuando se verifica la junta tórica con los dedos, tenga cuidado de no alargar la junta tórica.
- No utilice alcohol, disolvente, bencina o solventes similares ni detergentes químicos para limpiar la junta tórica. Cuando se usan agentes químicos, es probable que la junta tórica se dañe o se acelere su deterioro.

Coloque la junta tórica.

Confirme de no haya ninguna materia extraña fijada, aplique una capa fina de grasa accesoria a la junta tórica, y fije la junta tórica en la ranura. En este momento, confirme que la junta tórica no se adhiera fuera de la ranura.

Hasta un solo pelo o un diminuto grano de arena podría ocasionar una filtración de agua.

Cómo aplicar grasa a la junta tórica

① Aplique solamente Olympus la grasa especificada.		Después de asegurarse de que no hay suciedad en sus dedos y en la junta tórica, coloque alrededor de 5 mm desde el tubo en la punta de su dedo. (La cantidad apropiada de grasa es alrededor de 5 mm).
② Extienda la grasa a lo largo de la junta tórica.		Usando las puntas del pulgar y dos dedos de su mano, extienda la grasa a lo largo de la junta tórica mientras la frota. Tenga precaución de no tirar de la junta tórica con fuerza excesiva.
③ Compruebe que no haya daños o irregularidades sobre la junta tórica.		Cuando la grasa penetra pasando a través de la junta tórica, compruebe de que no hay daños ni irregularidades tocando y viendo. Si se observa alguna irregularidad, no dude en reemplazar la junta tórica por una nueva.
④ Aplique la grasa sobre la superficie de contacto de la junta tórica.		Utilice la grasa residual en las puntas de sus dedos para limpiar y engrasar la superficie de contacto de la junta tórica en la tapa delantera.

⚠ PRECAUCIÓN:

- Realice siempre un mantenimiento de la función de resistencia al agua, incluso cuando la carcasa se haya abierto con cada disparo. La falta de mantenimiento puede ser la causa de filtración de agua.
- Cuando la caja no es usada durante un largo período de tiempo, retire la junta tórica desde la ranura para evitar deformación de la junta tórica, aplique una capa delgada de grasa de silicona, y almacénela en una bolsa plástica limpia o similar.

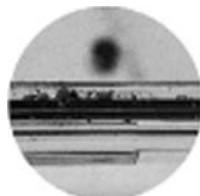
Ejemplos de materias extrañas adheridas a la junta tórica



Pelo



Fibras



Granos de arena

Reemplace las piezas consumibles

- La junta tórica es un producto consumible. Independiente del número de veces que se use la caja, se recomienda que la junta tórica sea reemplazada por una nueva por lo menos una vez por año.
- El deterioro de la junta tórica se acelera por las condiciones de uso y las condiciones de almacenamiento. Reemplace la junta tórica aun antes de que haya pasado un año, si muestra signos de daños, rajaduras o pérdida de elasticidad.

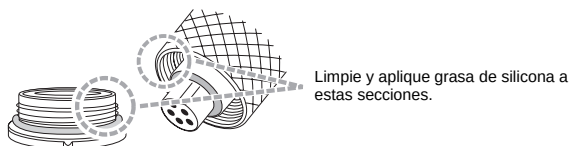
⚠ PRECAUCIÓN:

- Utilice grasa de silicona y gel de sílice originales de Olympus.
- No intente reemplazar la junta tórica usted mismo.
- Le recomendamos que realice la comprobación periódicamente.

Mantenimiento de las secciones de rosca sobre el cable TTL y el de cable TTL

Si las secciones de rosca usadas para conectar el cable TTL al conector de cable TTL se cuidan apropiadamente, pueden adherirse sal y otros residuos agua de mar al cable TTL y evitar de que se desconecten.

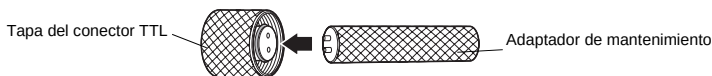
Después de usar en agua de mar, limpie toda sal, u otros residuos tan pronto como sea posible, luego seque el equipo completamente. Limpie las secciones de rosca con un palillo algodónado y aplique una capa delgada y uniforme de grasa de silicona (proporcionada con esta caja).



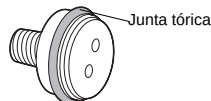
Mantenimiento de la tapa del conector TTL

Después de retirar la tapa del conector TTL desde la caja estanca, asegúrese de limpiar y engrasar la junta tórica.

Utilice el adaptador de mantenimiento para retirar la unidad de junta tórica desde la tapa del conector TTL.



- ① Inserte el adaptador alineando su pasador con el orificio en la tapa.
- ② Gire el adaptador hacia la izquierda para retirar la unidad de junta tórica.
- ③ Después de retirar la junta tórica fijada a la unidad de junta tórica, limpie la ranura de la junta tórica y aplique grasa de sílice a la junta tórica. Luego, vuelva a fijar la junta tórica a la unidad de junta tórica.



* Para volver a fijar la unidad de junta tórica a la tapa del conector TTL, invierta el procedimiento de extracción.

7. Apéndice

Especificaciones

Modelo de cámara compatible	Cámaras digitales Olympus E-620
Resistencia de presión	Profundidad de sólo 40 m
Materiales principales	Cuerpo principal: Resina de policarbonato. Libere la palanca de apertura/cierre de hebilla/perilla del interruptor de alimentación/perilla de modo/perilla de control/perilla del zoom/mesa de la cámara: Resina de policarbonato. Montura de puerto/bastidor de visor de toma/montura de ménsula opcional/ engranaje de perilla del zoom/tapa del conector TTL: Aluminio. Eje de botones de funcionamiento/anillo de la correa de mano: Acero inoxidable. Tapa de cuerpo: Resina ABS. Juntas tóricas/Parasol interno de LCD: Caucho silicónico. Parasol de LCD: Caucho NBR.
Dimensiones	Ancho 208,0 mm x altura 169,0 mm x profundidad 144,0 mm
Peso	1.340 g (cámara y accesorios no incluidos)

* Nos reservamos el derecho de cambiar la apariencia externa y las especificaciones sin aviso previo.

Accesorios suministrados para el PT-E06

Junta tórica (para la tapa posterior): POL-E06A
Junta tórica (para la tapa frontal): POL-E06B
Grasa de silicona: PSOLG-2G
Gel de sílice SILCA-5S
Parasol de LCD: PFUD-E06
Soporte de la cámara: PTMO-E05
Correa de mano: PST-E02
Tapa del cuerpo: PBC-E02
Tapa del conector TTL: PTAC-E04

Puerto hermético

Puerto hermético	Profundidad soportada	Objetivo aplicable	Nota
PPO-E01	60 m	14-45 mm	Empaquetado junto con el engranaje del zoom hermético PPZR-E01 para el objetivo de 14-45 mm.
		Macro de 35 mm	El engranaje de zoom PPZR-E01 provisto no puede ser usado. El ángulo de rotación del anillo de enfoque puede aumentarse a 360° usando el engranaje de enfoque hermético PPZR-E04 opcional. La ampliación inmediatamente en frente del objetivo se convierte en alrededor de x0,6.
PPO-E02	60 m	14-54 mm	Empaquetado junto con el engranaje del zoom hermético PPZR-E02 para objetivos de 14-54 mm, 14-54 mm II o 11-22 mm.
		14-54 mm II	
	60 m	11-22 mm	
		Macro de 50 mm	El enfoque manual es posible usando el PPZR-E01 provisto, pero el ángulo de rotación del anillo de enfoque se limita a 180°. El ángulo de rotación del anillo de enfoque puede aumentarse a 360° usando el engranaje de enfoque hermético PPZR-E04 opcional.
PER-E01	60 m	EC-14	Cuando se utiliza el EC-14, fíjelo entre el puerto del objetivo hermético y la carcasa de la serie PT-E. El zoom de las lentes o el enfoque manual no se pueden utilizar con EC-14.
PPO-E04 +PER-E02	60 m	7-14 mm	El engranaje del zoom hermético PPZR-E03 para objetivos de 7-14 mm se provee con el PER-E02.
PPO-E04	60 m	Ojo de pez de 8 mm	El ángulo del anillo de enfoque puede girar en 360° usando el engranaje de enfoque hermético PPZR-E05 opcional.
		Ojo de pez de 9-18 mm	El zoom funciona utilizando el accesorio específico PPZR-E07.
PPO-E05	40 m	14-42 mm	Empaquetado junto con el engranaje del zoom hermético PPZR-E06 para objetivos de 14-42 mm.

Cuando el puerto hermético se utiliza en combinación con la caja de la PT-E06, la profundidad soportada real se limita a 40 m, especificado para el puerto hermético aun cuando la carcasa de la PT-E06 tiene una profundidad soportada de 60 m.

Accesorios opcionales

Grasa de silicona: PSOLG-3

Cable de fibra óptica submarino: PTCB-E02

Cable TTL: PTCB-E01

Cable de la zapata de conexión: PHCB-01

Soporte: PTBK-E01, PTBK-E02

* Cuando se utilizan el PTBK-E01 y la carcasa en combinación, se necesitan arandelas apropiadas en la parte atornillada.

Si su PTBK-E01 no incluye las arandelas apropiadas, póngase en contacto con el centro de atención al cliente.

Los accesorios están en venta. No se pueden utilizar productos de otros tipos de modelos que no sean los descritos anteriormente.



<http://www.olympus.com/>

OLYMPUS IMAGING CORP.

Shinjuku Monolith, 3-1 Nishi-Shinjuku 2-chome, Shinjuku-ku, Tokyo, Japón

OLYMPUS IMAGING AMERICA INC.

3500 Corporate Parkway, P.O. Box 610, Center Valley, PA 18034-0610, EE.UU. Tel. 484-896-5000

Asistencia técnica (EE.UU.)

24/7 Ayuda automatizada en línea: <http://www.olympusamerica.com/support>

Soporte telefónico al cliente: Tel. 1-888-553-4448 (Llamada gratuita)

El horario de atención de nuestro soporte telefónico al cliente es de 8 am a 10 pm
(Lunes a viernes) ET

E-Mail: distec@olympus.com

Las actualizaciones de los software Olympus se pueden obtener en:

<http://www.olympusamerica.com/digital>

OLYMPUS IMAGING EUROPA GMBH

Locales: Wendenstrasse 14-18, 20097 Hamburg, Alemania

Tel: +49 40-23 77 3-0 / Fax: +49 40-23 07 61

Entregas de mercancía: Bredowstrasse 20, 22113 Hamburg, Alemania

Correspondencia: Postfach 10 49 08, 20034 Hamburg, Alemania

Asistencia técnica al cliente en Europa:

Visite nuestra página web <http://www.olympus-europa.com>

o llame a nuestro TELÉFONO GRATUITO* : **00800 - 67 10 83 00**

para Austria, Bélgica, Dinamarca, Finlandia, Francia, Alemania, Italia, Luxemburgo,

Países Bajos, Noruega, Portugal, España, Suecia, Suiza, Reino Unido

* Por favor, tenga en cuenta que algunos proveedores de servicios de telefonía
(telefonía móvil) no permiten al acceso o requieren el uso de un prefijo adicional para los
números de llamada gratuita (+800).

Para los países europeos que no figuran en la relación anterior y en caso de no poder conectar
con el número antes mencionado, utilice los siguientes

NÚMEROS DE PAGO: +49 180 5 - 67 10 83 ó +49 40 - 237 73 4899

El horario de nuestro servicio de Asistencia técnica al cliente es de 09:00 a 18:00 (CET, hora
central europea), de lunes a viernes.



MEMO

- 感谢您购买PT-E06（以下称为机壳）防水机壳。
- 请仔细阅读本说明书，安全并正确地使用本产品。阅毕后请保留此说明书以作参考用。
- 如果使用方法不正确，可能会引起渗水，而导致机壳内的照相机损坏，甚至无法修理。
- 使用前，请务必按照本说明书的说明，对防水机壳进行使用前的检测。

前言

- 除个人用途外，未经授权禁止部分或全部复印本说明书。并严禁擅自转载。
- 如因不当使用本产品而造成损害，本公司对于由此所引起的利益损失或第三者的赔偿要求，不负任何责任。

使用前请阅读以下条款

- 本防水机壳是为在水深40米以内处使用而设计的精密仪器。操作时请充分注意。
- 关于此防水机壳的使用前处理、检测、维护，以及使用后的存放方法等，请在充分理解此使用说明书的内容后再进行。
- 使用防水机壳时，请务必与另售的镜头防水罩组合使用。
- OLYMPUS IMAGING CORP.对数码照相机浸水事故不负任何责任。另外，本公司不能弥补内部器材的损伤，或由于相机内进水导致地记录内容的损失。
- OLYMPUS IMAGING CORP.对使用时造成的任何事故（受伤或物品损坏）不给于任何赔偿。

安全注意事项

此使用说明书使用各种象形图进行说明，以防止对使用者或其他人造成伤亡或财产损失，并防范于未然。象形图及其含义如下所示。

 警告	表示如果忽视此指示而进行了错误的操作，有可能造成人员死亡或严重伤害。
 注意	表示如果忽视此指示而进行了错误的操作，有可能造成严重伤害或者是物品的损坏。

警告

- ① 请将本产品远离婴幼儿。否则将有可能发生以下事故。
 - 物品从高处跌落导致的人身伤害。
 - 部件的开、关部夹伤身体某个部位。
 - 吞食小部件，O-环，硅树脂软胶和硅胶。如果吞食了任何部件，请立即向医生求助。
- ② 切勿将装有电池的数码照相机存放于本产品内。
在装有电池的情况下存放，可能导致电池液流出或失火。
- ③ 使用防水机壳时，请务必与另售的镜头防水罩组合使用。本产品不可单独使用。
- ④ 本产品的内置照相机如果发生渗水，请立即取出照相机的电池。否则有可能产生氢气而引起燃烧或爆炸。
- ⑤ 本产品由树脂制成。如被岩石或其它硬物强烈撞击引起其破裂，有可能导致人员受伤。操作时请充分注意。

注意

- ① 请勿拆解或改装本产品。否则将引起漏水或故障。对于非OLYMPUS IMAGING CORP. 授权人员进行的拆解、修理或改装引起的图像数据损失，本公司不承担任何责任。
- ② 在下列环境下使用或存放本产品，可能会导致操作失灵、故障、损坏、火灾、内部水雾、或漏水。请尽量避免。
 - 高温环境下如阳光直射、汽车内等。
 - 靠近火源的地方。
 - 水深超过40米的水中。
 - 承受振动的地方。
 - 高温潮湿的场所或温度剧烈变化的地方。
 - 有挥发性物质的地方。
- ③ 在多沙土、灰尘或污染大的环境下开关本产品，将削弱其防水功能而导致渗水。敬请避免。
- ④ 本产品不是用于减轻对内部相机的冲击的机壳。内部装有数码相机的本产品承受冲击或有重物搁置其上时，内部的数码相机可能会损坏。使用时请充分小心。
- ⑤ 请勿使用以下化学试剂进行清洗，防锈，防雾，维修等作业。如果直接或间接（如汽化状态下的化学物质）将其用于防水机壳，可能会在高压的环境下破裂。

不能使用的化学试剂	说明
有挥发性的有机溶剂，化学试剂	不要使用酒精、汽油、苯溶液或其他挥发性有机溶剂，化学试剂等清洗本机，用清水或温水清洗即可。
防锈剂	请勿使用防锈剂。金属部件使用不锈钢或铜，用清水清洗即可。
商业除雾剂	请勿使用商业除雾剂。请务必使用指定的除雾剂硅胶。
请勿使用硅树脂软膏	硅胶O形环上只能使用指定的硅树脂软膏，否则会引起O形环表面变形，导致渗水。
粘合剂	请勿使用粘合剂进行维修。如需维修请与经销商或OLYMPUS IMAGING CORP.指定的维修服务站联系。

- 
- ⑥ 跳入水中时请将防水机壳置于自己口袋或手中-将本产品从船上扔入水中或其他粗暴的操作将导致其渗水。传递或进行其他操作时，请充分注意。
 - ⑦ 万一因渗水等原因而弄湿内部的照相机，请立刻把其擦干，并确认操作是否正常。
 - ⑧ 请勿对镜头防水罩安装部、TTL电缆连接器部、调焦拨盘或三脚架等过分用力。
 - ⑨ 请勿从内推动排气阀。
 - ⑩ 乘坐飞机时请取下O形环。否则空气压力将使防水机壳无法打开。
 - ⑪ 为了安全使用装在本产品内的数码照相机，请仔细阅读数码照相机的使用说明书。
 - ⑫ 在关闭本产品时请充分注意O形环及其接触面是否被其它异物卡住。
 - ⑬ 数码照相机的内置闪光灯不能在防水机壳结合有外接的OLYMPUS闪光灯时使用。如果其热靴电缆与数码照相机的热靴连接，数码照相机的内置闪光灯不能弹出。如果强行将数码照相机的内置闪光灯拉出，闪光灯将无法正常运作，热靴电缆的连接或会切断。这或将损坏数码照相机。
 - ⑭ 照相机在防水机壳内时，不能使用数码照相机的内置闪光灯。

目录

前言	1
使用前请阅读以下条款	1
安全注意事项	1
1. 准备	6
检查包装盒中的内容	6
部件名称	7
安装镜头防水罩	8
安装手带	8
照相机台的安装 / 拆卸方法	9
2. 防水机壳的预先检测	10
使用前的预先检测	10
3. 如何连接电子闪光灯	11
连接水下光纤电缆	11
当使用 TTL 电缆时	12
4. 装入数码照相机	14
检查数码照相机	14
打开防水机壳	15
将数码相机安装到照相机台	15
装入数码照相机	16
检查装入状况	17
密封防水机壳	18
装入后的操作检测	18
进行最终检测	18
肉眼检查	18
漏水检测	19
5. 拍摄后的处理方法	20
擦干水滴	20
取出数码照相机	20
用清水清洗防水机壳	20
晾干防水机壳	21
6. 防水功能的维护	22
取下 O 形环	22
清除沙粒、灰尘等	22
安装 O 形环	22
如何使用 O 形环软膏	23
更换消耗品	24
TTL 连接器和 TTL 电缆固定螺丝部的维护	24
TTL 连接器盖的维护	24



7. 附录.....25

 规格 25

 为 PT-E06 提供的附件 25

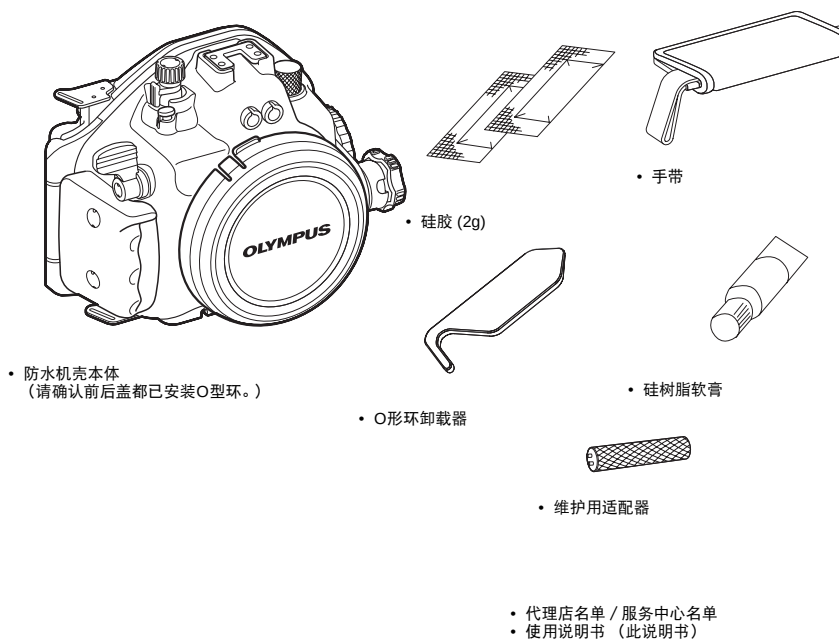
 镜头防水罩 26

 选购附件 26

1. 准备

检查包装盒中的内容

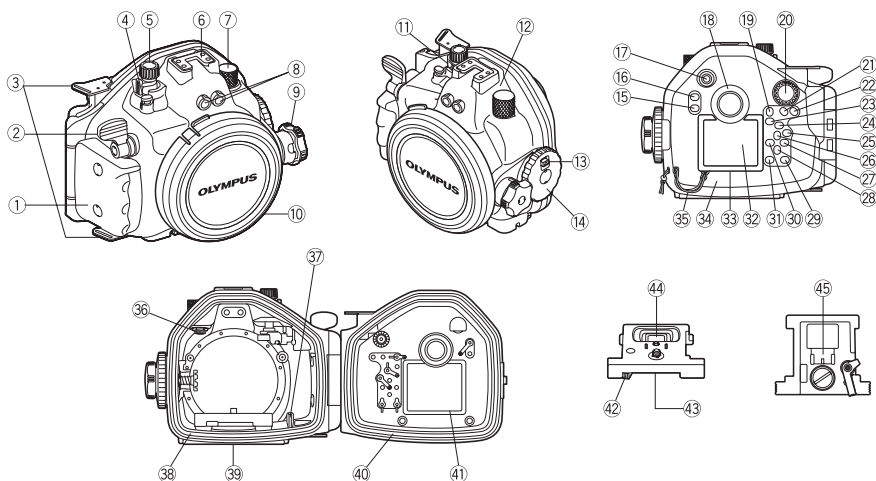
包装盒中的配件是否齐全？
如配件有缺损请与经销商联系。



⚠ 注意:

购买后，即使是未开封，也请务必进行维护。疏于维护很可能成为漏水的原因。
有关如何维护本机壳，请参见第22页。

部件名称



- | | | |
|----------------|---------------------|-----------------------|
| ① 把手 | *①⑥ INFO (情报显示) 按钮 | *③① ㊄ (消除) 按钮 |
| *② 快门杆 | ①⑦ 排气阀 | ③② 液晶显示屏窗 |
| ③ 手带钩环 | ①⑧ 取景器 | ③③ 液晶显示屏遮光罩 |
| *④ ㊄ (曝光补偿) 按钮 | *①⑨ AEL/AFL 按钮 | ③④ 后盖 |
| *⑤ 模式拨盘旋钮 | *②⑩ 控制拨盘旋钮 | ③⑤ 液晶显示屏遮光罩扣带 |
| ⑥ 附件安装部 | *②⑪ Fn 按钮 | ③⑥ 热靴电缆连接器部
(配有盖子) |
| ⑦ TTL电缆连接器部 | *②⑫ [•••] (AF目标) 按钮 | ③⑦ 装载指示导轨 |
| ⑧ 光纤电缆插入口, 盖 | *②⑬ [▶] (播放) 按钮 | ③⑧ O形环 (POL-E06B) |
| *⑨ 调焦拨盘 | *②⑭ [I/O] 按钮 | ③⑨ 三脚架座 |
| ⑩ 机身盖 | *②⑮ [∞] 按钮 | ④① O形环 (POL-E06A) |
| *⑪ 主电源开关拨盘 | *②⑯ 十字按钮 ▲ | ④② 内部液晶显示屏遮光罩 |
| ⑫ 前盖 | *②⑰ 十字按钮 ► | ④③ 照相机台锁扣 |
| ⑬ 滑动锁扣 | *②⑱ 十字按钮 ▼ | ④④ 照相机台 |
| ⑭ 开 / 关拨盘 | *②⑲ IS 按钮 | ④⑤ 眼罩存放空间 |
| *⑮ MENU按钮 | *③① 十字按钮 ◀ | ④⑥ 热靴盖存放空间 |

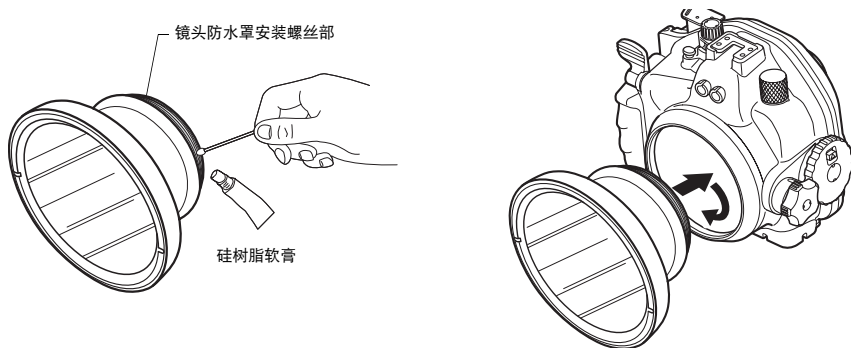
注:

带*标记的防水机壳操作部与相应的数码照相机操作部相对应。操作防水机壳的操作部即可操作相应的数码照相机。关于此功能的详细内容, 请参阅数码照相机的使用说明书。

安装镜头防水罩

本产品适用于数码照相机的镜头，在防水机壳前装上镜头防水罩后可在水下使用。照相机安装在防水机壳内时，请将镜头防水罩与照相机镜头吻合。

- 将镜头防水罩安装于防水机壳时，请事先阅读镜头防水罩所附带的使用说明书。
- 将本产品附带的硅树脂软膏涂在标准镜头防水罩的O形环部以及防水机壳的镜头防水罩安装螺丝部。
- 将镜头防水罩沿防水机壳本体顺时针旋转，平稳嵌入。

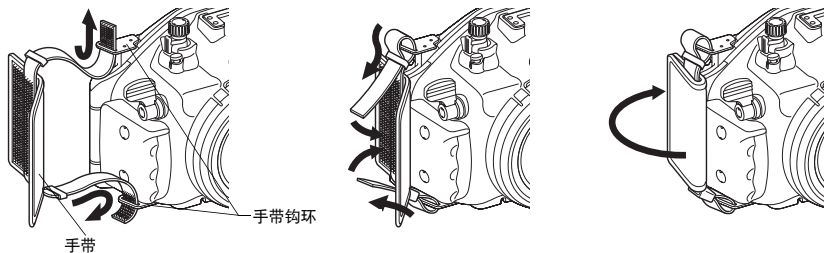


⚠ 注意：

防水机壳不能在水深超过40米处使用。即使镜头防水罩或其他设备能经受住超过40米的水深度，防水机壳本体却不能在水深超过40米处使用。

安装手带

将手带安装到防水机壳上。

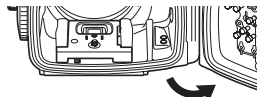


照相机台的安装 / 拆卸方法

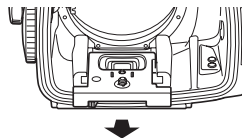
本防水机壳前盖侧的照相机台乃为安装使用的数码照相机而设。

如何取下照相机台。

- ① 滑动并握住防水机壳的滑动锁扣并打开开 / 关拨盘，然后开启后盖。

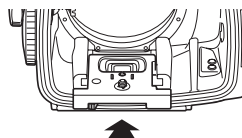


- ② 将照相机台锁扣滑动至左侧，解锁照相机台。向后拉照相机台。

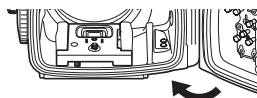


如何装上照相机台。

- ① 将照相机台慢慢嵌入设定在本防水机壳前盖侧的照相机台安装部。将照相机台锁扣滑动至右侧，锁定照相机台。



- ② 轻轻地关闭防水机壳后盖并旋紧开/关拨盘。



注意：
照相机台未完全嵌入前，关上防水机壳后盖会损坏防水机壳及照相机。

2. 防水机壳的预先检测

使用前的预先检测

本防水机壳在生产和装配时实行了严格的质量控制和功能检测。而且所有产品都经水压测试器测试，确保产品符合设计规范。

但如果受到运输、存放环境和维护状况等影响，防水功能可能受损。

使用前，请务必进行下列预检。

检查防水机壳的防水部

检查本防水机壳的防水部各处。

- ① 防水机壳确实装有O形环，并有滑动锁扣和开/关拨盘保护。
- ② 另售的镜头防水罩安装于防水机壳本体，防水机壳本体与镜头防水罩部间确实装有O形环，防水机壳和镜头防水罩上安装正确。
- ③ TTL连接器盖上确实装有O形环，螺丝将盖与连接器牢靠连接。

预先检查

- ① 在把数码相机装入此机壳之前，请先把空机壳浸入水中，确认不漏水。如果这样做很困难，则请参考“漏水检测”（19页）进行漏水检测。
- ② 引起渗水的主要原因如下。
 - 忘记安装O形环
 - O形环部分或全部脱出环槽。
 - O形环损坏、破裂、老化或变形。
 - O形环、O形环槽、前盖部O形环接触面粘有沙粒、纤维、头发等异物。
 - 各环槽、O形环接触面内有损伤。
 - 手带和硅胶被关上的防水机壳卡住。

消除了上述各项原因之后实施测试。

 注意：

如果通过预先检查后，在正常操作下仍然渗水，请与经销商或奥林巴斯维修服务站联系。

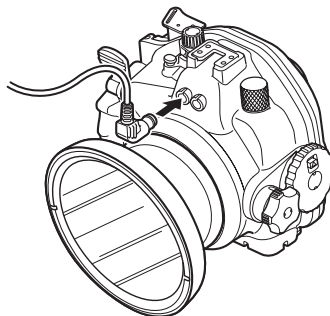
3. 如何连接电子闪光灯

连接水下光纤电缆

要将UFL-2水下闪光灯（选购件）连接至防水机壳，请按照下述步骤使用水下光纤电缆（选购件）。

如何连接水下光纤电缆

- ① 取下光纤电缆插入口的盖。



- ② 始终确保将水下光纤电缆的插头插入光纤电缆插入口中。

设置数码相机

- ① 设置照相机的RC模式为ON，以便激活相机内置的闪光灯。
- ② 使相机内置的闪光灯弹出，然后将照相机装入防水机壳中。

关于UFL-2的操作，请参考UFL-2使用说明书。

⚠ 注意：

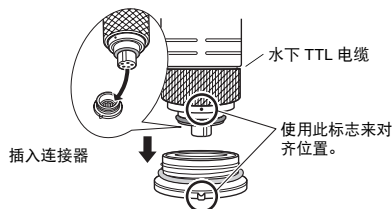
当使用非奥林巴斯制造的带水下光纤电缆的从动型闪光灯时，设置照相机的内置闪光灯为手动。
如果照相机的内置闪光率大于1/64，照相机的内置闪光灯可能会在镜头端口反光并且被摄入照片中。

当使用 TTL 电缆时

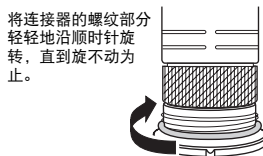
当用水下 TTL 电缆（选购件：PTCB-E01）连接选购的光电闪光灯时，将热靴电缆（选购件：PHCB-01）连接至照相机和防水机壳前盖。

连接水下 TTL 电缆

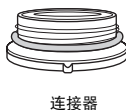
- ① 将防水机壳的 TTL 连接盖顺时针旋转取下。
- ② 将水下 TTL 电缆（选购：PTCB-E01）连接至防水机壳的 TTL 连接器。



- ③ 当不使用水下 TTL 电缆（选购：PTCB-E01）时，盖上连接器盖。确保没有异物粘在 O 型环盖内和 TTL 电缆连接器上。然后，轻轻地顺时针旋转，直到旋不动为止。



检查 O 形环

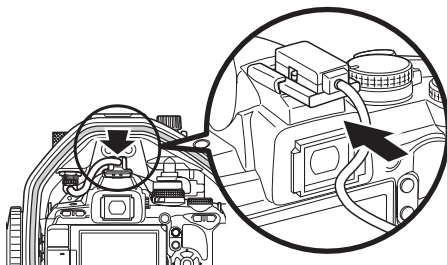
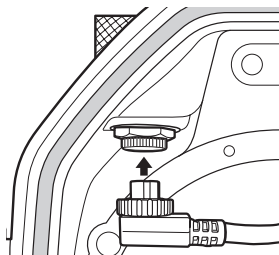


⚠ 注意：

如果 TTL 连接器盖松了，就可能导致漏水。

如何连接热靴电缆

- ① 将防水机壳内的热靴电缆连接盖逆时针旋转取下。
- ② 将热靴电缆连接器插入防水机壳连接器，顺时针旋转连接器螺纹，使它们紧密连接。
- ③ 将照相机装入防水机壳中，将热靴电缆连接至照相机。



Cs

设置数码相机

- ① 设置照相机的自动弹出设置为OFF。在AUTO或水下模式以外的任何拍摄模式下，当光线很暗或者正对太阳拍摄时，照相机的内置闪光灯设计为自动弹出。关于照相机功能设置的详细信息，请参考照相机使用说明书。
- ② 照相机切换为ON之前，电子闪光灯切换为ON。
将照相机设置为ON之前，务必确保电子闪光灯设置为ON。
如果照相机的自动弹出设置为ON，且照相机设为AUTO或水下模式以外的拍摄模式时，将电子闪光灯设置为ON之前，先将照相机设为ON，将会使照相机的内置闪光灯自动弹出。务必确保在将照相机设置为ON之前，先将电子闪光灯设置为ON。

注意：

- 如果当热靴电缆连接在照相机时，照相机的内置闪光灯自动弹出，它将会与热靴电缆干涉，请断开此电缆，否则会引起连接故障。
- 当使用非奥林巴斯制造的从动型水下闪光灯时，照相机的内置闪光灯在被装入防水机壳之前弹出。
- 一旦防水机壳密封，内置闪光灯就无法弹出或收起。

4. 装入数码照相机

检查数码照相机

请在装入防水机壳前检查数码照相机。

1. 确认电池

因在水下拍摄时用液晶显示屏确认拍摄图像，并对拍摄后的图像进行确认等，电池寿命会缩短。请确认电池有足够电量。

2. 确认可拍摄图像数量

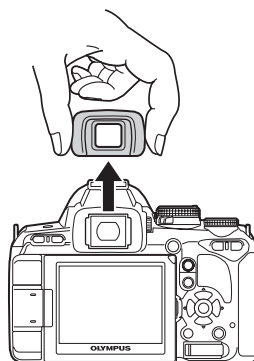
请确认存储卡剩有足够的可拍摄图像数量。

3. 取下数码照相机的手带和镜头盖

不取下手带和镜头盖而装入数码照相机，会因防水机壳不能密封而造成渗水。

4. 取下数码照相机取景器的眼罩

为了使防水机壳取景器看得清楚，取下数码照相机的取景器眼罩后将数码照相机装入防水机壳。可将照相机上取下的眼罩存放在照相机台中。



⚠ 注意：

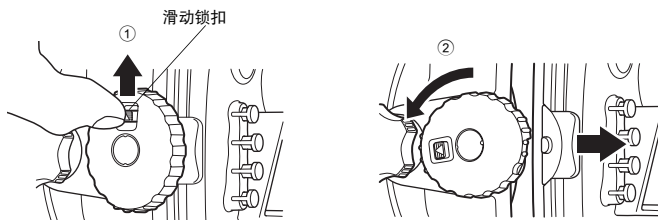
如果在眼罩未取下且防水机壳后盖关闭的情况下在防水机壳中装入数码照相机，则取景器会突出。取下眼罩，然后推入取景器。

5. 取下数码照相机的滤光器

如果数码照相机的镜头上装有滤光器，不能装入防水机壳中。

打开防水机壳

- ① 向箭头方向(①)滑动并握住滑动锁扣并逆时针(②)转动开 / 关拨盘。
- ② 将开 / 关拨盘转至无法继续转动的位置。
- ③ 轻轻地开启防水机壳的后盖。



⚠ 注意:

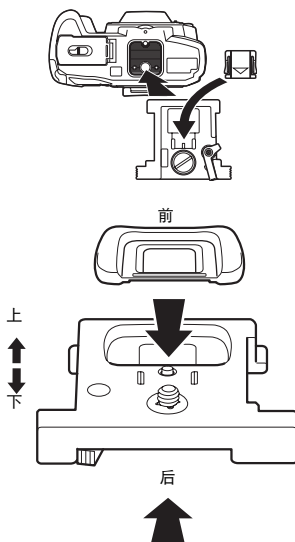
请勿在转动开 / 关拨盘时施加过度的力。否则可能损坏拨盘。

将数码相机安装到照相机台

为了使数码相机装入本防水机壳，将数码相机安装于本防水机壳前盖侧内部设置的照相机台。

- ① 可将数码相机之眼罩和热靴盖存放在照相机台中。
- ② 将数码相机底部的三脚架座部与照相机台安装。安装时，使用数码照相机的三脚孔。

- ③ 照相机台有上下和前后之分。为了避免安装错误，请参考右图。

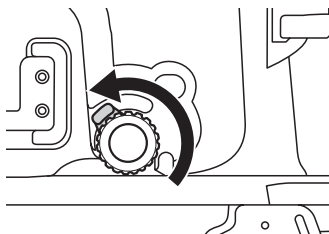


装入数码照相机

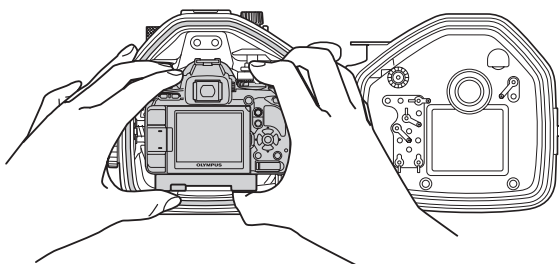
- ① 为了不使本防水机壳的调焦拨盘和模式拨盘（主电源开关拨盘也同时提上）阻碍数码照相机的装入，将其拉出。



这时，将主电源开关拨盘方向如下图所示吻合位置。



- ② 将装有数码照相机的照相机台，安装到数码照相机与防水机壳共同使用的照相机台安装部。此时，请勿用强力，在确认数码照相机未与防水机壳内部的配件相刮后，平稳安装。



- ③ 轻轻按下本防水机壳的调焦拨盘和模式拨盘，确认使用调焦拨盘是否能顺畅调焦、操作主电源开关拨盘是否能打开或关闭数码照相机的电源和用操作模式拨盘是否能操作照相机的模式拨盘。

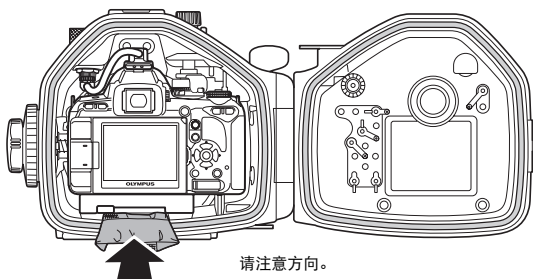


⚠ 注意：

- 装入数码照相机前，通过确认另售的镜头防水罩的使用说明书，检查镜头的调焦环、聚焦环与调焦齿轮、聚焦齿轮的安装和本防水机壳安装的调焦环的位置是否正确。
- 如果安装在镜头的调焦齿轮、聚焦齿轮和本防水机壳侧的调焦拨盘齿轮、未正确吻合，不能调焦和聚焦。另外，即使齿轮相吻合，装入数码照相机时，镜头的调焦和聚焦范围有可能被限制。请在充分确认另售的镜头防水罩附带的使用说明书的基础上正确安装。

④ 插入硅胶

密封防水机壳前，请务必把硅胶袋插入照相机台底部与防水机壳内部之间以防雾。将硅胶袋的边向下折并将其横向插入。



⚠ 注意：

- 如果未完全装入硅胶袋即试图密封防水机壳，硅胶袋将被O形环卡住并引起渗水。
- 使用过的硅胶吸湿功能会减弱。建议您在每次开关防水机壳时更换硅胶。

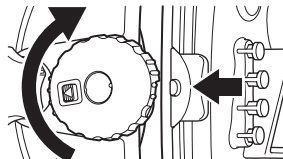
检查装入状况

密封防水机壳前，按下述各项做好检查？

- 眼罩是否正确取下？
- O型环的维护是否正确执行？
- 被装入的数码照相机调焦拨盘是否能正确发挥作用？
- 硅胶是否完全插入指定的位置？
- 各O形环和其接触面是否附有异物？
- O形环是否安装正确？
- 使用带TTL电缆的外部电子闪光灯时，请检查是否正确连接热靴电缆并且照相机的自动弹出功能设定为OFF（关）。
- 使用带水下光纤电缆的UFL-2水下电子闪光灯或使用非奥林巴斯制造商提供的被动型闪光灯时，照相机的内置闪光灯是否已弹出。

密封防水机壳

- ① 轻轻关闭后盖（确保O形环未滑出槽外）。
 - ② 顺时针转动开 / 关拨盘。
- 当滑动锁扣的位置位于顶部时，即密封防水机壳。



⚠ 注意：

如果未完全转动开 / 关拨盘，则无法密封防水机壳并可能发生渗水。

装入后的操作检测

密封防水机壳后，对照相机是否能正确操作进行最终检测。

- 操作防水机壳的主电源开关拨盘，是否可以开/关照相机的电源。
- 操作防水机壳的模式拨盘旋钮，是否可以正确切换照相机的模式。
- 操作防水机壳的快门杆，是否可以操作照相机的快门。
- 操作防水机壳的调焦拨盘，是否可以操作镜头的焦距。
- 操作防水机壳的其他操作按钮，是否可以正确执行照相机的相应功能。

进行最终检测

肉眼检查

密封好防水机壳后，用肉眼检查防水机壳的前盖、后盖的密封部位以及防水机壳本体和镜头防水罩安装部位的周围，确认O形环没有扭曲或脱出槽外，并且没有夹住异物。

⚠ 注意：

头发、纤维或其它细小物体等虽然不明显，但会引起渗水。请特别注意。

漏水检测

照相机装入后的最终检测解释如下。务必执行此检测。它可以很方便地在水槽或浴缸中执行。所需时间大致为五分钟。

简单浸水检查	图示	提示
① 慢慢放入水中。		由于防水机壳是透明的，如有水渗入能清楚地看见。
② 首先浸入3秒钟。		如果O形环有故障，3秒内即会进水。确认是否有空气泡从盖子间冒出。
③ 检查是否有水进入内部。		从水中取出机壳，确认没有水漏进机壳内部。
④ 下一步，浸入水中30秒钟。		仔细检查是否有气泡！ 只做观察，不要做任何操作。
⑤ 检查是否有水进入内部。		从水中取出机壳，确认没有水漏进机壳底部。
⑥ 浸水3分钟后检查。		仔细检查是否有气泡！ 操作常用钮，仔细检查是否有气泡！
⑦ 这是最终检查。检查硅胶是否变潮湿？		检查硅胶是否变潮湿？ 请仔细检查！
⑧ 如无任何地方渗水，一切就绪。您可以在水下拍摄了。		现在一切就绪。

5. 拍摄后的处理方法

擦干水滴

拍摄完毕回到岸上后，擦干防水机壳上的水滴。用压缩空气或无纤维丝脱落的软布仔细擦去前后盖接缝、快门杆、把手、开/关拨盘上的水滴。

 注意：

特别是水滴留在防水机壳的前后盖之间或防水机壳与镜头防水罩之间时，水滴容易在打开防水机壳时进入其内部。请仔细地擦干水滴。

取出数码照相机

首先，打开本防水机壳的开/关拨盘，小心打开后盖。如果热靴电缆仍与照相机相连，请取下它，然后取下机壳的调焦拨盘和模式拨盘，这样它们不会影响您取下照相机，最后取出照相机。

 注意：

- 打开防水机壳和装卸镜头防水罩时，请充分注意勿让头发或身体上的水滴落进防水机壳内部或照相机上。
- 打开防水机壳和装卸镜头防水罩时，请确保双手或手套上无沙粒或纤维等异物。
- 请勿在沙粒或水滴飞溅的地方开关防水机壳和装卸镜头防水罩。在更换电池或存储卡等无法避免的情况下，请支起遮蔽物进行操作，并注意勿溅到沙粒和水滴。
- 手上沾有海水时，注意不要触摸数码照相机和电池。

用清水清洗防水机壳

使用完毕后，请把空防水机壳再次密封，并尽快地用清水充分清洗。
在海水中使用过后，将防水机壳浸入清水中一定时间（三十分钟到一个小时），以有效地清除其盐份。

 注意：

- 当防水机壳局部受到高压的冲击时，有可能造成渗水。用水清洗防水机壳前请取出安装在内数码照相机。
- 在清洗时，请在水中操作快门杆等各种按钮以清除粘在其轴杆上的盐份。绝对不要拆解开来清洗。
- 盐份在机壳上干燥，可能会削弱其功能。请务必在使用后马上洗净所有盐份。



晾干防水机壳

用清水清洗后，使用无任何盐份和无纤维丝脱落的软布擦干水滴并在阴凉通风处晾干。



注意：

请勿使用电风筒吹干，也不要将防水机壳直接暴露于阳光下，因为这可能会加速防水机壳的老化和变形以及O形环的老化而导致渗水。

擦拭防水机壳时，请注意不要留下刮痕。

6. 防水功能的维护

O形环是消耗品。在每次使用之前请实施适当的检修，务必保证按下述所示执行O型环维护操作。忽视此步骤有可能造成渗水。
将手洗净吹干后，在一个无沙、无灰尘的地方进行。

取下O形环

打开防水机壳，取下安装于防水机壳的O形环。

取下O形环的方法

- ① 将O形环卸载器插入O形环和O形环槽壁之间。
- ② 在O形环下移动插入卸载器的前端。（请小心不要让O形环卸载器的前端损伤O形环槽。）
- ③ 在O形环脱出O形环槽时用手指将其拉出防水机壳外。

清除沙粒、灰尘等

清除O形环上肉眼可视的灰尘后，可用指尖触压O形环整个圆周来检查是否粘有沙粒等异物以及是否有损坏和破裂。

使用不容易脱落纤维丝的干净布、或不容易起球的棉棒等清除各O形环槽中的异物。并以同样方法清除防水机壳O形环各接触面的沙粒和灰尘。

注意：

- 使用尖锐物卸载O形环或清洁O形环槽内部时，可能损坏O形环和防水机壳并造成渗水。
- 当用指尖检查O形环时，注意不要拉扯O形环。
- 请勿使用酒精、稀释剂、苯类等有机溶剂或化学清洁剂等清洗O形环。使用这些化学试剂有可能损坏O形环并加速其老化。

安装O形环

确定没有异物后，在O形环上薄薄地涂上一层附带的O形环软膏并将O形环嵌入O形环槽。此时，请注意不要让O形环从槽中脱出。即使是一根头发或一粒细小的沙粒都有可能造成渗水。

如何使用O形环软膏

① 将奥林巴斯专用软膏涂至每个O形环。		确认手指和O形环上未粘有灰尘，然后把硅树脂软膏挤到手指上，挤出约5毫米长。（5毫米长的硅树脂软膏为适量。）
② 把硅树脂软膏涂布到全体。		用3根手指象夹东西一样把涂在手指上的硅树脂软膏涂遍O形环全体。请注意不要用力拉扯O形环。
③ 检查有无伤痕和凹凸处。		确认硅树脂软膏已涂布在全体，用手感和目测检查上面是否有伤痕或凹凸处。如发现伤痕请务必将其换成新品。
④ 把硅树脂软膏涂布到接触面。		残留在手指上的硅树脂软膏用来清除防水机壳接触面或补充涂布。

⚠ 注意：

- 即使机壳每次拍摄时已打开，也请务必执行防水功能的维护。忽视此步骤有可能造成渗水。
- 长时间不使用时，为防止变形，请将O形环从槽中取出，薄薄地涂一层硅树脂软膏后保存于干净的塑料袋等物中。

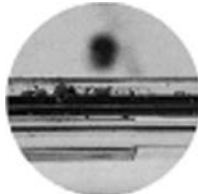
异物粘在O形环上的示例



头发



纤维



沙粒

更换消耗品

- O 形环是消耗品。不论防水机壳使用过多少次，建议至少每年更换一次新品。
- O 形环因使用环境和存放环境而加速老化。如果未满一年 O 形环损坏、出现破裂及失去弹性，也请立即更换。

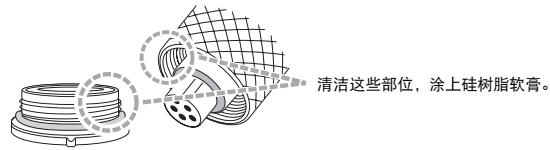
⚠ 注意：

- 请使用纯正的奥林巴斯硅树脂软膏、硅胶和 O 型环。
- 请勿尝试自行更换 O 型环。
- 建议定期进行检查。

TTL 连接器和 TTL 电缆固定螺丝部的维护

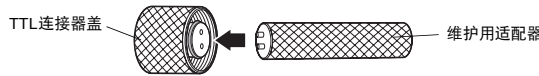
TTL 连接器与 TTL 电缆连接时，固定用螺丝部位如不及时进行维护，会残留有海水中的盐份等结晶，引起粘连而使螺丝无法旋开。

在海水中使用后，应尽快清除残留的盐份、沙子或其他残留物，并彻底干燥。用棉棒清洁螺丝部分后，涂上一层薄而均匀的硅树脂软膏（附带）。

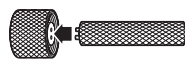


TTL 连接器盖的维护

将 TTL 连接器盖从本体上取下时，必须防水机壳侧的 O 形环。使用维护用适配器，取出 TTL 连接器盖内的 O 形环部分。



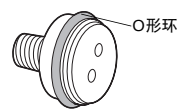
① 适配器的触点与盖侧的孔吻合后相嵌。



② 按逆时针方向旋转适配器，取下 O 形环部分。



③ 取下 O 形环部分的 O 形环后清洁 O 形环槽，在 O 形环上再次涂上硅树脂软膏后装到 O 形环部分上。



* 按取出 O 形环部分相反的顺序将 TTL 连接器盖安装于本体。

Cs

7. 附录

规格

对应照相机型号	奥林巴斯数码照相机 E-620
耐压能力	下至 40 米的深度
主要材料	机身：聚碳酸酯树脂。 开/关拨盘/快门杆/主电源开关拨盘/模式拨盘/控制面板拨盘/照相机台：聚碳酸酯树脂。 镜头防水罩安装部/防水机壳取景器框架/另售支架安装部/调焦拨盘齿轮/TTL连接器盖：铝 操作按钮/手带环的轴：不锈钢。 机身盖：ABS树脂。 O形环/液晶显示屏内遮光罩：硅橡胶。 液晶显示屏遮光罩：聚乙烯橡胶。
尺寸	宽 208.0 毫米 × 高 169.0 毫米 × 厚 144.0 毫米
重量	1,340 克（不包括照相机和配备品）

* 改变外观和规格时，恕不另行通知。

为PT-E06提供的附件

O型环（用于后盖）：POL-E06A
O型环（用于前盖）：POL-E06B
硅树脂软膏：PSOLG-2
硅胶：SILCA-5S
液晶显示屏遮光罩：PFUD-E06
照相机台：PTMO-E05
手带：PST-E02
机身盖：PBC-E02
TTL 连接器盖：PTAC-E04

镜头防水罩

镜头防水罩	最大水深	对应镜头	备考
PPO-E01	60米	14-45毫米	附带14-45毫米镜头专用的PPZR-E01防水调焦齿轮。
		35毫米近拍	不能使用附带的PPZR-E01调焦齿轮。使用另售的PPZR-E04防水对焦齿轮可将对焦环旋转角度增至360°。物镜前方的放大倍率约为x0.6。
PPO-E02	60米	14-54毫米 14-54毫米II	附带14-54毫米，14-54毫米II或11-22毫米镜头专用的PPZR-E02防水调焦齿轮。
		11-22毫米	
PPO-E03	60米	50毫米近拍	可使用提供的PPZR-E01手动对焦，但对焦环旋转范围为180°。使用另售的PPZR-E04防水对焦齿轮可将对焦环旋转角度增至360°。
PER-E01	60米	EC-14	使用EC-14时，将它安装在镜头防水罩和PT-E系列机壳之间。 使用EC-14时无法进行镜头调焦和手动对焦。
PPO-E04 +PER-E02	60米	7-14毫米	PER-E02附带7-14毫米镜头专用的PPZR-E03防水调焦齿轮。
PPO-E04	60米	8毫米鱼眼镜头	使用另售的PPZR-E05防水对焦齿轮可360°旋转对焦环。
		9-18毫米鱼眼镜头	使用另售的PPZR-E07专用齿轮，可实现调焦操作。
PPO-E05	40米	14-42毫米	附带14-42毫米镜头专用的PPZR-E06防水调焦齿轮。

将镜头防水罩与PT-E06机壳结合使用时，此组合的极限深度为镜头防水罩标称的40米。虽然PT-E06机壳的标称极限深度为60米，但这种情况下为40米。

选购附件

硅树脂软膏：PSOLG-3

水下光纤电缆：PTCB-E02

TTL 电缆：PTCB-E01

热靴电缆：PHCB-01

托架：PTBK-E01，PTBK-E02

* 当把PTBK-E01与本机壳组合使用时，螺纹部分需要使用专用垫圈。

如果您有未装配专用垫圈的PTBK-E01，请联系客户支持中心。

附件可另行购买。但不能用于上述之外的产品型号。



<http://www.olympus.com/>

OLYMPUS IMAGING CORP.

Shinjuku Monolith, 3-1 Nishi-Shinjuku 2-chome, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan

奥林巴斯(上海)映像销售有限公司

主页: <http://www.olympus.com.cn>

客户服务中心:

北京: 北京市朝阳区建国门外大街甲12号新华保险大厦 12层 1212 室

电话: 010-8518-0009 传真: 010-6569-3356 邮编: 100022

上海: 上海市徐汇区淮海中路1010号 嘉华中心 4506

电话: 021-5170-6300 传真: 021-5170-6306 邮编: 200031

广州: 广州市环市东路 403 号广州国际电子大厦 1605-1608 室

电话: 020-6122-7111 传真: 020-6122-7120 邮编: 510095

免费热线咨询电话: 800-810-7776

奥林巴斯香港中国有限公司

香港九龙旺角亚皆老街8号朗豪坊办公大楼 L-43

电话: +852-2481-7812 传真: +852-2730-7976

香港奥林巴斯数码相机维修服务中心

香港九龙旺角亚皆老街8号朗豪坊办公大楼 L-4207室

电话: +852-2376-2150 传真: +852-2375-0630

<http://www.olympus.com.hk>

OLYMPUS IMAGING AMERICA INC.

3500 Corporate Parkway, P.O. Box 610, Center Valley, PA 18034-0610, U.S.A. Tel. 484-896-5000

技术服务 (U.S.A.)

全年无间断线上自动帮助: <http://www.olympusamerica.com/support>

OLYMPUS IMAGING EUROPA GMBH

Wendenstrasse 14-18, 20097 Hamburg, Germany

电话: +49 40-23 77 3-0 / 传真: +49 40-23 07 61

用户技术服务:

请访问本公司网页 <http://www.olympus-europa.com>



MEMO

- 본 방수 케이스 PT-E06(이하 “케이스” 라고 함) 을 구입해 주셔서 감사합니다.
- 케이스를 사용하기 전에 본 사용 설명서를 숙지하셔서 최고의 성능을 만끽하시고 안전하게 제품을 사용하기 바랍니다. 본 매뉴얼을 보관하셨다가 필요시 편리하게 참조하시기 바랍니다.
- 잘못 사용하실 경우 누수로 인해 카메라에 수리가 불가능한 치명적인 문제를 일으킬 수 있습니다.
- 방수 케이스를 사용하시기 전에 본 설명서에 따라 필요한 사항을 사전에 검토하시기 바랍니다.

사용하시기 전에

- 본 사용 설명서의 어떠한 부분도 무단으로 복제하거나 배포할 수 없습니다. 단, 개인 참조용에 한해 복사하실 수 있습니다. 또한 무단게재를 금합니다.
- OLYMPUS IMAGING CORP. 는 본 제품을 잘못 사용하여 발생한 손해의 경우, 어떠한 비용 손실이나 클레임에 대하여도 책임을 지지 않습니다.

사용에 앞서 다음 사항을 꼭 숙지하시기 바랍니다

- 본 방수 케이스는 수심 40 m 내에서만 사용 가능한 정밀 장비입니다. 특별한 주의가 요구됩니다.
- 방수 케이스 사용법, 사전 체크사항, 유지보수 및 사후관리 등본 사용 설명서를 완전히 숙지하신 후 제품을 사용하기 바랍니다.
- 방수 케이스 사용시, 반드시 별매의 방수 포트와 겸용해서 사용하여 주십시오.
- OLYMPUS IMAGING CORP. 는 디지털 카메라를 물에 빠뜨렸을 경우에 발생하는 어떠한 사고에 대해서도 책임을 지지 않습니다. 이외에도, 내부 소재 손상으로 초래된 비용 또는 카메라 침수로 인한 저장된 내용물의 손실은 보상되지 않습니다.
- OLYMPUS IMAGING CORP. 는 사용 중 발생하는 상해나 물질적 손해에 대해 어떠한 책임도 지지 않습니다.

안전한 사용을 위해

본 사용 설명서에는 올바른 제품 사용과 인명 및 재산상의 피해를 방지하기 위해서 다음과 같이 다양한 기호를 사용하고 있습니다. 그 기호와 의미는 다음과 같습니다.

 경고	이것은 이 표시를 무시하고 취급하는 경우 사망 또는 중상을 초래할 가능성이 있음을 나타내는 것입니다.
 주의	이것은 이 표시를 무시하고 취급하는 경우 부상 또는 재산상의 피해를 초래할 가능성이 있음을 나타내는 것입니다.

⚠ 경고

- ① 영아, 유아 및 어린이의 손이 닿지 않는 곳에 보관하시기 바랍니다. 그렇지 않을 경우, 다음과 같은 사고의 원인이 됩니다.
 - 높은 곳에서 떨어뜨릴 경우 신체적인 손상을 입습니다.
 - 카페 부분에 걸릴 경우 신체적인 손상을 입습니다.
 - 작은 부품, O-링, 실리콘 윤활제, 실리콘겔을 삼킬 우려가 있습니다. 작은 부품을 삼켰을 시에는 즉시 전문의의 진찰을 받아야 합니다.
- ② 디지털 카메라의 배터리를 제거한 후 방수 케이스에 카메라를 보관하시기 바랍니다. 그렇지 않을 경우, 배터리액 유출 및 화재의 원인이 됩니다.
- ③ 방수 케이스 사용시, 반드시 별매의 방수 포트와 겸용해서 사용하여 주십시오. 본 제품 단독으로는 사용할 수 없습니다.
- ④ 본 방수 케이스에 카메라를 설치한 상태에서 누수가 발생한다면 즉시 카메라의 배터리를 제거해야 합니다. 그렇지 않을 경우, 수소로 인한 화재 및 폭발의 위험이 있습니다.
- ⑤ 본 제품의 소재는 수지로 되어 있습니다. 그러므로, 바위나 기타 단단한 물질의 심한 충격으로 인해 파손되면 상해를 입을 수 있습니다. 특별한 주의가 요구됩니다.

⚠ 주의

- ① 분해하거나 개조하지 마십시오. 누수 또는 고장의 원인이 될 수 있습니다. OLYMPUS IMAGING CORP 가 지정하지 않은 부품으로 수리, 변경 또는 분해하여 이미지 데이터가 손실될 경우, 당사는 손상에 대해 책임지지 않습니다.
- ② 다음과 같은 장소에서 제품을 사용하거나 보관할 경우 작동 오류, 고장, 손상, 화재, 내부 결로 또는 누수 등이 발생할 수 있으므로 이러한 장소는 피하도록 주의하십시오.
 - 적사광선에 노출되어 있거나 자동차 내부처럼 온도가 매우 높은 곳
 - 열기가 있는 부근
 - 수심이 40m 이상인 곳
 - 진동이 있는 곳
 - 온도와 습도가 높은 장소 또는 온도 변화가 심한 곳
 - 근처에 휘발성 물질이 있는 경우
- ③ 모래, 흙이나 먼지가 있는 곳에서 케이스를 열고 닫을 경우 방수 기능 저하로 누수의 원인이 됩니다. 주의하시기 바랍니다.
- ④ 본 제품은 제품 내부의 카메라에 미치는 충격을 완화시키는 케이스가 아닙니다. 디지털 카메라가 내부에 들어있는 채로 충격이 가해지거나 무거운 물체를 올려놓을 경우, 디지털 카메라가 손상될 수 있습니다. 특별히 주의하여 취급해 주십시오.
- ⑤ 세척 · 부식 · 서리 방지 · 보수 등의 목적으로 아래의 화학 제품을 사용하지 마십시오. 케이스에 직접, 혹은 간접적 (약제가 기화된 상태) 으로 사용한 경우, 고압등으로 인해 케이스가 파손될 수도 있습니다.

금지 화학 물질	설명
휘발성 유기 용매, 화학 세제	케이스를 알코올, 가솔린, 휘발성 유기 용매나 화학 세제 등으로 세척하지 마십시오. 깨끗한 물이나 미지근한 물로도 충분히 세척이 가능합니다.
부식 방지제	부식 방지제를 사용하지 마십시오. 본 케이스의 금속 부분은 스테인레스 스틸이나 합금으로 이루어져 있으므로 물을 이용해 충분히 세척할 수 있습니다.
서리 제거제	시판용의 서리 제거제를 사용하지 마십시오. 정해진 실리콘겔을 사용하십시오.
정해진 실리콘 윤활제 이외의 윤활유	실리콘 O-링에 정해진 윤활제만 사용하십시오. 그렇지 않을 경우 O-링 표면이 약화되거나 누수의 원인이 됩니다.
접착제	수리 등의 용도로 접착제를 사용하지 마십시오. 수리가 필요한 경우에는 가까운 올림푸스 대리점이나 서비스 센터에 문의하시기 바랍니다.

- 
- ⑥ 케이스를 주머니에 넣거나 손에 든 채로 물에 들어갈 경우, 물에 빠뜨릴 수 있으며 부주의한 사용으로 인해 누수를 일으킬 수 있는 원인이 될 수도 있습니다. 손으로 건네줄 때 등 취급에는 각별한 주의가 필요합니다.
 - ⑦ 누수 등으로 인해 카메라가 젖었을 경우에는 즉시 물기를 완전히 제거하고 조작 상태를 점검합니다.
 - ⑧ 포트 커넥터, TTL 케이블 커넥터, 줌 다이얼, 삼각대 시트 등에 무리한 힘을 가하지 않도록 주의하십시오.
 - ⑨ 공기 빼기 밸브를 안쪽에서 누르지 마십시오.
 - ⑩ 항공 운반시에는 O-링을 제거해야 합니다. 그렇지 않을 경우, 공기 압력으로 인해 케이스가 열리지 않습니다.
 - ⑪ 디지털 카메라의 안전한 사용을 위해 디지털 카메라 사용 설명서를 꼭 숙지하시기 바랍니다.
 - ⑫ 케이스 밀봉시 O-링 및 접촉면에 이물질이 들어가지 않도록 각별히 주의하셔야 합니다.
 - ⑬ 케이스가 외장 Olympus 플래시와 결합되어 있는 경우 카메라의 내장 플래시를 사용할 수 없습니다. 또한, 카메라의 내장 플래시는 핫슈 케이블이 카메라의 핫슈에 연결돼 있으면 튀어나오지 않습니다. 내장 플래시를 강제로 잡아 빼면 연결된 플래시가 제대로 작동하지 않으며 핫슈 케이블이 카메라의 핫슈에서 분리될 수도 있습니다. 그러면 카메라도 손상될 수 있습니다.
 - ⑭ 카메라가 케이스에 장착돼 있으면 카메라의 내장 플래시를 사용할 수 없습니다.

목차

Kr



7. 부록.....25

 제품 규격 25

 PT-E06 제공 부속품 25

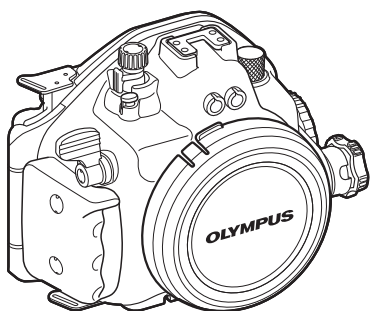
 방수 포트 26

 별매 부속품 26

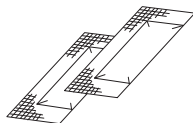
1. 시작하기

구성품 확인

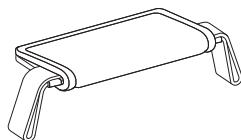
아래의 구성품이 모두 포함되어 있는지 확인하시기 바랍니다.
부품이 들어있지 않거나 손상된 상태라면 가까운 올림푸스 대리점으로 문의하십시오.



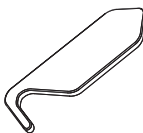
- 케이스 본체
(전면과 후면 케이스 모두에 O-링이 설치되어 있는지 확인하십시오.)



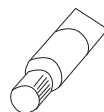
- 실리콘젤 (2g)



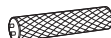
- 핸드 스트랩



- O-링 제거용 픽



- 실리콘 윤활제



- 예비용 어댑터

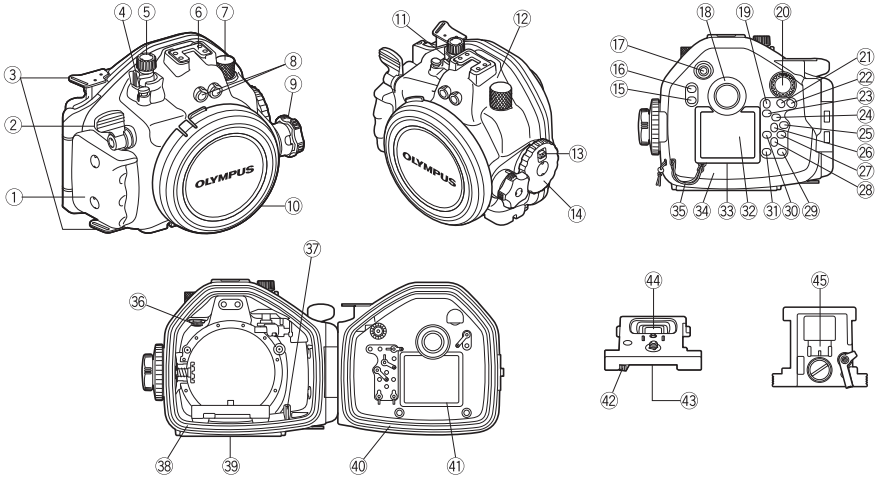
- 판매 대리점 리스트/서비스 센터 리스트
- 사용 설명서 (본 매뉴얼)

⚠ 주의:

구입한 지 얼마 되지 않은 경우에도 반드시 유지관리를 실시해 주십시오. 유지관리를 소홀히 할 경우, 누수의 원인이 될 수 있습니다.

케이스 유지관리 방법에 대해서는 P.22를 참조하시기 바랍니다.

부품 명칭



- | | | |
|-------------------|-----------------|--------------------------|
| ① 팜 그립 | ①⑦ 공기 빼기 밸브 | ③③ LCD 후드 |
| *② 셔터 레버 | ①⑧ 픽업 파인더 | ③④ 후면 리드 |
| ③ 핸드 스트랩 고리 | *①⑨ AEL/AFL 버튼 | ③⑤ LCD 후드 스트랩 |
| *④ (노출보정) 버튼 | *②① 컨트롤 다이얼 손잡이 | ③⑥ 핫슈 케이블 연결부
(무경 첨부) |
| *⑤ 모드 다이얼 손잡이 | *②② Fn 버튼 | ③⑦ 장착 가이드 레일 |
| ⑥ 약세사리 부착부 | *②③ (AF 타깃) 버튼 | ③⑧ O-링 (POL-E06B) |
| ⑦ TTL 커넥터 | *②④ (재생) 버튼 | ③⑨ 삼각대 포트 |
| ⑧ 광 섬유 케이블 삽입구, 캡 | *②⑤ 버튼 | ④① O-링 (POL-E06A) |
| *⑨ 줌 다이얼 | *②⑥ 십자버튼 ▲ | ④② LCD 내부 후드 |
| ⑩ 프론트 캡 | *②⑦ 십자버튼 ► | ④③ 카메라대 락 |
| *⑪ 전원 스위치 레버 | *②⑧ 십자버튼 ▼ | ④④ 아이캡 수납부 |
| ⑫ 전면 리드 | *②⑨ IS 버튼 | ④⑤ 핫슈커버 수납부 |
| ⑬ 슬라이드 락 | *③① 버튼십자버튼 ◀ | |
| ⑭ 개폐 다이얼 | *③② (삭제) | |
| *⑮ MENU 버튼 | ③③ LCD 모니터 창 | |
| *⑯ INFO (정보표시) 버튼 | | |

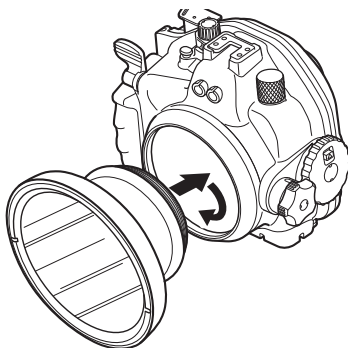
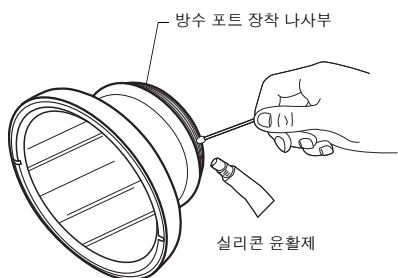
메모:

* 표시가 된 부품은 디지털 카메라 조작시 이용 가능합니다. 따라서 케이스의 조작 부품 사용시 디지털 카메라의 해당 기능을 수행할 수 있습니다. 자세한 사항은 디지털 카메라 사용 설명서를 참조하시기 바랍니다.

별매의 방수 포트 연결하기

본 제품은 디지털 카메라에 장착 되어있는 렌즈에 맞추어 케이스 본체 전면에 렌즈용 방수 포트를 장착하고 수중에서 사용 하실 수 있습니다.

- 케이스 본체에 방수 포트를 장착할 경우에는 방수 케이스 부속의 사용설명서를 숙지 한 후 장착하여 주십시오.
- 본 제품 부속의 실리콘 윤활제는 장착할 방수 포트의 O-링부 및 케이스 본체의 방수 포트 장착부에 적당량을 바릅니다.
- 방수 포트를 케이스 본체에 시계 방향으로 멈출 때까지 돌려서 고정합니다.

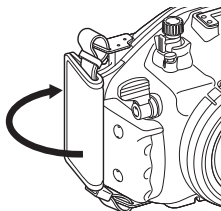
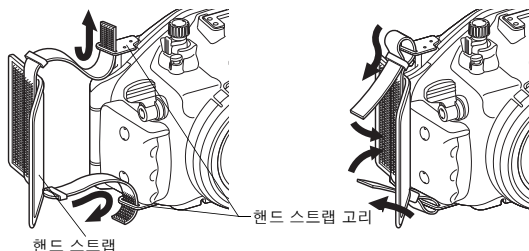


⚠ 주의:

수심이 40 m 이상되는 수중에서는 케이스를 사용하지 마십시오. 부착된 수중 렌즈 포트나 기타 장비가 40 m 이상 수심에서 견딜 수 있다 해도 케이스 자체는 40 m 이상 수심에서 사용할 수 없습니다.

핸드 스트랩 연결하기

케이스 본체에 핸드 스트랩을 연결합니다.

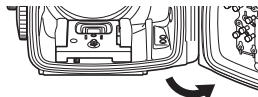


카메라대의 장착방법과 분리방법

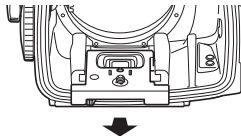
본 케이스의 전면 리드 내부에 있는 카메라대는 디지털 카메라를 케이스 안에 장착하는 데 사용됩니다.

카메라대 분리방법

- ① 본 케이스의 슬라이드 락을 잡고 개폐 다이얼을 연 후, 후면 리드를 엽니다.

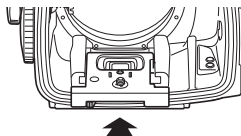


- ② 카메라대 락을 왼쪽으로 밀어 잠금을 풉니다.
카메라대를 앞으로 잡아 당깁니다.

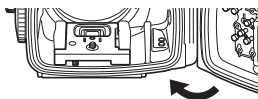


카메라대 부착방법

- ① 카메라대를 케이스의 전면 리드측 내부에 있는 카메라대 장착 홈으로 끝까지 밀어넣습니다.
카메라대 락을 오른쪽으로 밀어 잠급니다.



- ② 케이스의 후면 리드를 부드럽게 닫고 개폐 다이얼을 닫고 고정시킵니다.



⚠ 주의:

카메라대를 끝까지 삽입하여 (멈출 때까지) 카메라대 장착 홈에 안착하기 전에 케이스의 후면 리드를 닫으면 케이스와 카메라가 손상될 수 있습니다.

2. 케이스 사전 점검

사용 전 사전 검사

본 케이스는 제조 과정 중에 부품에 대한 품질 검사와 조립 과정에서의 기능 검사 등을 수행하도록 되어 있습니다. 또한 방수 성능의 규격 준수여부를 확인하기 위해서 모든 제품에 대하여 수압 시험기를 이용한 수압 시험을 수행합니다.

운반과 보관 및 유지 상태에 따라서 방수 성능이 다르게 나타납니다.

사용하기 전에 항상 다음 항목을 먼저 확인하시기 바랍니다.

케이스의 방수 부분 체크

본 케이스의 방수 부분을 여기저기 확인합니다.

- ① 케이스의 O-링이 확실하게 장착되어, 슬라이드 락과 개폐 다이얼에 의해 잠겨져 있을 것.
- ② 케이스 본체에 별매의 방수 포트를 장착하고 케이스 본체와 방수 포트 부분의 O-링이 확실하게 장착되어 케이스와 방수 포트가 올바르게 장착되어 있을 것.
- ③ TTL 커넥터 캡의 O-링이 확실하게 장착되어 뚜껑이 느슨하지 않게 연결기에 잠겨져 있을 것..

사전 검사

- ① 디지털 카메라를 케이스에 넣기 전에 먼저 빈 케이스를 물에 담가 누수가 되지 않는지 확인하십시오. 그것이 어렵다면 "누수 점검"(P.19)을 참조하여 누수가 있는지 확인할 수도 있습니다.
 - ② 누수의 주요 원인은 다음과 같습니다.
 - O-링이 설치되어 있지 않음
 - O-링의 한부분 또는 전체 O-링은 지정된 홈의 외부에 있습니다.
 - O-링이 손상, 성능 악화 또는 변형되었습니다
 - O-링 및 O-링 홈, 각 O-링 접촉면에 모래 섬유, 머리카락 또는 이물질 등이 묻어있음.
 - 각 O-링 접촉면이나 O-링 홈내의 손상.
 - 후케이스를 닫을 때에는 핸드 스트랩이나 실리카겔 등이 케이스 사이에 끼워 있는지 확인하십시오.
- 테스트는 이상의 원인들을 조치한 후 실시하여 주십시오.**

⚠ 주의:

사전 시험 결과 정상적인 환경에서 누수가 발생할 경우, 케이스 사용을 중지 하시고 가까운 올림푸스 대리점이나 서비스 센터로 문의하시기 바랍니다.

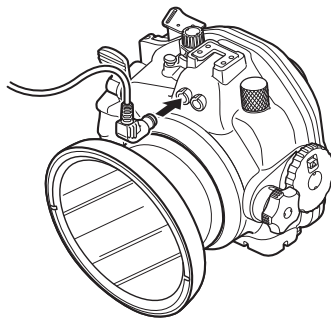
3. 전자 플래시 연결 방법

수중 광섬유 케이블 연결하기

수중 광섬유 케이블을 사용하여 UFL-2 수중 플래시(별매)를 케이스에 연결하려면 아래의 순서에 따라 실시해 주십시오.

수중 광섬유 케이블 연결방법

- ① 광섬유 케이블 삽입 슬롯의 캡을 제거합니다.



- ② 수중 광섬유 케이블 플러그를 광섬유 케이블 삽입 슬롯에 끼워 넣습니다.

디지털 카메라 설정

- ① 카메라의 RC 모드를 ON으로 설정하여 카메라의 내장 플래시를 활성화시킵니다.
② 카메라를 케이스 내에 장착할 때에 카메라의 내장 플래시는 팝업상태로 설정합니다.

UFL-2 작동에 대해서는 UFL-2 설명서를 참조하십시오.

⚠ 주의:

올림푸스 이외의 제조사가 만든 수중 광섬유 케이블이 있는 슬레이브형 플래시를 사용하는 경우에는 카메라의 내장 플래시를 수동으로 설정합니다.

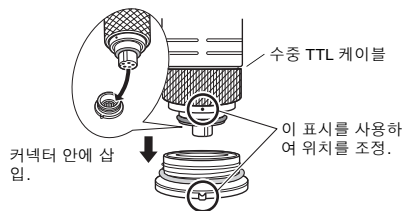
카메라의 내장 플래시 비율이 1/64 이상일 경우, 카메라의 내장 플래시등이 렌즈 포트에 반사되어 사진에 나타날 수 있습니다.

TTL 케이블을 사용하는 경우

수중 TTL 케이블(별매: PTCB-E01)과 별매 전자 플래시를 연결할 경우, 핫슈 케이블(별매: PHCB-01)을 카메라와 케이스의 전면 커버에 연결합니다.

수중 TTL 케이블 연결하기

- ① 케이스의 TTL 커넥터 캡을 반시계 방향으로 돌려 제거합니다.
- ② 수중 TTL 케이블(별매: PTCB-E01)을 케이스에 있는 TTL 커넥터에 연결합니다.

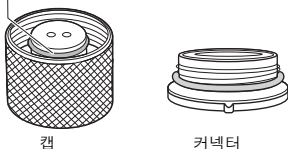


- ③ 수중 TTL 케이블을 사용하지 않을 경우, TTL 커넥터 캡을 부착합니다.

캡 내부의 O-링과 TTL 케이블 커넥터에 이물질이 없는지 확인하십시오. 그 다음 멈출 때까지 시계 방향으로 부드럽게 돌리십시오



O-링 확인

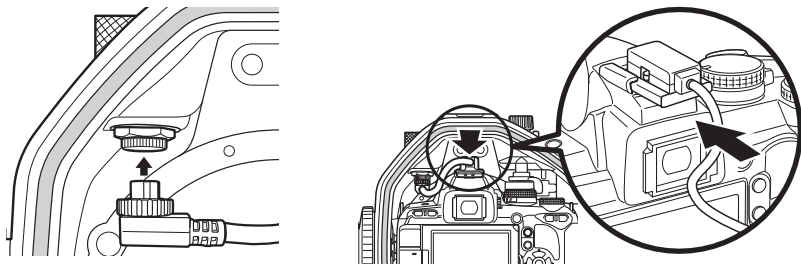


⚠ 주의:

TTL 커넥터 캡이 느슨하면 누수가 발생할 수 있습니다.

핫슈 케이블 연결방법

- ① 케이스 내부에 있는 핫슈 케이블 커넥터 캡을 반시계 방향으로 돌려 제거하십시오.
- ② 핫슈 케이블의 커넥터를 케이스 커넥터 안에 삽입하고 커넥터 나사를 시계 방향으로 끝까지 돌려 단단히 연결하십시오.
- ③ 카메라를 케이스 내부에 장착한 다음 핫슈 케이블을 카메라에 연결합니다.



디지털 카메라 설정

- ① 카메라의 자동 팝업 설정을 **OFF**로 설정하십시오. 카메라의 내장 플래시는 자동 또는 수중 모드 이외에 조도가 낮거나 역광으로 촬영할 때 자동으로 팝업하도록 설계되어 있습니다. 카메라 기능 설정에 대한 세부사항은 카메라 설명서를 참조하시기 바랍니다.
- ② 카메라를 켜기 전에 먼저 전자 플래시를 켜십시오.
전자 플래시를 사용할 경우, 카메라를 켜기 전에 먼저 플래시를 켜는지 확인하십시오.
카메라의 자동 팝업 설정을 켜고 카메라가 자동 또는 수중 모드 이외의 모드로 설정되어 있을 경우, 전자 플래시를 켜기 전에 카메라를 켜면 카메라의 내장 플래시가 자동으로 팝업하게 됩니다. 카메라를 켜기 전에 반드시 전자 플래시를 켜시기 바랍니다.

주의:

- 핫슈 케이블이 카메라에 연결되어 있는 중에 카메라의 내장 플래시가 팝업하는 경우, 핫슈 케이블을 방해하여 이를 분리하거나 연결 오류가 발생할 수 있습니다.
- 올림푸스 이외의 제조사에서 만든 슬레이브형 수중 플래시를 사용하는 경우, 카메라의 내장 플래시를 케이스에 장착하기 전에 먼저 팝업해 두십시오.
- 일단 케이스를 밀봉하면 내장 플래시를 팝업하거나 장착할 수 없습니다.

4. 디지털 카메라 장착하기

디지털 카메라 확인

디지털 카메라를 케이스에 장착하기 전에 다음과 같은 기본 사항을 확인하십시오.

1. 배터리 확인

수중에서 촬영하면 촬영 전과 후에 LCD 모니터로 사진을 확인해야 하므로 배터리 수명이 단축될 수 있습니다. 사용하기 전에 배터리 잔여량이 충분한지 확인해 주십시오.

2. 촬영 가능횟수 확인

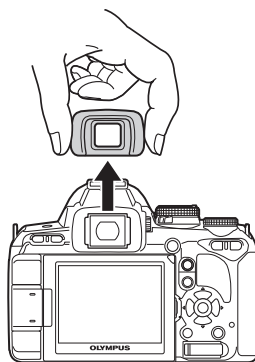
사진 저장용 메모리가 촬영할 사진들을 저장하기에 충분한지 확인하십시오.

3. 디지털 카메라의 스트랩 또는 렌즈 뚜껑을 분리합니다.

스트랩과 렌즈 뚜껑을 벗기지 않고 디지털 카메라를 장착한 경우 케이스가 올바르게 잠기지 않고, 누수의 원인이 되는 경우가 있습니다.

4. 디지털 카메라의 아이컵을 분리합니다

픽업 파인더가 잘 보이게 하기 위해서는, 디지털 카메라의 아이 컵을 분리해서 본 케이스에 디지털 카메라를 장착합니다.



⚠ 주의:

아이컵을 분리하지 않고 디지털 카메라를 장착하여 본 케이스 후면 리드를 닫았을 경우에는 픽업 뷰파인더가 튀어나옵니다.

아이컵을 분리한 후, 픽업 뷰파인더를 밀어 넣어 주십시오.

5. 디지털 카메라의 필터를 분리합니다

디지털 카메라의 렌즈에 필터가 부착되어 있는 경우에는 필터를 분리한 후 케이스에 디지털 카메라를 장착합니다.

케이스 열기

- ① 슬라이드 락을 화살표의 방향(①)으로 말면서 개폐 다이얼을 반시계 방향(②)으로 돌립니다.
- ② 개폐 다이얼의 회전이 멈출 때까지 돌립니다.
- ③ 케이스의 후면 리드를 부드럽게 엽니다.



⚠ 주의:

개폐 다이얼에 무리한 힘을 가해 돌리지 마십시오. 다이얼이 파손될 수 있습니다.

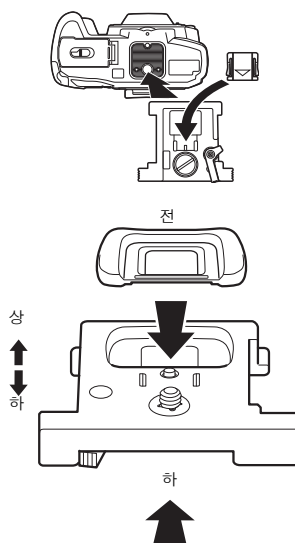
디지털 카메라에 카메라대 부착하기

디지털 카메라를 장착 할 때는 본 케이스 전면 리드측 내부에 설치되어 있는 카메라대를 디지털 카메라에 장착합니다.

- ① 디지털 카메라의 아이캡과 핫슈커버를 카메라대에 수납할 수 있습니다.

- ② 디지털 카메라 아래부분의 삼각대부분에 카메라대를 장착합니다. 장착은 디지털 카메라의 삼각대 구멍을 사용합니다.

- ③ 카메라대는 상하와 전후로 움직일 수 있습니다. 오른쪽 그림을 참고로 틀리지 않도록 장착하십시오.

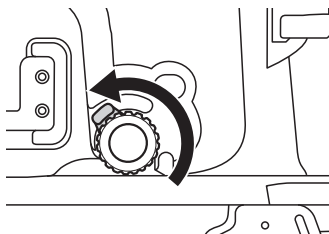


디지털 카메라를 케이스에 넣습니다

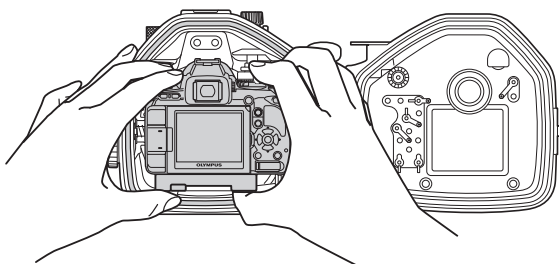
- ① 본 케이스의 줌 다이얼과 모드 다이얼 (전원 스위치 레버도 동시에 부상합니다) 을 디지털 카메라에 장착 시, 방해되지 않도록 떼어냅니다.



그때, 전원 스위치 레버의 방향을 아래 그림과 같은 위치에 맞춥니다.



- ② 디지털 카메라에 장착한 카메라대를 디지털 카메라와 함께 본 케이스의 카메라대 베이스에 장착합니다. 이 경우, 무리하지 않은 범위 내에서 부품에 방해되지 않은 지 확인하면서 가볍게 장착하십시오.



- ③ 디지털 카메라의 장착 전에 떼어내었던 본 케이스의 줌 다이얼과 모드 다이얼을 가볍게 밀어 넣고, 줌 다이얼로 줌 조작이 가능한 지, 전원 스위치 레버로 디지털 카메라의 전원을 ON/OFF 로 전환 가능한 지, 모드 다이얼로 카메라의 모드 다이얼이 조작 가능한 지 확인합니다.

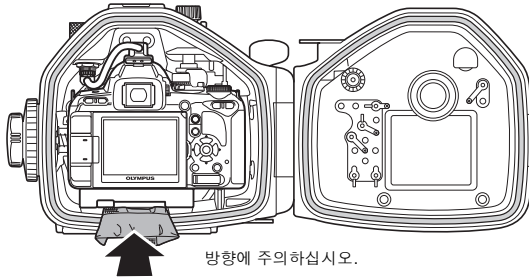


⚠ 주의:

- 디지털 카메라 장착전에 별매의 방수 포트의 사용설명서를 확인하고 렌즈의 줌 링과 포커스 링에 줌 기어와 포커스 기어에 장착하여 본 케이스에 장착시 줌 링과 포커스 링의 위치 결정을 올바르게 행한 후 본 케이스에 장착하십시오.
- 렌즈에 장착한 줌 기어와 포커스 기어, 본 케이스측의 줌 다이얼 기어가 올바르게 맞추어 있지 않으면 줌과 포커스를 조작할 수 없습니다. 또한 기어가 서로 맞물려 디지털 카메라를 장착할 경우 렌즈의 줌 범위와 포커스 범위가 제한 되는 경우가 있습니다. 별매 의 방수 포트 부속의 사용설명서는 잘 숙지한 후 올바르게 세트하십시오.

④ 실리카겔 삽입

케이스를 닫기 전에 카메라 바닥과 케이스 사이의 서리를 방지하기 위해서 실리카겔 백을 삽입합니다. 실리카겔은 양측을 아래로 꺾어 옆으로 넣어 주십시오.



⚠ 주의:

- 실리카겔 백을 제대로 삽입하지 않은 상태에서 케이스를 닫으려고 하면 실리카겔의 백이 O-링 사이에 끼어 누수의 원인이 됩니다.
- 사용한 실리카겔은 습기 흡수력이 감소됩니다. 케이스 개폐시에는 항상 새로운 실리카겔 사용을 권장합니다.

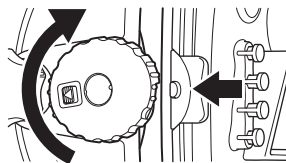
장착 상태 점검

케이스를 밀봉하기 전에 항상 다음과 같은 점검을 수행하십시오.

- 아이컵은 제대로 제거하였습니까?
- O-링 유지판리는 적절히 실시하였습니까?
- 줌 레버가 적절히 작동할 수 있도록 디지털 카메라를 장착하였는지?
- 지정된 곳에 실리카겔을 적절히 삽입하였습니까?
- 각 O-링과 접촉면에 먼지나 이물질은 없는지?
- O-링은 정상으로 장착되어 있는지?
- 전자 플래시와 TTL 연결하여 사용하는 경우, 핫슈 케이블이 적절히 연결되어 있는지 또한 카메라의 자동 팝업 설정이 OFF로 되어 있는지 확인합니다.
- 수중 전자 플래시 UFL-2를 수중 광 섬유 케이블로 연결하여 사용하는 경우나 올림푸스 이외의 제조업체가 만든 슬레이브 플래시를 사용할 때는 카메라의 내장 플래시가 올라와 있는지 확인합니다.

케이스를 밀봉합니다

- ① 후면 리드를 부드럽게 닫습니다 (그러면 O-링이 흡에서 빠져나오지 않습니다).
 - ② 개폐 다이얼을 시계 방향으로 돌립니다.
- 슬라이드 락의 위치가 위로 되면 케이스가 밀폐됩니다.



⚠ 주의:

개폐 다이얼을 완전히 돌리지 않으면 케이스가 밀폐되지 않아 누수 될 우려가 있으므로 주의해 주십시오.

장착 후의 조작 점검

케이스를 밀봉한 후 카메라가 정상적으로 기능하는지 확인합니다.

- 케이스의 전원 스위치 레버를 작동해서 카메라의 전원을 ON/OFF로 전환할 수 있는지 확인합니다.
- 케이스의 모드 다이얼 손잡이를 돌려서 카메라의 모드가 적절히 전환되는지 확인합니다.
- 케이스의 셔터 레버를 작동해서 카메라 셔터가 해제되는지 확인합니다.
- 케이스의 줌 다이얼을 조작해서, 렌즈의 줌 조작이 가능한지 확인합니다.
- 케이스의 다른 조절 버튼을 작동해서 카메라가 의도대로 적절히 기능하는지 확인합니다.

최종 점검 수행

육안 검사

케이스를 밀봉한 후, 케이스의 전면 리드, 후면 리드의 밀봉 부분 및 케이스 본체와 포트의 장착 부분의 주위를 바깥에서 보아 O-링의 굴절이나 이탈, 이물질의 삽입이 없는지 확인하십시오.

⚠ 주의:

머리카락, 섬유 및 기타 가느다란 물체의 경우 잘 보이지는 않지만 누수의 원인이 되므로 특별한 주의가 요구됩니다.

누수 점검

카메라를 장착한 후의 최종 점검은 아래에 설명되어 있습니다. 항상 이 점검을 실시해 주십시오. 물탱크 나 육조에서 손쉽게 점검하실 수 있습니다. 소요 시간은 약 5분 정도입니다.

간단한 누수 시험	설명 사진	주의 사항
① 케이스를 천천히 물속에 집어 넣습니다.		케이스의 후부가 투명하기 때문에 물방울이 안으로 들어갔는지 쉽게 확인할 수 있습니다.
② 처음에는 케이스를 3 초 정도만 물 속에 집어넣으십시오.		O-링에 문제가 있는 경우, 3 초면 물이 들어가기에 충분한 시간입니다. 리드 사이에서 기포가 발생하나요?
③ 케이스에 물이 스며 들지 않았는지 확인하십시오.		물속에서 케이스를 꺼내어 케이스 내부에 누수가 있는지 확인합니다.
④ 이번에는 케이스를 약 30 초 정도 물속에 집어 넣으십시오.		기포 발생 여부를 주의 깊게 확인하십시오. 특별한 조작없이 그냥 관찰만 하십시오.
⑤ 케이스에 물이 스며 들지 않았는지 확인하십시오.		물속에서 케이스를 꺼내어 케이스 바닥에 누수가 있는지 확인합니다.
⑥ 이번에는 케이스를 약 3 분 정도 물속에 집어 넣으십시오.		기포 발생 여부를 주의 깊게 확인하십시오. 자주 사용하는 버튼을 조작해 보고, 기포 발생 여부를 주의 깊게 확인하십시오.
⑦ 이제 마지막 점검입니다. 실리콘카겔에 물기가 있습니까?		실리카겔에 물기가 있습니까? 주의 깊게 살펴보십시오.
⑧ 어느 쪽이든 누수가 없으면 정상.		이제는 모든 것이 정상.

5. 촬영 후 취급 방법

물기 제거

사진 촬영을 다 마친 후에는 케이스의 물기를 완전히 닦아냅니다. 섬유 먼지가 없는 에어 브러시나 부드러운 천을 이용하여 전면과 후면 리드, 셔터 레버, 팜 그립 및 개폐 다이얼과 같은 이음새 부분의 물기를 모두 제거합니다.

⚠ 주의:

특히, 전면과 후면리드 사이에 물기가 남아 있으면 케이스를 열었을 때, 안쪽으로 물기가 흘러 들어갈 수 있으므로 물기를 완전히 제거하십시오. 이런 부분들을 잘 말려 주십시오.

디지털 카메라 꺼내기

본 케이스의 개폐 다이얼을 열고, 후면 리드를 주의해서 엽니다. 핫슈 케이블이 카메라에 연결되어 있으면 분리한 다음 케이스의 줌 다이얼과 모드 다이얼을 분리하여 카메라를 떼어낼 때 방해가 되지 않게 하고 카메라를 꺼냅니다.

⚠ 주의:

- 케이스를 열었을 때, 사용자의 머리카락이나 몸에서 물방울이 케이스와 카메라에 떨어지지 않도록 주의하십시오.
- 케이스를 열기 전에 손과 장갑에 모래 섬유 등 이물질이 없는지 확인하십시오.
- 물이나 모래가 흘날리는 곳에서 케이스를 열거나 닫지마십시오. 배터리 교환이나 이미지 저장들을 위해서 어쩔수 없는 경우라면 바람부는 쪽으로 바람막이를 설치하여 물이나 모래가 들어가지 않도록 주의하십시오.
- 바닷물에 젖은 손으로 디지털 카메라나 배터리를 만지지 않도록 주의하십시오.

케이스는 물을 이용해 충분히 세척할 수 있습니다

케이스를 사용한 후에는 카메라를 꺼낸 다음, 가능하면 빨리 깨끗한 물로 충분히 세척하십시오. 바닷물에서 사용했을 경우, 깨끗한 물에 일정시간(30분에서 1시간) 담가두어 염분을 완전히 제거하는 것이 효과적입니다.

⚠ 주의:

- 높은 수압은 누수의 원인됩니다. 케이스를 물로 세척하기 전에 디지털 카메라를 꺼내도록 하십시오.
- 사프트에 붙어있는 염분을 제거하기 위해 깨끗한 물속에서 케이스의 셔터 레버와 기타 버튼들을 조작해 보십시오. 분해하여 세척하지 않도록 주의하십시오.
- 케이스의 염분이 건조되면 기능상에 문제가 발생할 수 있습니다. 사용 후에는 반드시 염분을 완전히 제거하십시오.



케이스 건조

깨끗한 물로 케이스를 세척한 후, 소금기없는 부드러운 천으로 먼지와 물방울을 닦아낸 다음, 케이스를 통풍이 잘되는 그늘에서 완전히 건조시킵니다.

⚠ 주의:

케이스 건조시, 헤어드라이어나 기타 건조기의 뜨거운 바람, 직사광선은 피하도록 하십시오. 그렇지 않을 경우, 케이스 및 O-링이 변형되어 누수가 발생할 수 있습니다.

케이스를 닦을 때에는 흠집이 나지 않도록 주의하십시오.

6. 방수기능 유지관리

O-링은 소모성 부품입니다. 사용할 때마다 유지보수를 실시해야 합니다. 아래의 설명대로 항상 O-링 유지관리를 실시해 주십시오. 유지 관리를 소홀히 하면 누수의 원인이 됩니다.
손을 씻고 건조시킨 후 모래나 먼지가 없는지 확인한 후 실시해 주십시오.

O-링 제거

케이스를 열고, 케이스에 장착된 O-링을 제거합니다.

제거 방법

- ① O-링과 O-링 홈의 벽면 사이에 O-링 제거 및 분리용 픽을 끼워 넣습니다.
- ② 삽입한 O-링 제거 및 분리용 픽 선단을 O-링 아래 부분에 넣습니다. (O-링 제거 및 분리용 픽 선단으로 O-링 홈을 손상시키지 않도록 주의하십시오.)
- ③ 틀 밖으로 나온 O-링을 손가락으로 잡고, 케이스에서 제거합니다.

이물질 제거

먼지나 모래 등의 이물질 부착 여부와 O-링에서 먼지가 제거되었는지를 육안으로 확인합니다. 또한, 손가락 끝으로 살짝 누른 상태에서 한 바퀴 돌려봄으로써 O-링에 손상이나 균열 부분이 있는지 확인합니다. 각 O-링들은 섬유가 떨어지지 않는 깨끗한 천, 또는 찌꺼기가 남지 않는 면봉 등으로 부착된 이물질을 제거합니다. 케이스의 O-링 각 밀착면도 똑같이 부착된 모래나 이물질을 제거합니다.

⚠ 주의:

- O-링 제거나 O-링 홈의 내부 세척을 위해 뾰족한 물체를 사용할 경우, 케이스나 O-링이 손상되어 누수의 원인이 됩니다.
- 손가락 끝으로 O-링을 확인할 때는 O-링이 늘어나지 않도록 주의하십시오.
- O-링 세척을 위해 알코올, 신나, 벤젠 등과 같은 유기 용제나 화학 세제를 사용하지 마십시오. O-링이 손상되거나 성능 악화를 가속시킬 수 있습니다.

O-링 설치하기

이물질이 붙어 있는지 확인하고, O-링에 윤활제를 얇게 바른 후, 홈에 맞추어 넣으십시오. 이때 O-링이 홈 밖으로 나오지 않도록 주의합니다.

O-링에 윤활제 바르기

① 각 O-링에 올림푸스 전용 윤활제를 바릅니다.		손가락이나 O-링에 먼지 등의 부착이 없는지 확인하고, 전용의 윤활제를 손가락에 5 mm 정도 짜냅니다. (윤활제의 양은 5 mm 정도가 적절.)
② 윤활제를 골고루 펴냅니다.		손가락에 묻힌 윤활제를 3 개의 손가락으로 감싸듯이 전체적으로 바릅니다. 너무 힘주어서 O-링을 잡아당기지 않도록 주의하십시오.
③ 흠집이나 울퉁불퉁한 곳이 없는지 체크합니다.		고르게 배인 윤활제를 확인하고, 손의 감촉과 눈으로 흠집이나 울퉁불퉁한 곳이 없는지 체크하십시오. 흠집이 있으면 신품의 O-링으로 즉시 교환합니다.
④ 압착면에 윤활제를 바릅니다.		손가락에 남은 윤활제는 케이스 압착면의 청소나 윤활제 교환에 사용합니다.

⚠ 주의:

- 촬영할 때마다 케이스가 열려있는 경우라도 방수 기능의 유지관리를 항상 실시해 주십시오. 유지 관리를 소홀히 하면 누수의 원인이 됩니다.
- 케이스를 오랫동안 사용하지 않을 경우에는, O-링의 변형을 방지하기 위해 O-링을 흠에서 분리한 다음 실리콘 윤활제를 얇게 발라 깨끗한 비닐 봉투에 보관하십시오.

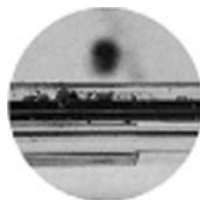
O-링의 이물질 부착 예



머리카락



섬유질



모래

소모품 교체

- O-링은 소모성 부품입니다. 케이스 사용 회수와 상관없이 O-링은 최소한 1년에 한번은 교체하는 것이 좋습니다.
- O-링의 변형은 사용 및 보관 상태에 따라 가속화될 수 있습니다. 손상이나 균열 또는 탄성이 저하된 것처럼 보이면 O-링이 1년이 지나지 않았더라도 새 것으로 교체하도록 합니다.

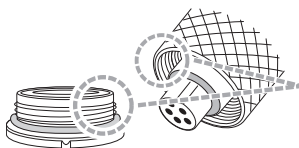
⚠ 주의:

- 올림푸스 실리콘 윤활제, 실리카겔 및 O-링을 사용해 주십시오.
- O-링을 임의로 교체하지 마십시오.
- 정기적으로 점검해 주실 것을 권장합니다.

TTL 커넥터와 TTL 케이블의 고정 나사부분 정비

TTL 커넥터에 TTL 케이블을 접속할 때에는 고정용 나사부분은, 정비를 게을리하면 바닷물 속에서의 사용에 의한 바닷물 성분 석출에 의해 나사가 떨어지지 않는 경우가 있습니다.

바닷물 속에서 사용한 후에는, 가능하면 빨리 염분을 제거하고 충분히 건조한 후에 나사부분을 면봉등으로 청소하고, 제품부속 실리콘 윤활제를 충분히 발라주십시오..



이 부분을 청소하고, 실리콘 윤활제를 발라주십시오.

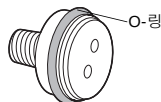
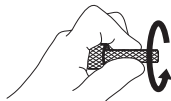
TTL 커넥터 캡 정비

TTL 커넥터 캡을 수중 케이스에서 분리한 후에는 반드시 O-링을 닦고 윤활제를 바릅니다.

정비용 어댑터를 사용하여 O-링 유니트를 TTL 커넥터 캡에서 분리합니다.



- ① 어댑터 핀을 캡측의 구멍에 맞게 끼워 주십시오.
- ② 반시계 방향으로 어댑터를 돌려, O-링 유니트를 분리해 주십시오.
- ③ O-링 유니트에 붙어 있는 O-링을 떼어내어 O-링 홈을 청소하고, O-링에 실리콘 윤활제를 바른 후 다시 유니트에 장착합니다.



* O-링 유니트를 분리할 때와 역순으로 TTL 커넥터에 설치해 주십시오.

7. 부록

제품 규격

사용 카메라 모델	올림푸스 디지털 카메라 E-620
사용 압력	수심 40m(130피트) 이내
주요 재질	본체: 폴리카보네이트. 개폐 다이얼/셔터 레버/전원 스위치 다이얼/모드 다이얼/컨트롤 다이얼/줌 다이얼/카메라대: 폴리카보네이트 수지. 포트 장착부/픽업 뷰파인더 프레임/별매의 브라켓 장착부/줌 다이얼 기어/TTL 커넥터 캡: 알루미늄. 각 조작 버튼/핸드 스트랩 고리: 스테레스 스틸. 프론트 캡: ABS 수지. O-링/LCD 내부 후드: 실리콘 고무. LCD 후드: NBR 고무.
크기	폭 208.0 mm X 높이 169.0 mm X 깊이 144.0 mm
무게	약 1,340 g (카메라 및 부품 제외)

* 올림푸스는 사전통보 없이 제품의 외형 및 규격을 변경할 수 있습니다.

PT-E06 제공 부속품

O-링 (후면 리드용): POL-E06A

O-링 (전면 리드용): POL-E06B

실리콘 윤활제: PSOLG-2

실리카겔: SILCA-5S

LCD 후드: PFUD-E06

카메라대: PTMO-E05

핸드 스트랩: PST-E02

바디 캡: PBC-E02

TTL 커넥터 캡: PTAC-E04

방수 포트

방수 포트	저항 수심	대응 렌즈	비고
PPO-E01	60 m	14-45 mm	14-45 mm 렌즈용 PPZR-E01 수중 줌 기어와 함께 포장됨.
		35 mm Macro	제공된 PPZR-E01 줌 기어는 사용할 수 없습니다. 별매의 PPZR-E04 수중 포커스 기어를 사용하면 포커스 링 회전각이 360°로 증가할 수 있습니다. 피사체 바로 앞의 배율은 x0.6 정도입니다.
PPO-E02	60 m	14-54 mm 14-54 mm II	14-54 mm, 14-54 mm II 또는 11-22 mm 렌즈용 PPZR-E02 수중 줌 기어와 함께 포장됨.
		11-22 mm	
PPO-E03	60 m	50 mm Macro	제공된 PPZR-E01 을 사용하면 수동 포커싱이 가능하지만 포커스 링 회전각은 180°로 제한됩니다. 별매의 PPZR-E04 수중 포커스 기어를 사용하면 포커스 링 회전각이 360°로 증가할 수 있습니다.
PER-E01	60 m	EC-14	EC-14 를 사용할 때는 수중 렌즈 포트와 PT-E 시리즈 케이스 사이에 장착합니다. EC-14 를 사용할 때는 렌즈의 주밍과 수동 포커스를 작동할 수 없습니다.
PPO-E04 +PER-E02	60 m	7-14 mm	7-14 mm 렌즈용 PPZR-E03 수중 줌 기어는 PER-E02 와 함께 제공됩니다.
PPO-E04	60 m	8 mm Fisheye	별매의 PPZR-E05 수중 포커스 기어를 사용하면 포커스 링 회전각이 360°까지 증가할 수 있습니다.
		9-18 mm mm Fisheye	줌 기능은 별매 PPZR-E07 전용 기어를 사용하여 작동하실 수 있습니다.
PPO-E05	40 m	14-42 mm	14-42 mm 렌즈용 PPZR-E06 수중 줌 기어와 함께 포장됨.

방수 포트를 PT-E06과 결합하여 사용할 때는 사용 가능한 최대 수심이 40 m로, 방수 포트용 수심과 같습니다. 이는 PT-E06이 최대 60 m의 수심에서 사용할 수 있다고 명시되어 있어도 사실입니다.

별매 부속품

실리콘 윤활제: PSOLG-3

수중 광섬유 케이블: PTCB-E02

TTL 케이블: PTCB-E01

하수 케이블: PHCB-01

브래킷: PTBK-E01, PTBK-E02

* PTBK-E01과 케이스를 결합할 때, 나사 부분에 전용 와셔가 필요합니다.

전용 와셔가 함께 제공되지 않은 PTBK-E01의 경우, 고객 지원 센터로 연락해 주시기 바랍니다.

부속품은 구입하실 수 있습니다. 상기에 기술한 이외의 제품 모델은 사용하지 않습니다.



<http://www.olympus.com/>

OLYMPUS IMAGING CORP.

Shinjuku Monolith, 3-1 Nishi-Shinjuku 2-chome, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan

OLYMPUS KOREA CO., LTD.

5F Kyoung-Am BLDG., 157-27 Samsung-dong, Kangnam-gu, Seoul, 135-090, KOREA

<http://www.olympus.co.kr>

Tel. 1544-3200

A/S 센터 안내

제품 사용 중에 고장이 발생하였을 경우에는 제품에 첨부된 보증서를 지참하시고 가까운 OLYMPUS A/S 센터에 상담하여 주십시오.

올림푸스한국(주) 고객센터 : 1544-3200

- 서울** 올림푸스한국(주) 서울시 강남구 역삼동 637-31번지 강남빌딩(올림푸스 A/S 센터)
TEL. 1544-3200
강남직매장 A/S센터 서울시 강남구 역삼동 814-5번지 흥국생명 강남사옥 1층
TEL. 02-2135-3577 FAX. 02-2135-3504
중앙 A/S센터 서울시 중구 남대문로 3가 26-3번지 2,3층
TEL. 02-754-1341 FAX. 02-754-1343
용산 A/S센터 서울시 용산구 한강로 3가 2-8 나진상가 12동 3층 특1호
TEL. 02-711-7906~7 FAX. 02-716-7907
송파 A/S센터 서울시 송파구 가락2동 160-8번지 신광빌딩 6층
TEL. 02-443-5200 FAX. 02-400-1460
광진 A/S센터 서울시 광진구 모전동 181-1 바롬빌딩 2층 202호
TEL. 02-458-9175 FAX. 02-458-4592
- 경기** 인천 A/S센터 인천시 계양구 작전동 853-10 기서빌딩 3층
TEL. 032-543-3581 FAX. 032-543-3588
수원 A/S센터 경기도 수원시 팔달구 매산로 2가 40-1번지 동인트루빌오피스텔 1층 110호
TEL. 031-269-0089 FAX. 031-269-8440
일산 A/S센터 경기도 고양시 일산 동구 백석동 1330번지 브라운스톤 상가 108호
TEL. 031-905-8626 FAX. 031-904-9077
- 강원** 춘천 A/S센터 강원도 춘천시 효자2동 608-27번지
TEL. 033-241-4501 FAX. 033-241-7501
- 광주** 광주 A/S센터 광주시 동구 금남로 1가 1번지 전일빌딩 1층
TEL. 062-232-3360 FAX. 062-232-3350
- 대전** 대전충구 A/S센터 대전시 중구 은행동 157-2번지 화원빌딩 1층
TEL. 042-254-1110 FAX. 042-257-4312
- 천안** 천안 A/S센터 충청남도 천안시 신부동 319-37 승지빌딩 1층
TEL. 041-567-4001 FAX. 041-568-4002
- 대구** 대구 중앙 A/S센터 대구시 중구 동문동 1-20번지 2층
TEL. 053-716-7163 FAX. 053-716-7170
대구 A/S센터 대구시 중구 북성로 1가 2-5번지 2층
TEL. 053-426-8430 FAX. 053-256-4586
- 부산** 부산충구 A/S센터 부산시 중구 광복동 1가 17-4번지
TEL. 051-256-3760 FAX. 051-256-3762
부산서면 A/S센터 부산시 부산진구 법천동 849-1번지 도문빌딩 6층
TEL. 051-809-2600 FAX. 051-807-1245
- 울산** 울산 A/S센터 울산시 남구 삼산동 1641-1번지 전자랜드 울산점 3층
TEL. 052-274-8882 FAX. 052-271-7447

Door To Door

택배 A/S 전국 확대 실시!

Olympus 제품, 무상 수리 기간에 해당하는 제품에 한해 전국 어디서나 무상 택배 서비스를 실시하고 있습니다.



MEMO



MEMO



MEMO

OLYMPUS[®]

<http://www.olympus.com/>